

救急搬送データから見る  
日常生活事故の実態

令和5年

東京消防庁  
防災部防災安全課

令和6年10月作成

# 目 次

データ・用語	1
第1部 令和5年の概要	
1 年別発生状況	2
2 年齢層別搬送人員	2
3 月別・時間帯別搬送人員	3
4 事故種別ごとの搬送人員	4
5 発生場所別搬送人員	4
6 初診時程度別搬送人員	5
第2部 種別ごとに見る事故	6
1 ころぶ	8
2 落ちる	10
3 ぶつかる	12
4 ものがつまる等	14
5 切る・刺さる	16
6 はさむ・はさまれる	18
7 やけど	20
8 かまれる・刺される	22
9 おぼれる	24
第3部 年齢から見た事故	
1 年齢区分から見た事故	
(1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故	26
① 0歳～5歳	26
② 0歳	30
③ 1歳	32
④ 2歳	34
⑤ 3歳～5歳	36
(2) 6歳～12歳（小学生）の事故	38
(3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故	41
(4) 19歳～64歳の事故	44
(5) 65歳以上（高齢者）の事故	47
① 65歳以上（高齢者）	47
② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）	52
2 年齢層別での比較	
(1) 年別搬送人員での比較	55
(2) 事故種別（その他、不明を除く）ごとの比較	56
(3) 時間帯別での比較	57

#### 第4部 初診時程度（死亡・重篤）から見た事故

1	年別発生状況	58
2	月別搬送人員	58
3	事故種別ごとの搬送人員	59
4	時間帯別・事故種別ごとの搬送人員	60
5	年代別・発生場所の搬送人員	60
6	事故種別ごとに見る死亡・重篤事故	62
(1)	ものがつまる等	62
(2)	おぼれる	63
(3)	落ちる	64
(4)	ころぶ	65
(5)	切る・刺さる	66
(6)	ぶつかる	67
(7)	はさむ・はさまれる	68
(8)	やけど	69

# データ・用語

## 日常生活事故

救急事故のうち、運動競技事故、自然災害事故、水難事故、労働災害事故、一般負傷に該当するものをいう。

## 分析データ

令和元年～令和5年中の救急搬送データ（救急搬送したもの）における日常生活事故に該当するデータ

## 初診時程度

- ✓死亡・・・・・・・・初診時死亡が確認されたもの
- ✓重篤・・・・・・・・生命の危険が切迫しているもの
- ✓重症・・・・・・・・生命の危険が強いと認められたもの
- ✓中等症・・・・・・・・生命の危険はないが入院を要するもの
- ✓軽症・・・・・・・・軽易で入院を要しないもの

## 関連器物

受傷原因に直接または間接的に影響があった器物のことをいう。

## 事故種別

- ✓落ちる・・・・・・・・倒れた際に高低差の移動を伴って受傷したもの
- ✓ころぶ・・・・・・・・倒れた際に高低差の移動を伴わず受傷したもの
- ✓ものがつまる等・・・・・・・・食物または、食物以外のものを飲み込んで受傷したもの（目・耳・鼻へ異物が入ったものを含む）
- ✓ぶつかる・・・・・・・・人と人、人と物との衝突により受傷したもの
- ✓はさむ・はさまれる・・・・・・・・物体間または物体内に挟まれたもの
- ✓やけど・・・・・・・・高温の液体、気体等により受傷したもの
- ✓切る・刺さる・・・・・・・・刃物や鋭利物等により受傷したもの
- ✓かまれる・刺される・・・・・・・・動物や虫などにかまれた、刺された等により受傷したもの
- ✓おぼれる・・・・・・・・浴槽、プール、河川等で溺れたもの

## 年齢区分

- ✓乳幼児・・・・・・・・5歳以下
- ✓小学生・・・・・・・・6歳以上13歳未満
- ✓中学生・高校生・・・・・・・・13歳以上19歳未満
- ✓高齢者・・・・・・・・65歳以上
- ✓前期高齢者・・・・・・・・65歳以上75歳未満
- ✓後期高齢者・・・・・・・・75歳以上

## 東京消防庁管内

東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

# 第1部 令和5年の概要

## 1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、日常生活における事故により令和元年から令和5年までの5年間に**688,906人**が救急搬送されています。

令和5年中は、153,602人が救急搬送されており、増加傾向にあります（図1-1）。

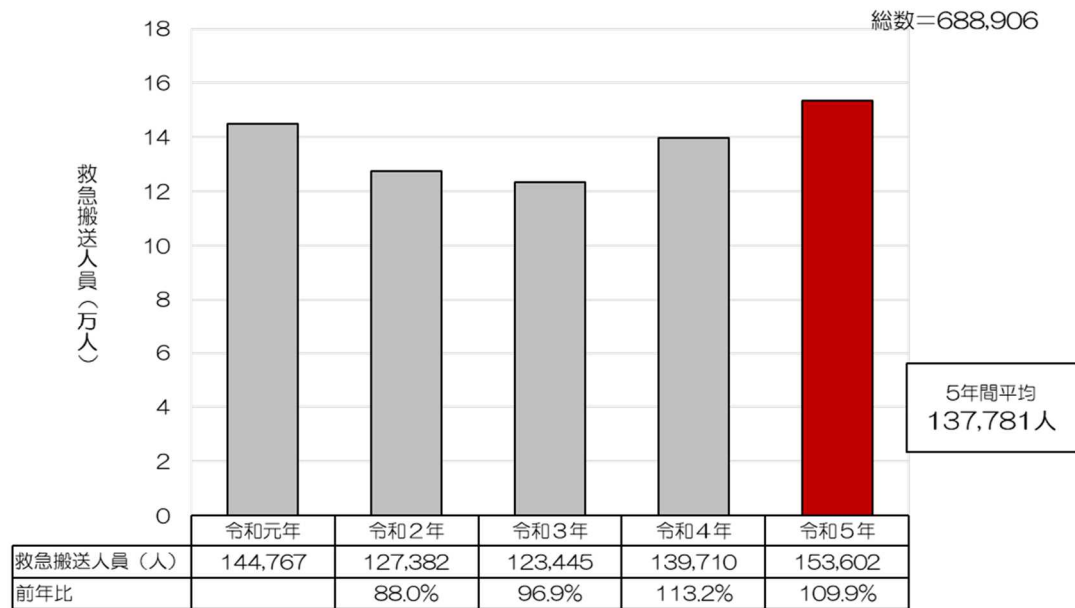


図1-1 年別の救急搬送人員

## 2. 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別の救急搬送人員を見ると、乳幼児と70代以上に多く発生しています（図1-2）。

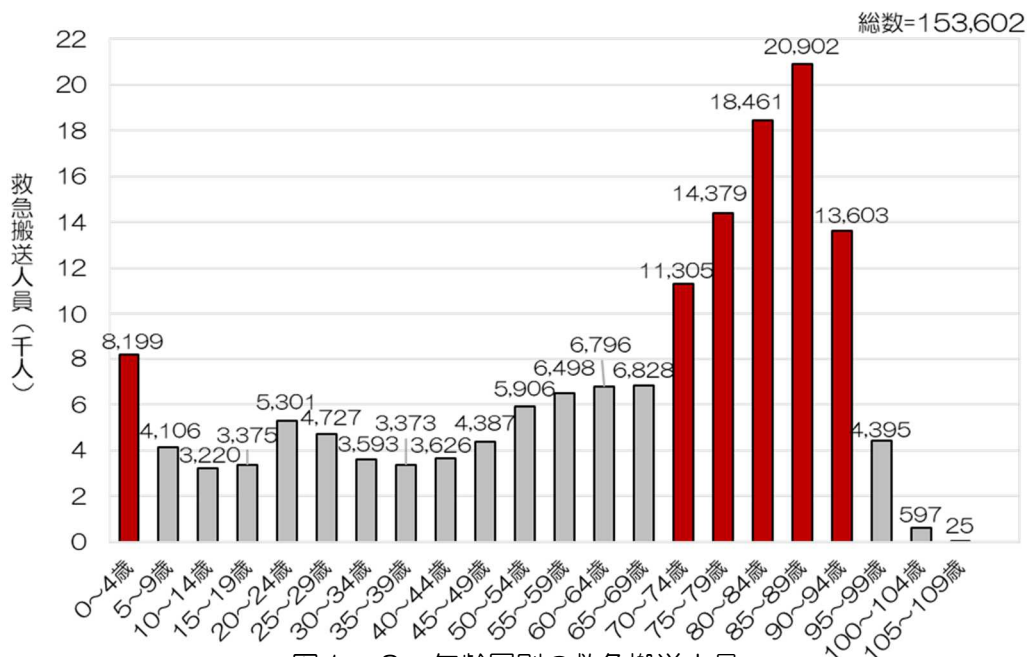


図1-2 年齢層別の救急搬送人員

### 3. 月別・時間帯別搬送人員

月別に見ると、12月の14,735人が最も多く、次いで7月に14,696人が救急搬送されています（図1-3）。

時間帯別で見ると、昼間の時間帯に9,000人以上が救急搬送されています（図1-4）。

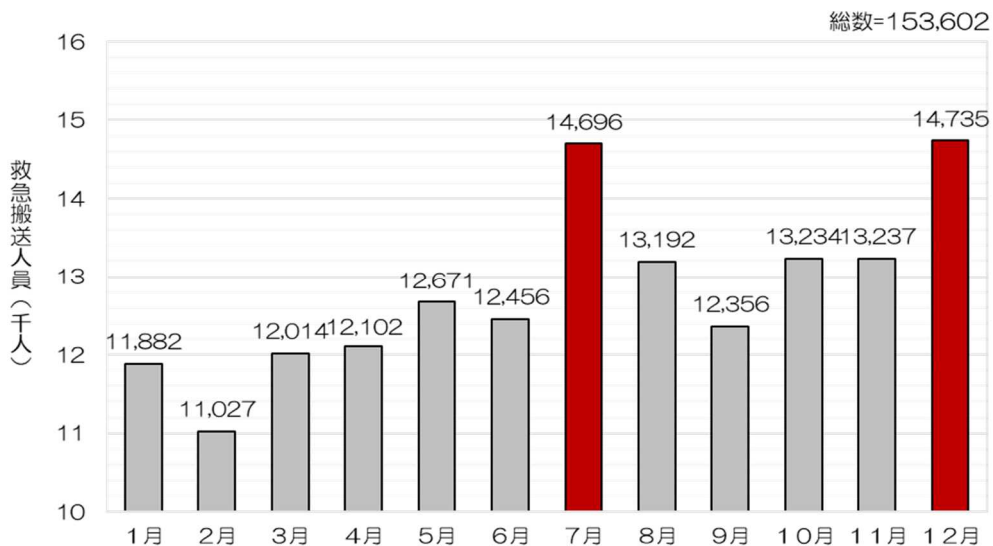


図1-3 月別の救急搬送人員

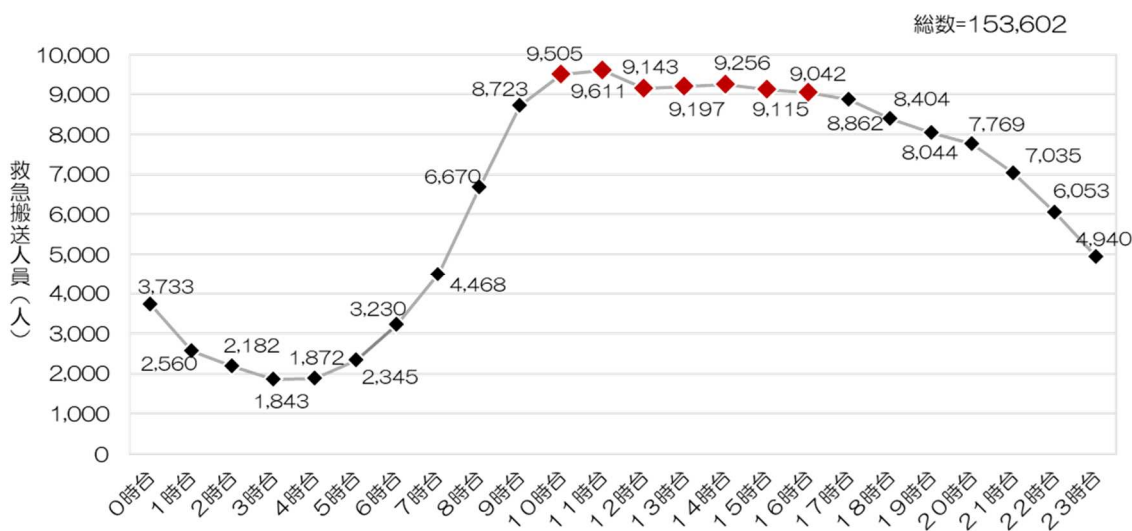


図1-4 時間帯別の救急搬送人員

#### 4. 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故が全体の約6割を占め最も多くなっています。  
 なお、事故種別ごとの概要については第2部で取り上げています（図1-5）。

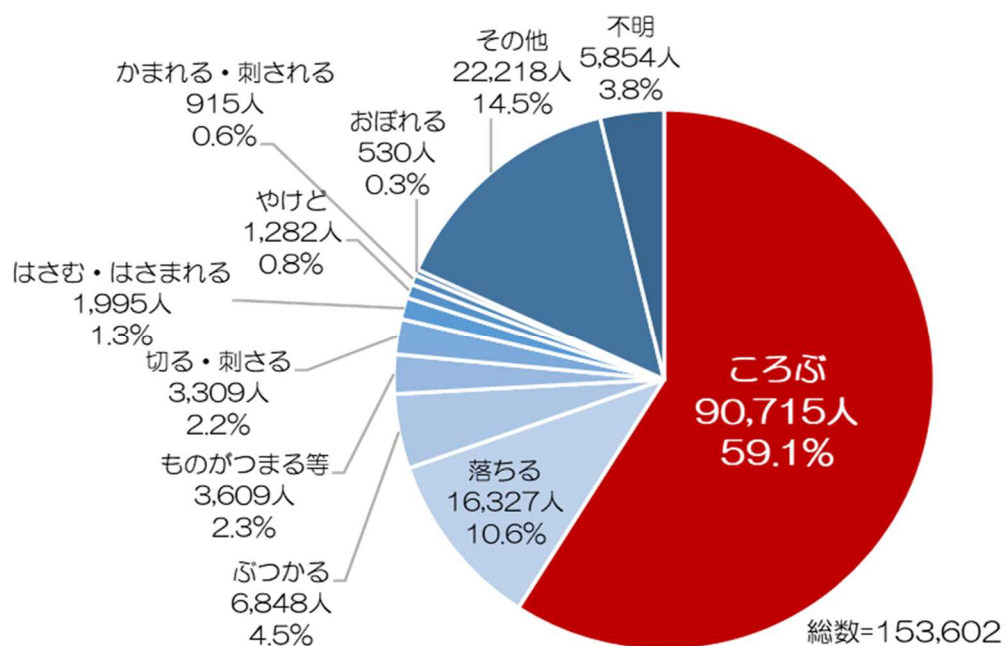


図1-5 事故種別ごとの救急搬送人員

#### 5. 発生場所別搬送人員

半数以上が住宅等居住場所で発生しています（図1-6）。

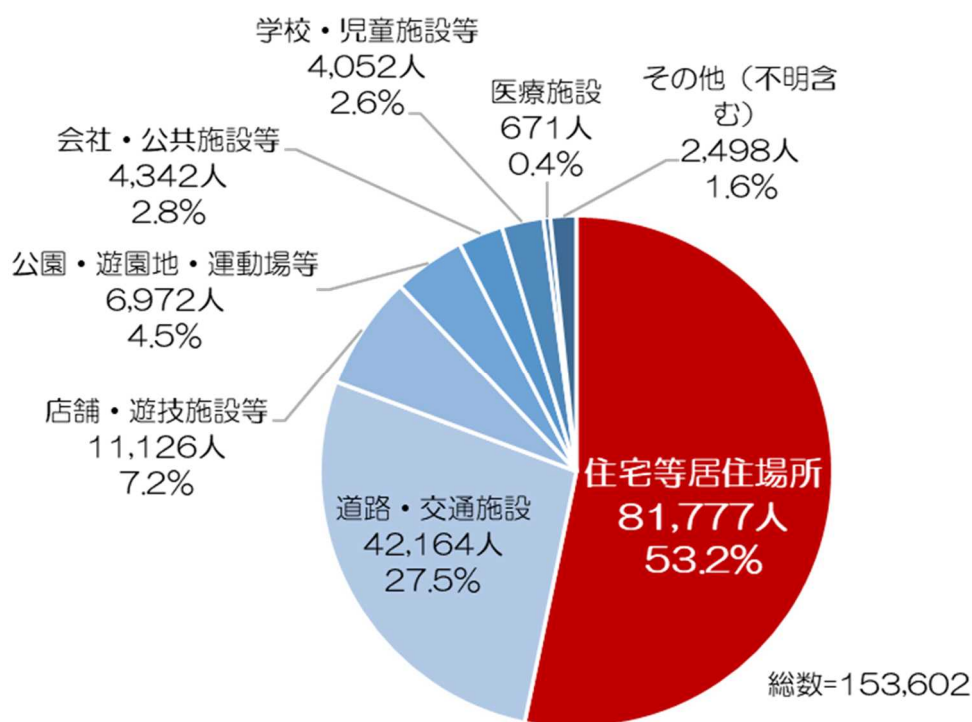


図1-6 発生場所別の救急搬送人員

## 6. 初診時程度別搬送人員

3割以上が入院を必要とする中等症以上で、生命に危険を及ぼすような事故も発生しています（図1-7）。

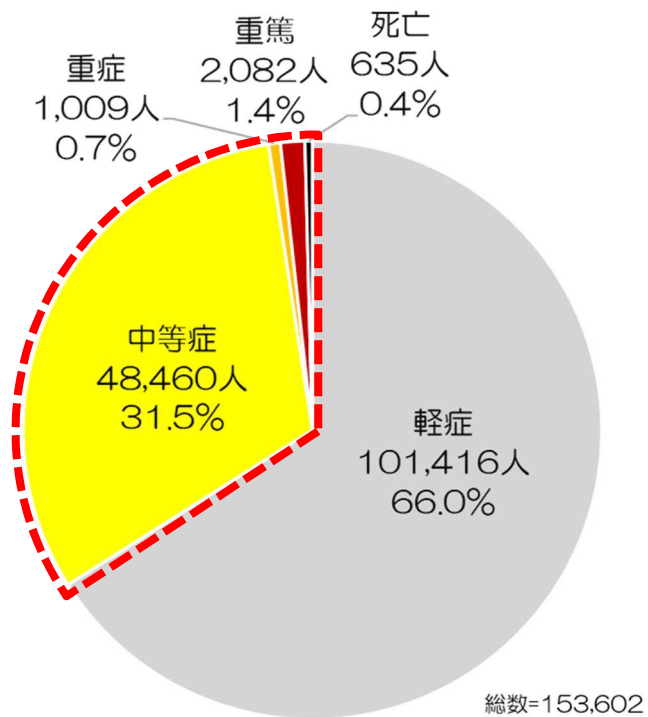


図1-7 初診時程度別の救急搬送人員



## 第2部 種別ごとに見る事故

ここでは、日常生活における事故を「ころぶ」「落ちる」「ぶつかる」「ものがつまる等」「切る・刺さる」「はさむ・はさまれる」「やけど」「かまれる・刺される」「おぼれる」の種別ごとに取り上げています。

令和5年中で最も多いのは「ころぶ」事故で、全体（※その他、不明を除く）の7割以上となっています（図2-1）。

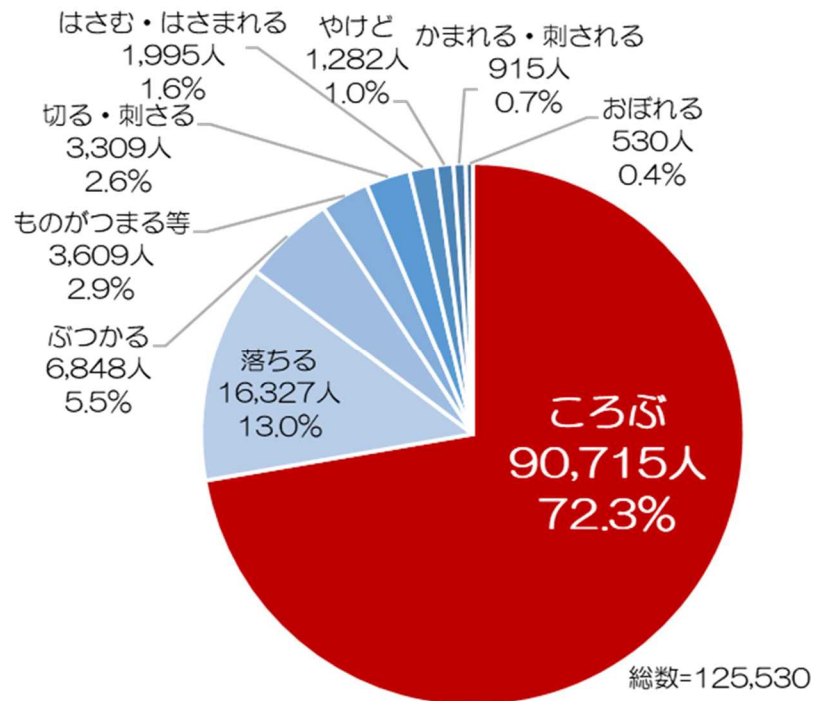


図2-1 事故の種類別構成割合（その他、不明を除く）

<高齢者>

- ・高齢になるにつれてころび事故とおぼれる事故の割合が増えています（図2-2、図2-3）。

<乳幼児>

- ・ものが詰まったり、ものを誤って飲み込む事故の割合が多くなっています（図2-3）。
- ・やけどの割合も多くなっています（図2-3）。

<10代>

- ・ぶつかる事故の割合が多くなっています（図2-3）。

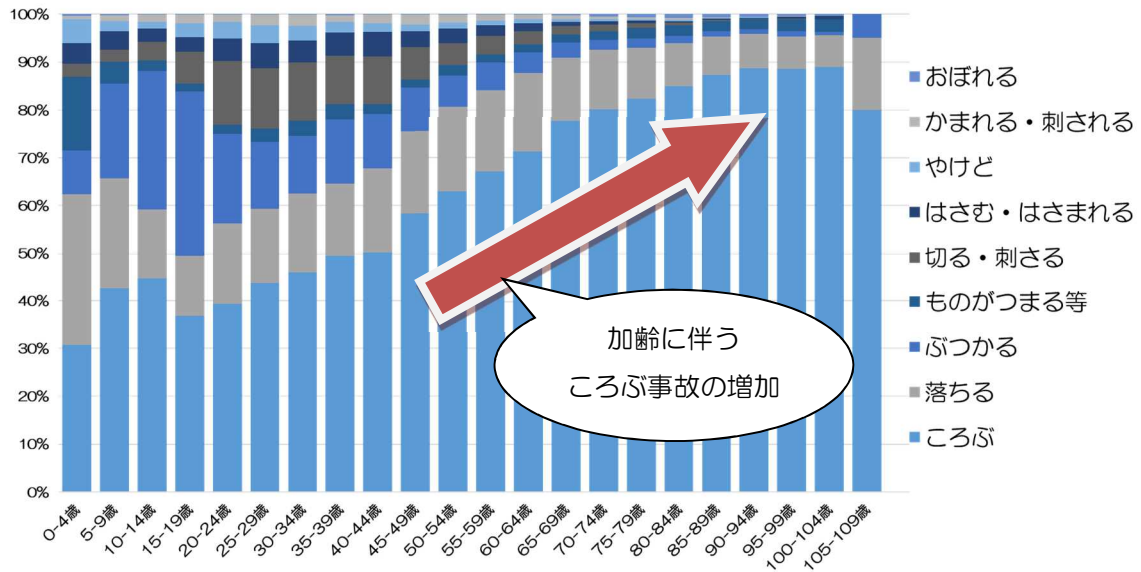


図2-2 年齢別の事故の種類別構成割合（その他、不明を除

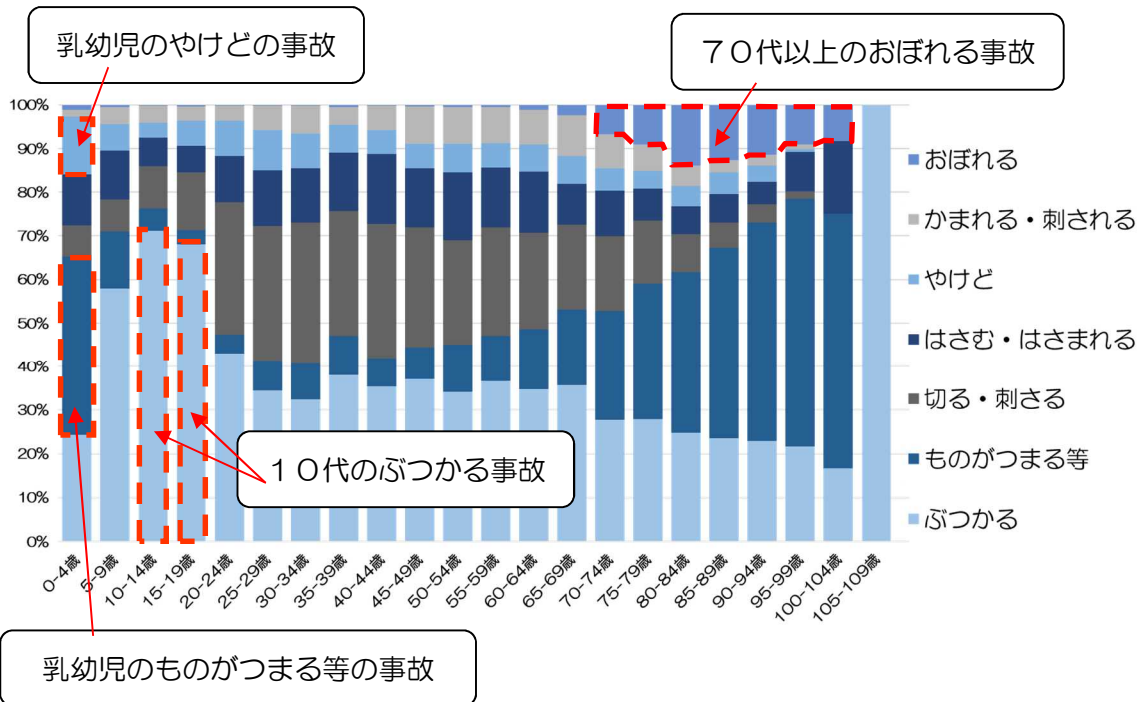


図2-3 年齢別の事故の種類別構成割合（ころび、落ちる、その他、不明を除く）

# 1. ころぶ

## (1) 年別搬送人員

「ころぶ」事故は日常生活における事故の中で最も多く、搬送人員数の推移が事故全体の搬送人員の推移に近いものになっています。

令和5年中は90,715人が救急搬送されています（図2-4）。

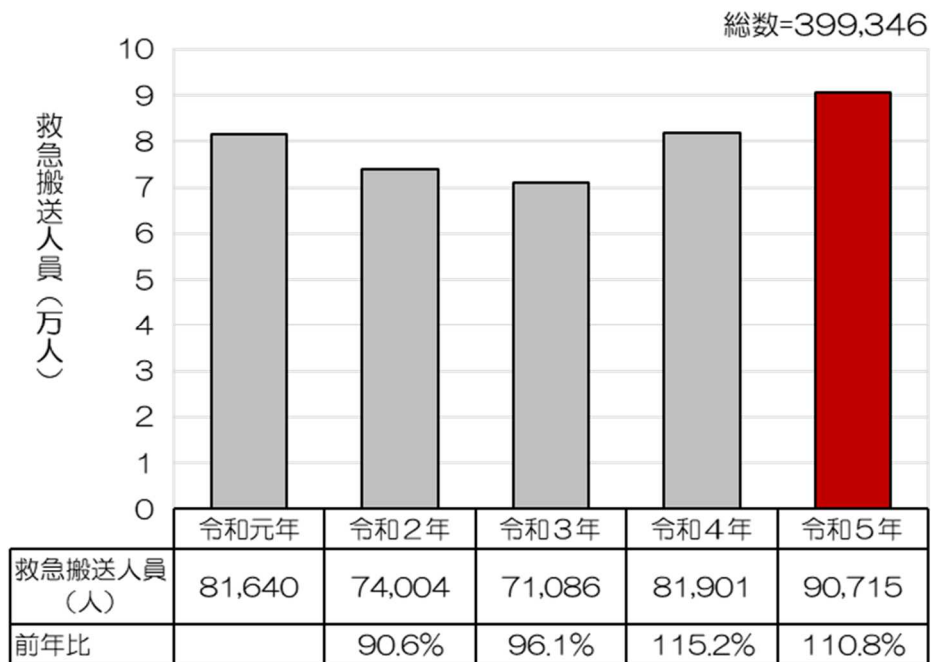


図2-4 年別の救急搬送人員

## (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、**高齢者**が多く救急搬送されています。特に70歳を越えると急激に増加していきます（図2-5）。

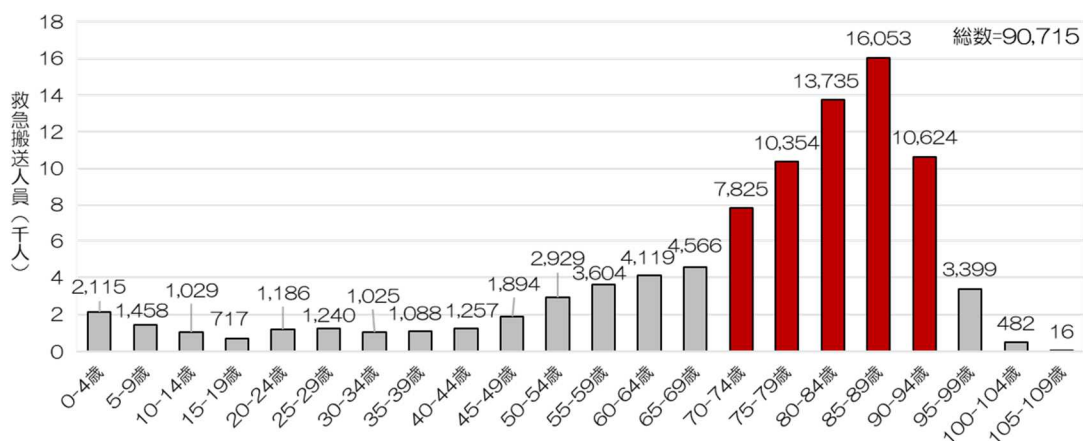


図2-5 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く、次いで道路・交通施設となっています（図2-6）。

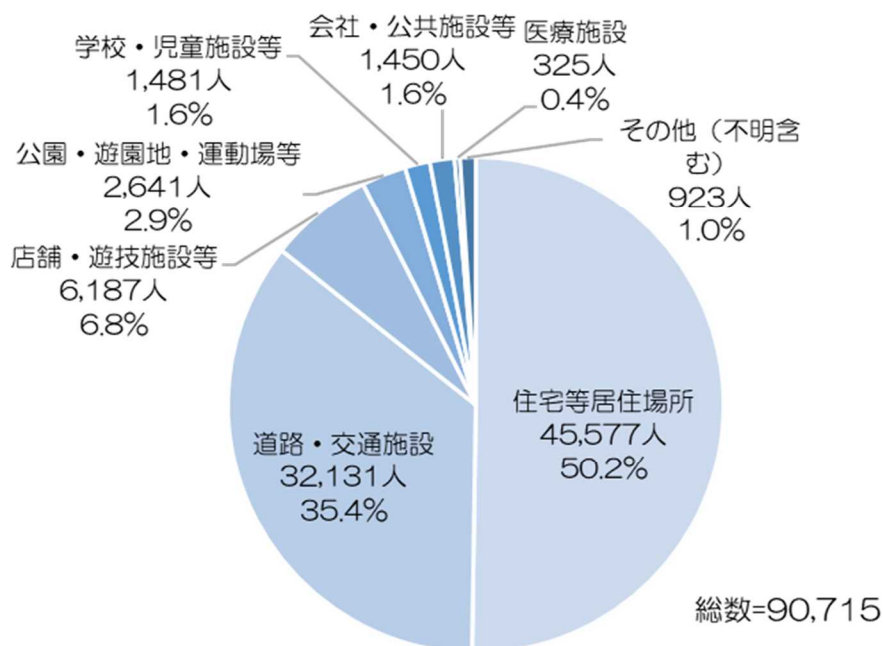


図2-6 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

3割以上が入院を要する中等症以上と診断されています（図2-7）。

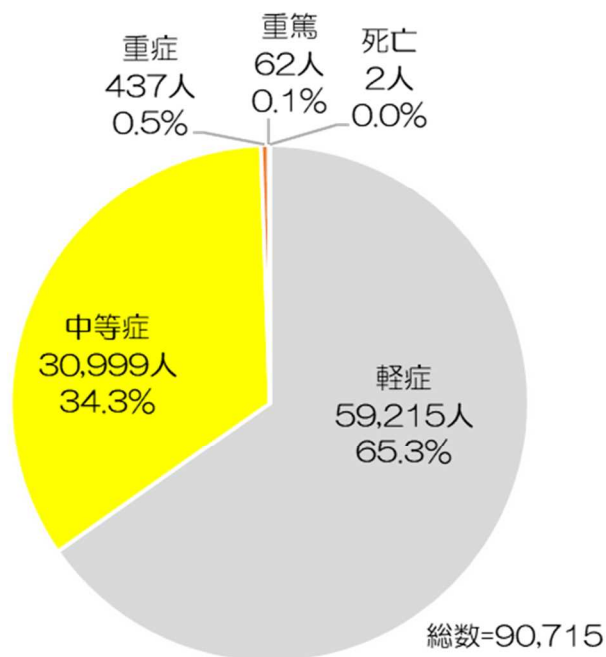


図2-7 初診時程度別の救急搬送人員

## 2. 落ちる

### (1) 年別搬送人員

階段や脚立などから「落ちる」事故で、令和5年中に16,327人が救急搬送されています（図2-8）。

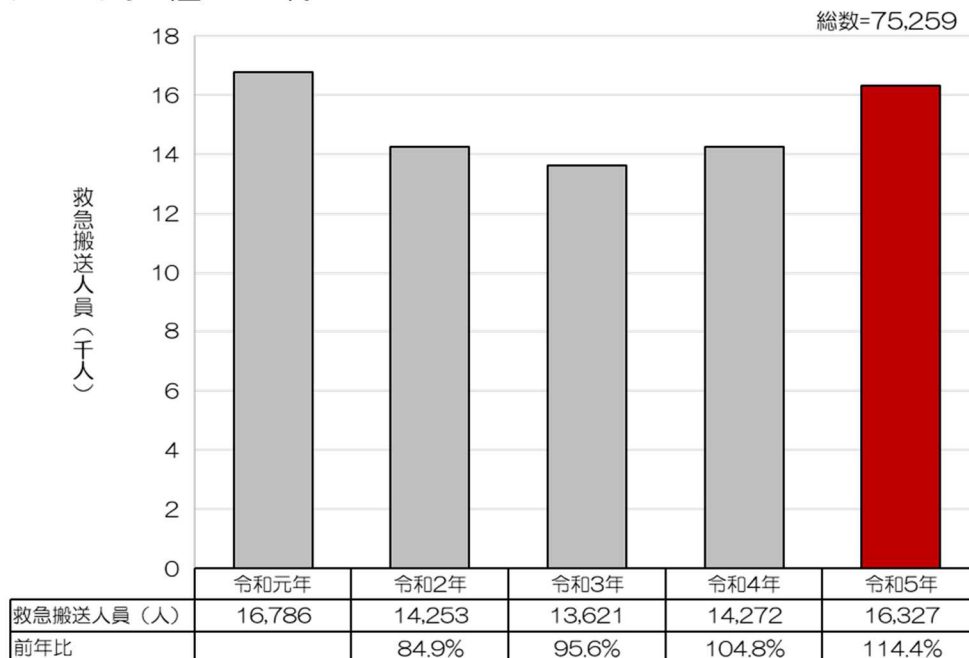


図2-8 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが突出して多く、2,188人が救急搬送されています（図2-9）。

ベッド等から落ちる事故や、人に抱かれていて落ちる事故も多く発生しています。

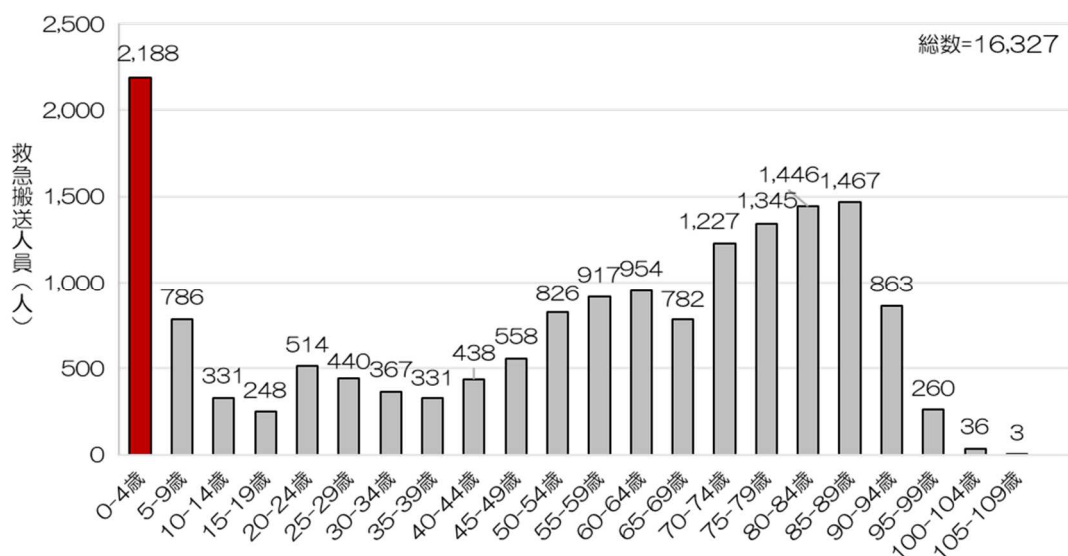


図2-9 年齢層別の救急搬送人

### (3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く約6割となっています。

次いで、道路・交通施設、店舗・遊技施設等で多く発生しています(図2-10)。

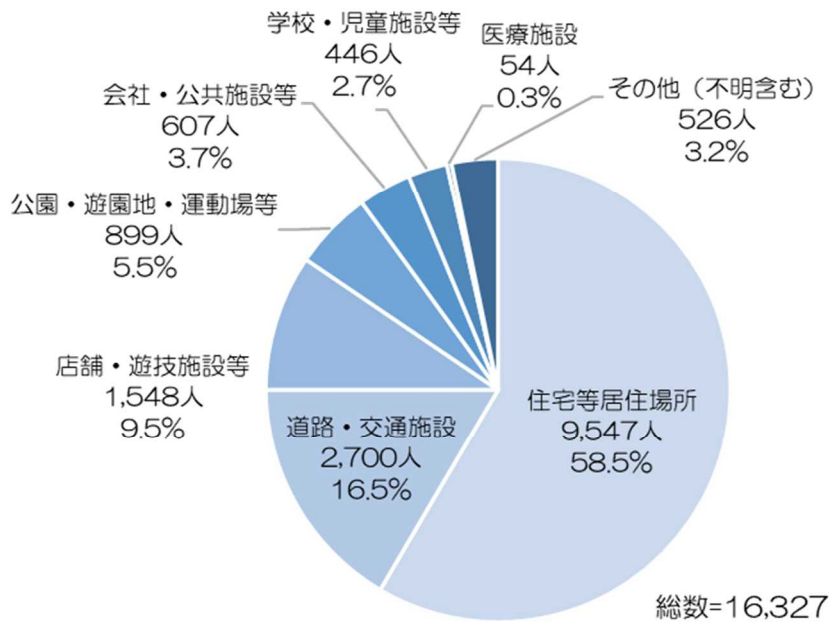


図2-10 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

「ころぶ」事故と同様に3割以上が中等症以上と診断されています(図2-11)。

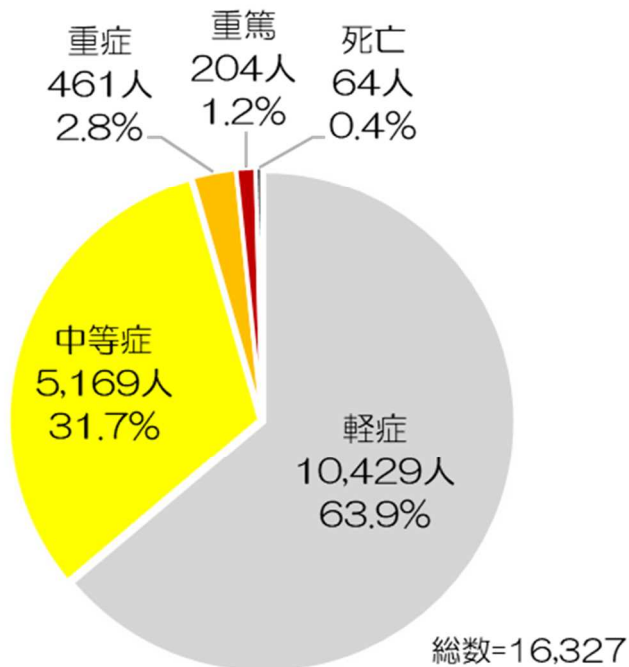


図2-11 初診時程度別の救急搬送人員

### 3. ぶつかる

#### (1) 年別搬送人員

飛んできたボールや走っている人やものに「ぶつかる」事故で、令和5年中に6,848人が救急搬送されています（図2-12）。

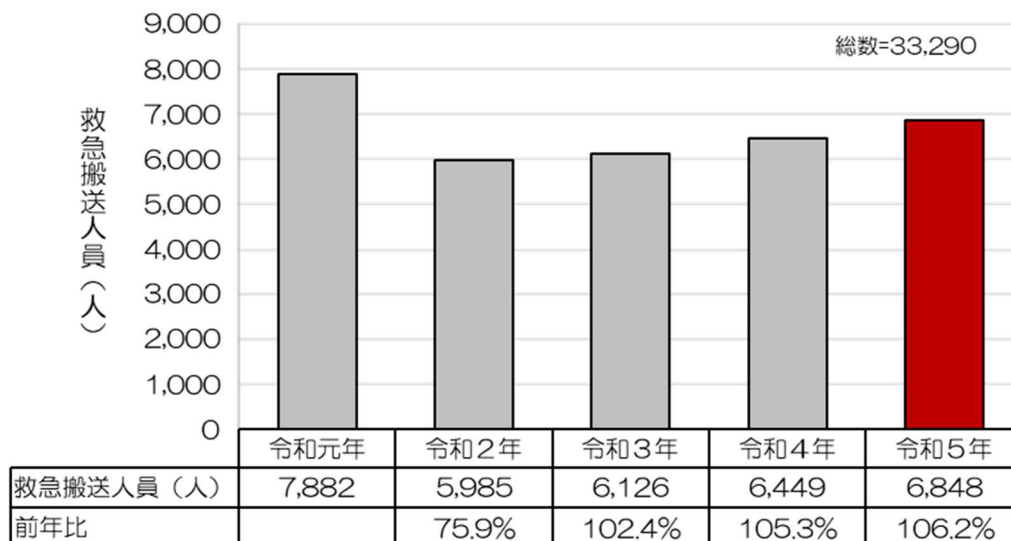


図2-12 年別の救急搬送人員

#### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層別（5歳単位）では、10代以下で多くなっています。加齢とともに減少する傾向が見られます（図2-13）。

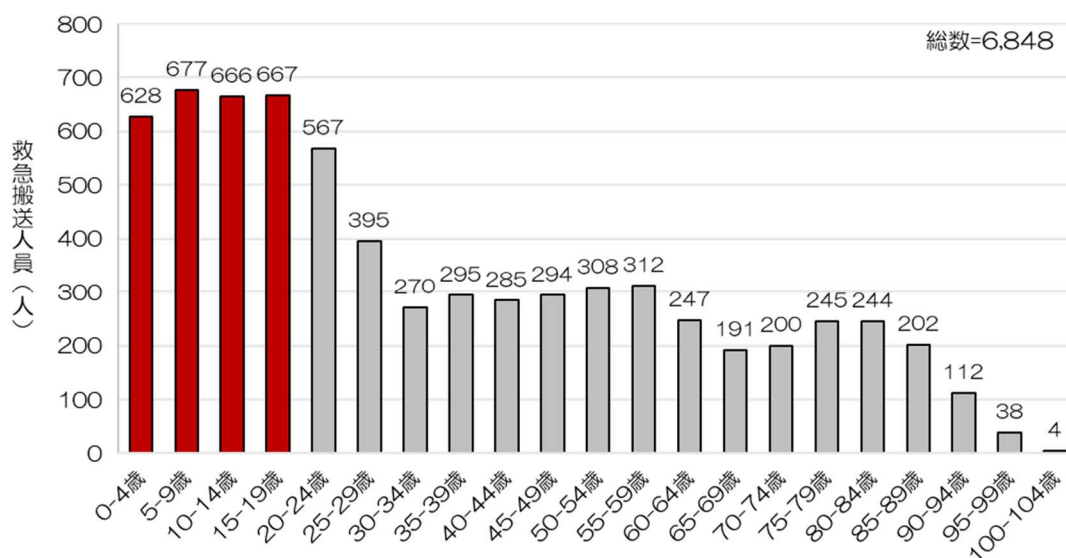


図2-13 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多くなっています。

次いで公園・遊園地・運動場等や道路・交通施設での事故が多く発生しています(図2-14)。

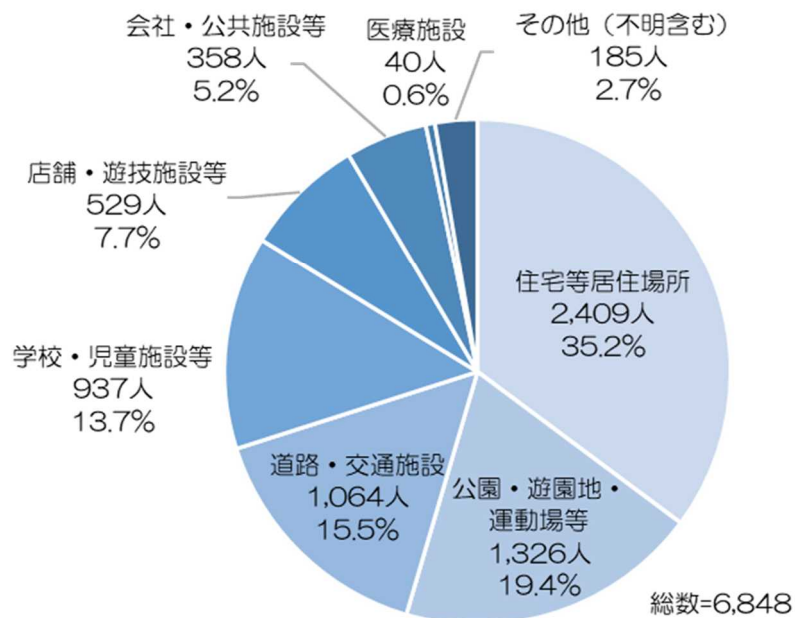


図2-14 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、全体の8割以上が軽症ですが、重症や重篤と診断される事故も発生しています(図2-15)。

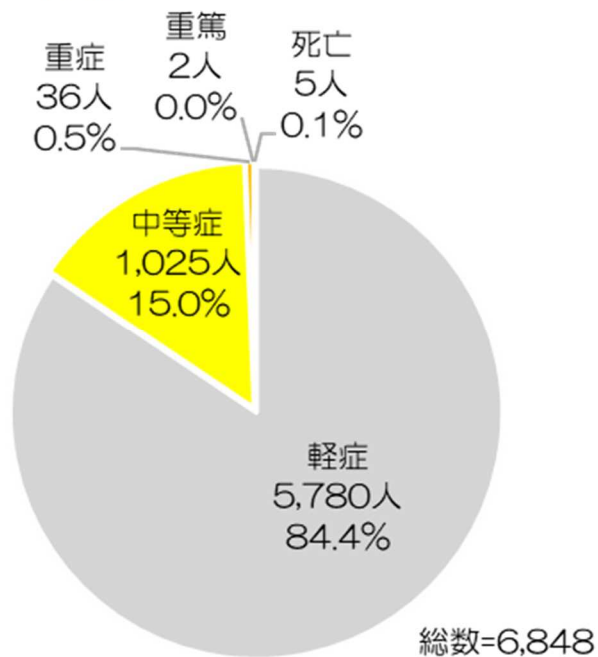


図2-15 初診時程度別の救急搬送人員



## 4. ものがつまる等

### (1) 年別搬送人員

食べ物を喉につまらせたり、たばこや玩具などを飲み込んでしまう事故により、令和5年中は**3,609**人が救急搬送されています（図2-16）。

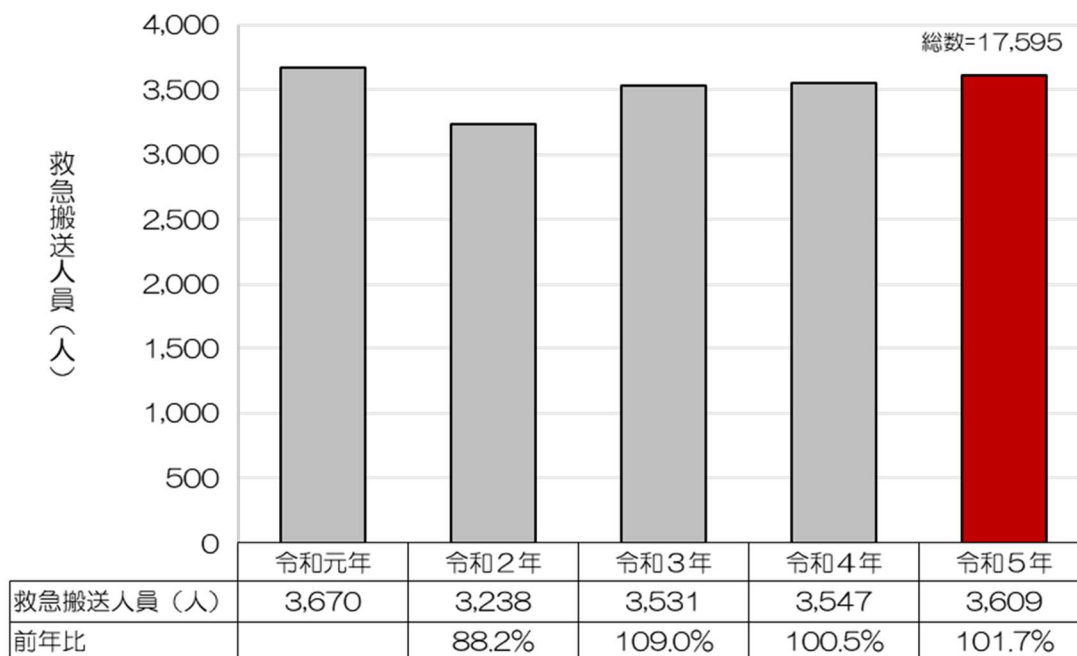


図2-16 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、**1,059**人が救急搬送されています（図2-17）。

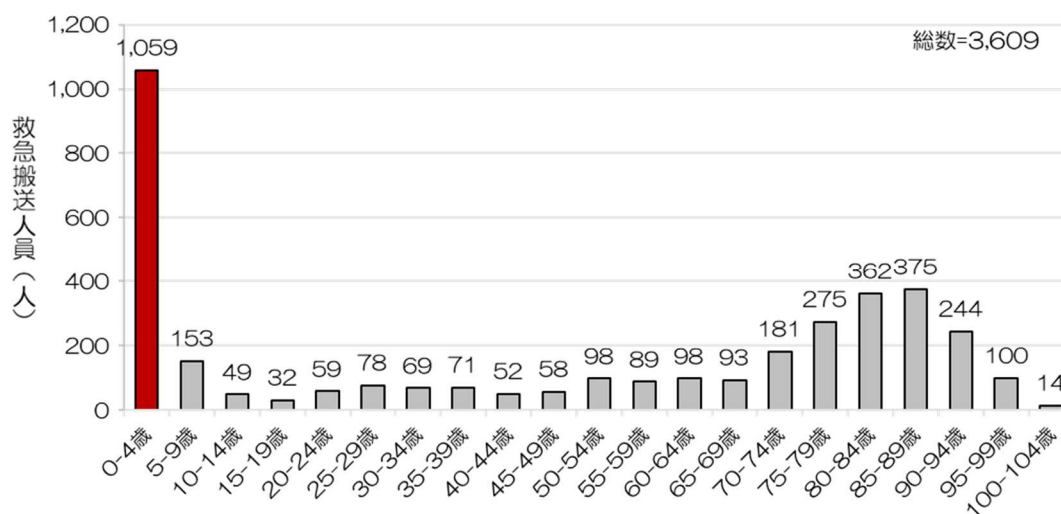


図2-17 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が約9割と最も多くなっています（図2-18）。

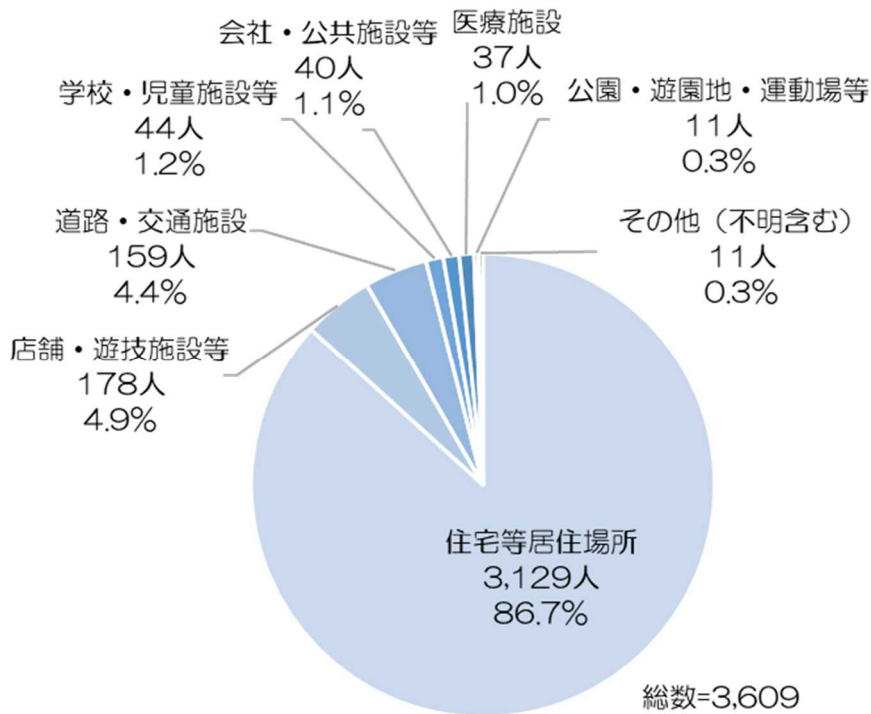


図2-18 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

3割以上が中等症以上と診断されています。

「ころぶ」、「落ちる」事故よりも重篤・死亡の割合が多くなっています（図2-19）。

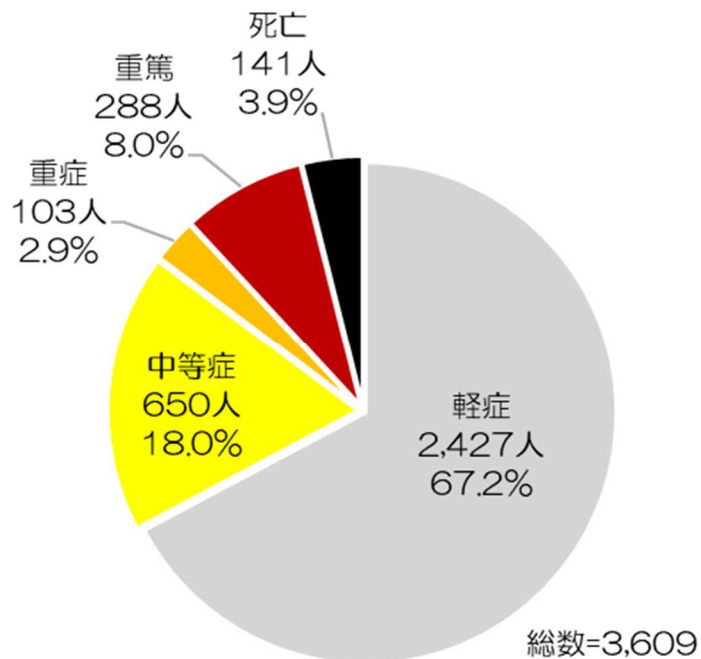


図2-19 初診時程度別の救急搬送人員

## 5. 切る・刺さる

### (1) 年別搬送人員

刃物で切ったり、何かが刺さったりする事故で、令和5年中に**3,309**人が救急搬送されています（図2-20）。

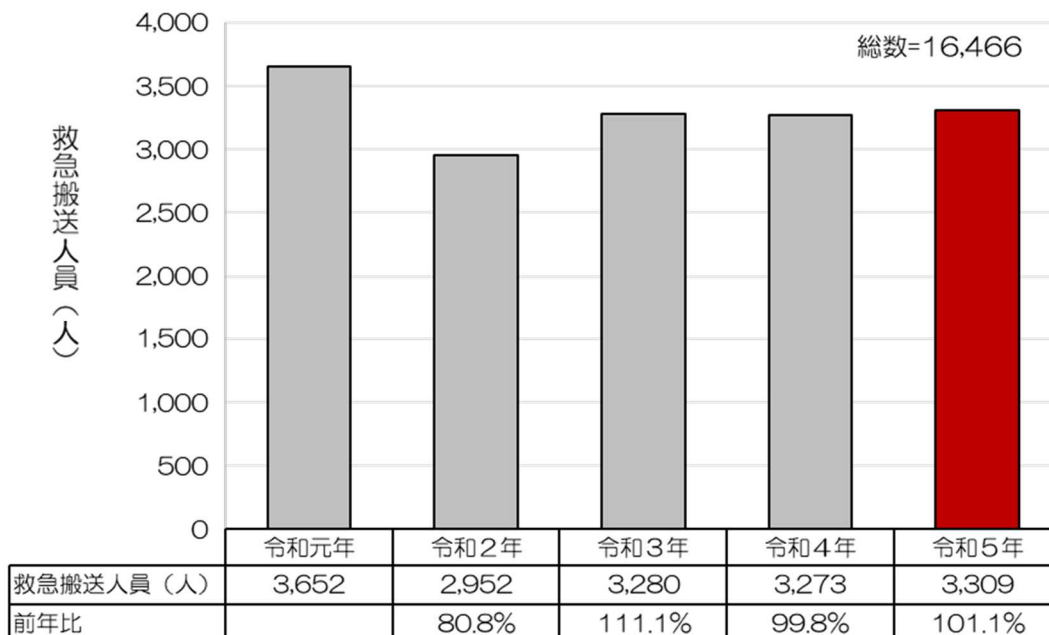


図2-20 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、**20代**が多くなっています（図2-21）。

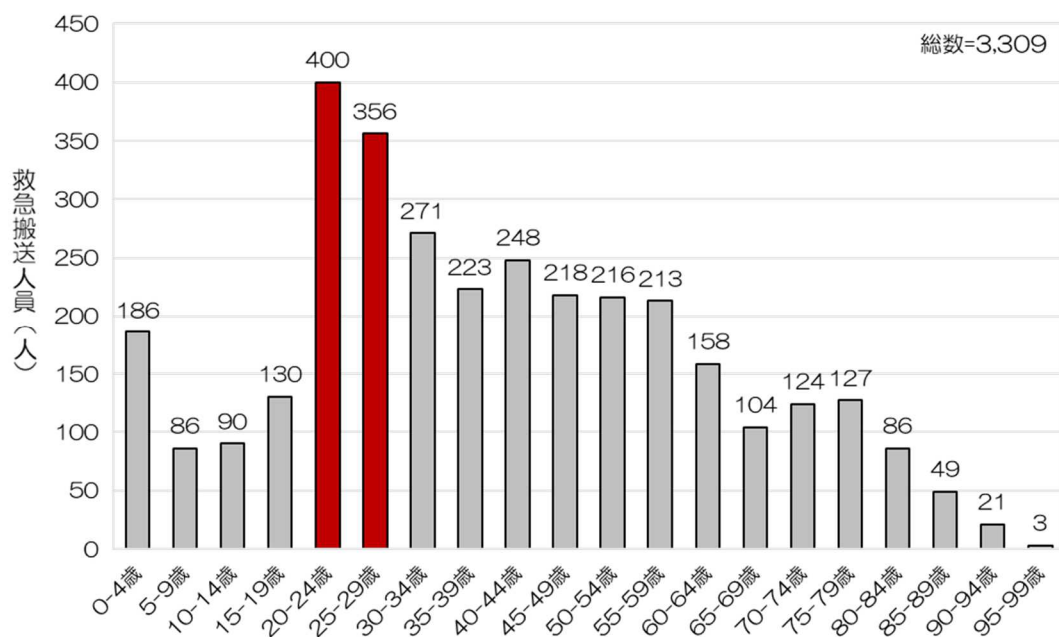


図2-21 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が最も多く6割以上を占めています。

次いで店舗・遊技施設等、会社・公共施設等が多くなっています(図2-22)。

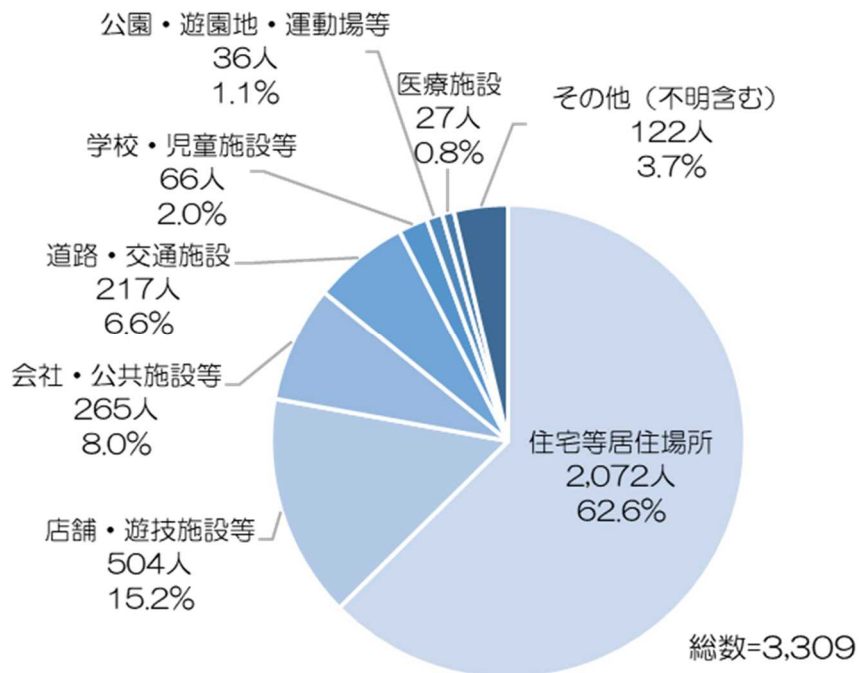


図2-22 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

全体の約9割が軽症ですが、重症や重篤、死亡と診断される事故も発生しています(図2-23)。

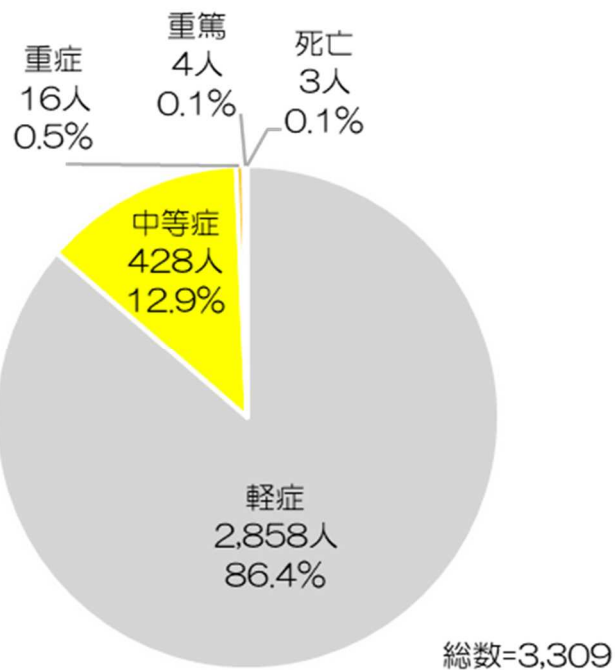


図2-23 初診時程度別の救急搬送人員

## 6. はさむ・はさまれる

### (1) 年別搬送人員

ドアや機械、鉄道車両の戸袋などにはさまれたり巻き込まれたりする事故で、令和5年中に1,995人が救急搬送されています（図2-24）。

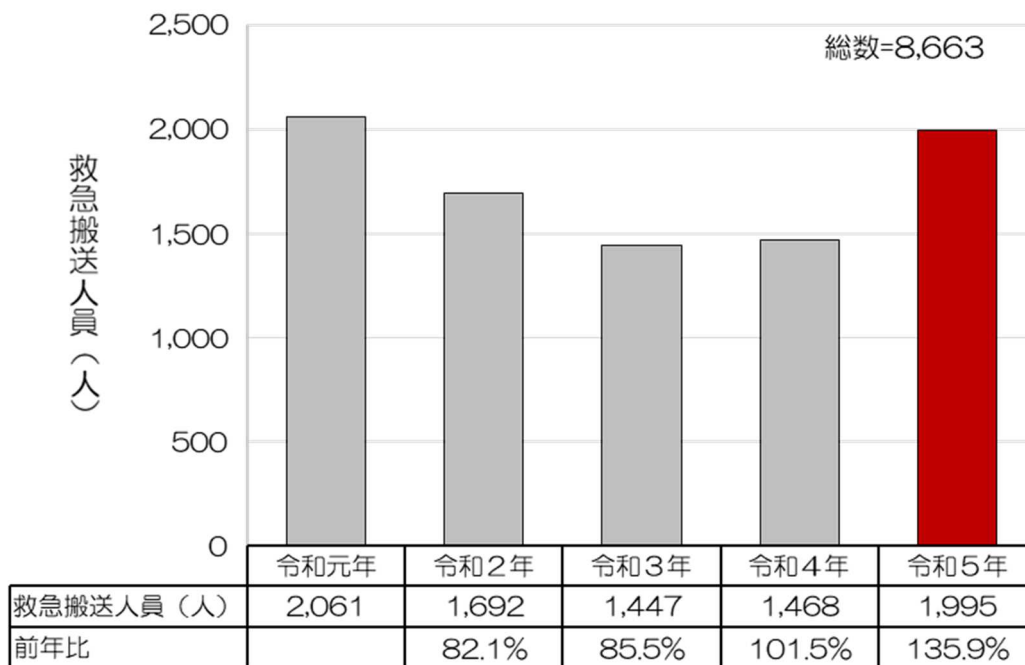


図2-24 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く299人が救急搬送されています（図2-25）。

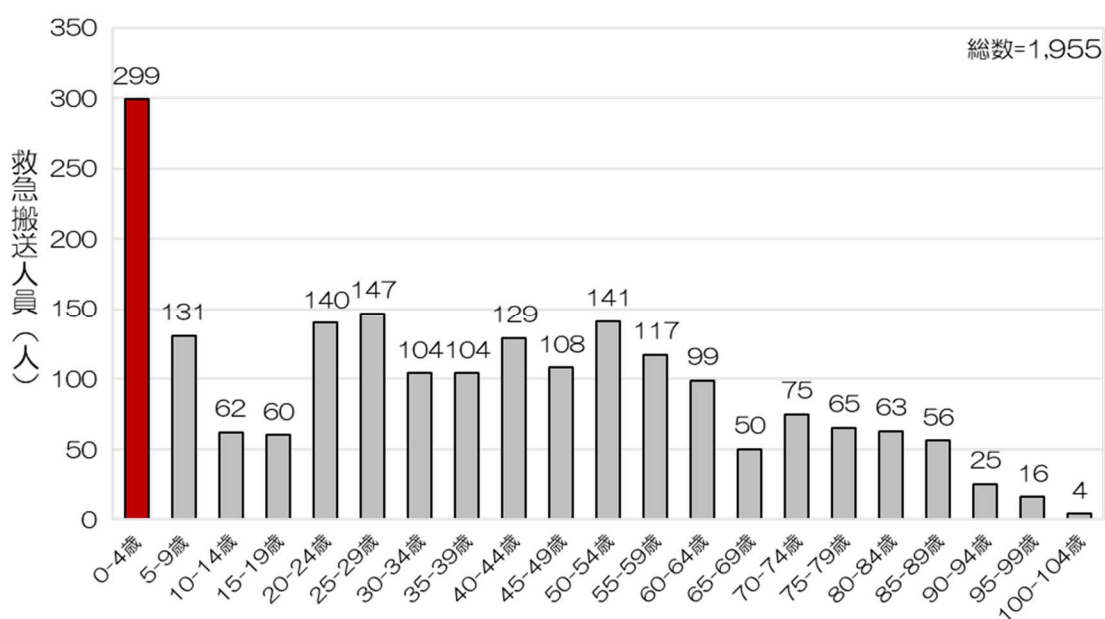


図2-25 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が3割以上と最も多くなっています。

次いで会社・公共施設等や道路・交通施設でも多く発生しています(図2-26)。

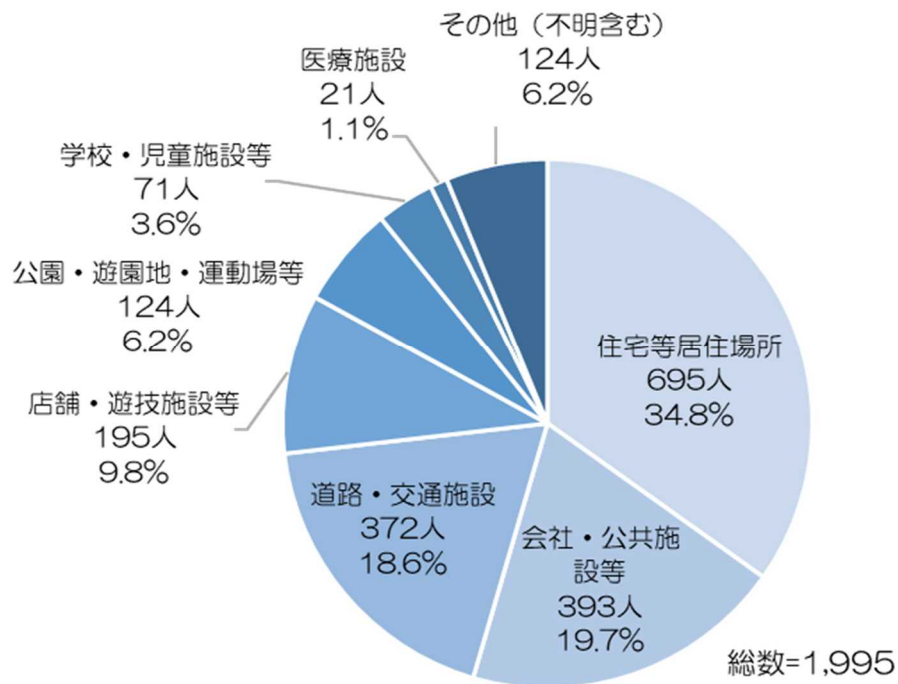


図2-26 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

約3割の方が中等症以上と診断されています(図2-27)。

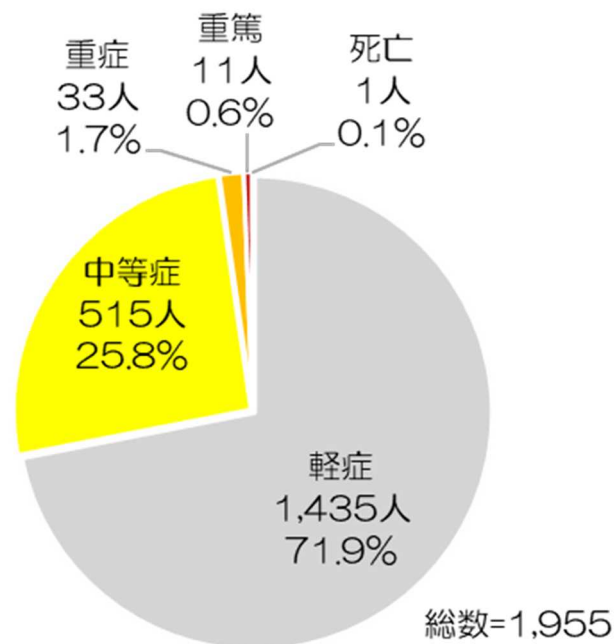


図2-27 初診時程度別の救急搬送人員

## 7. やけど

### (1) 年別搬送人員

熱湯や天ぷら油等によるやけどで、令和5年中に1,282人が救急搬送されます（図2-28）。

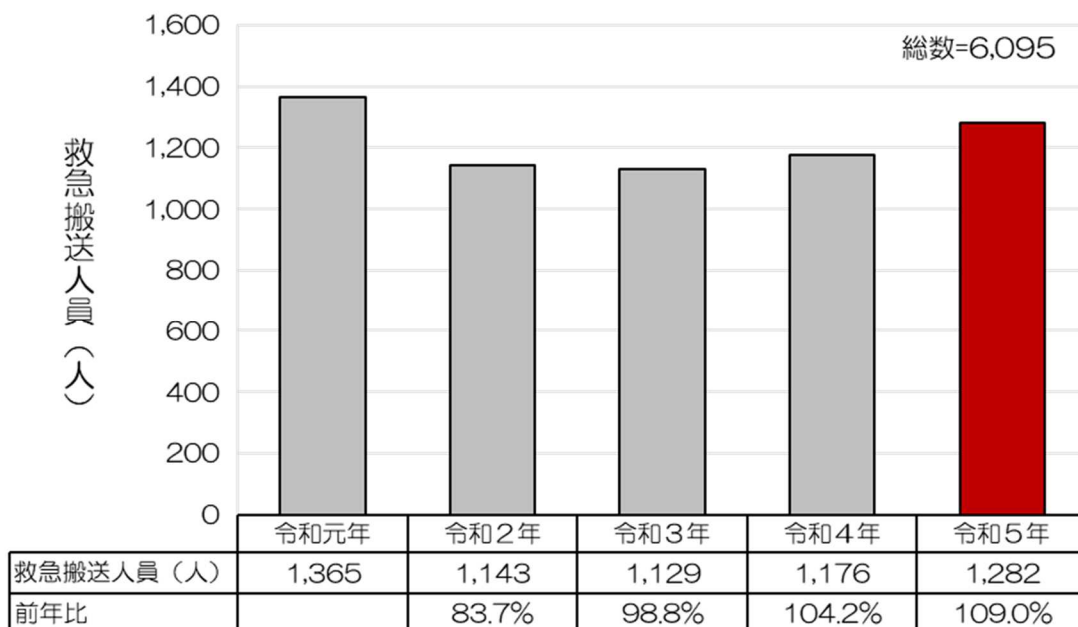


図2-28 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、342人が救急搬送され、全体の約3割を占めています（図2-29）。

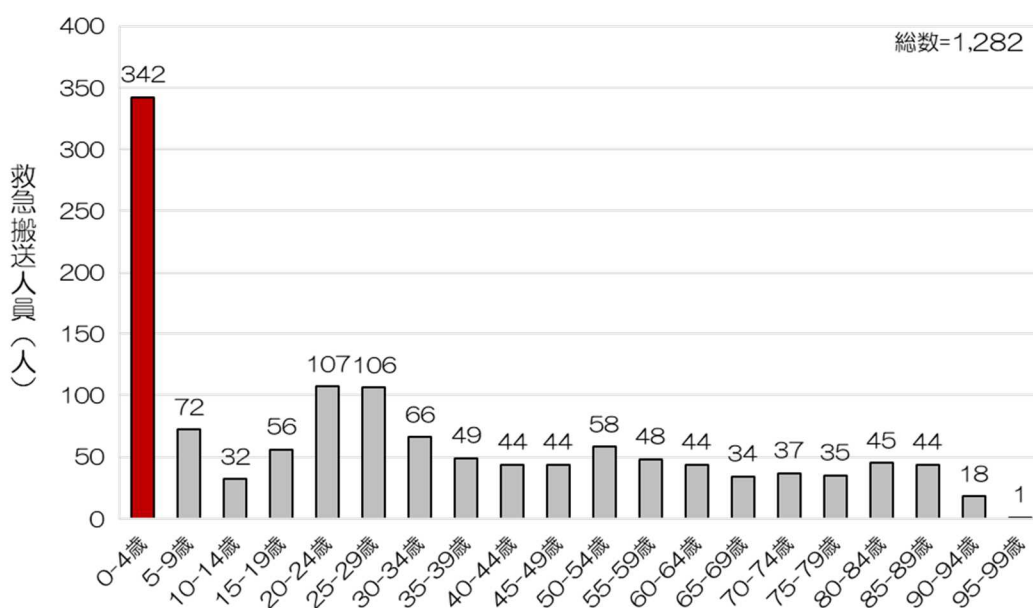


図2-29 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所の割合が最も多く、約8割となっています（図2-30）。

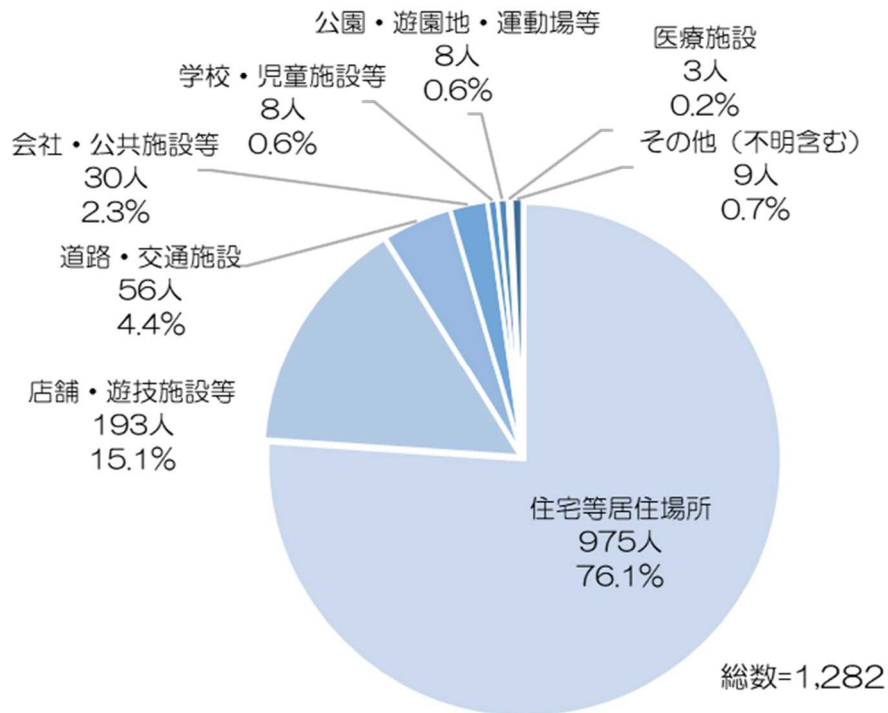


図2-30 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

約2割の方が中等症以上と診断されています（図2-31）。

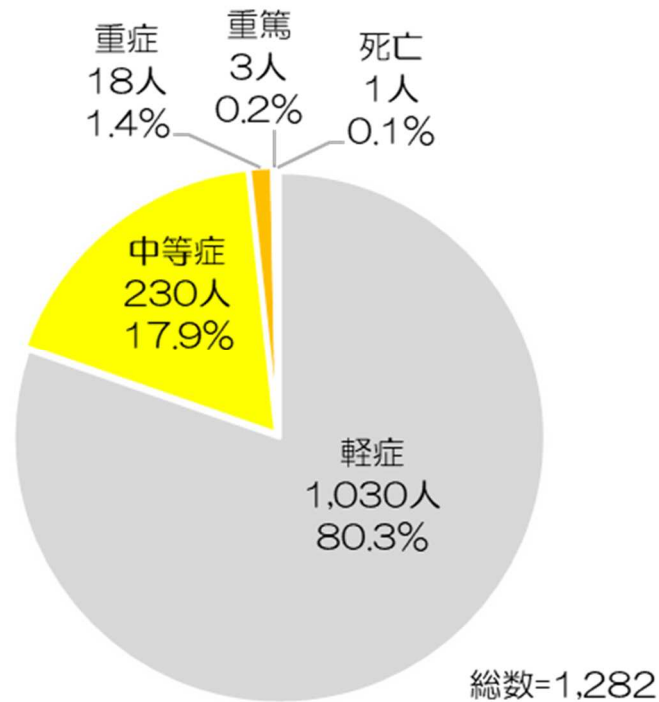


図2-31 初診時程度別の救急搬送人員



## 8. かまれる・刺される

### (1) 年別搬送人員

犬にかまれる、蜂に刺される等で、令和5年中に**915人**が救急搬送されています（図2-32）。

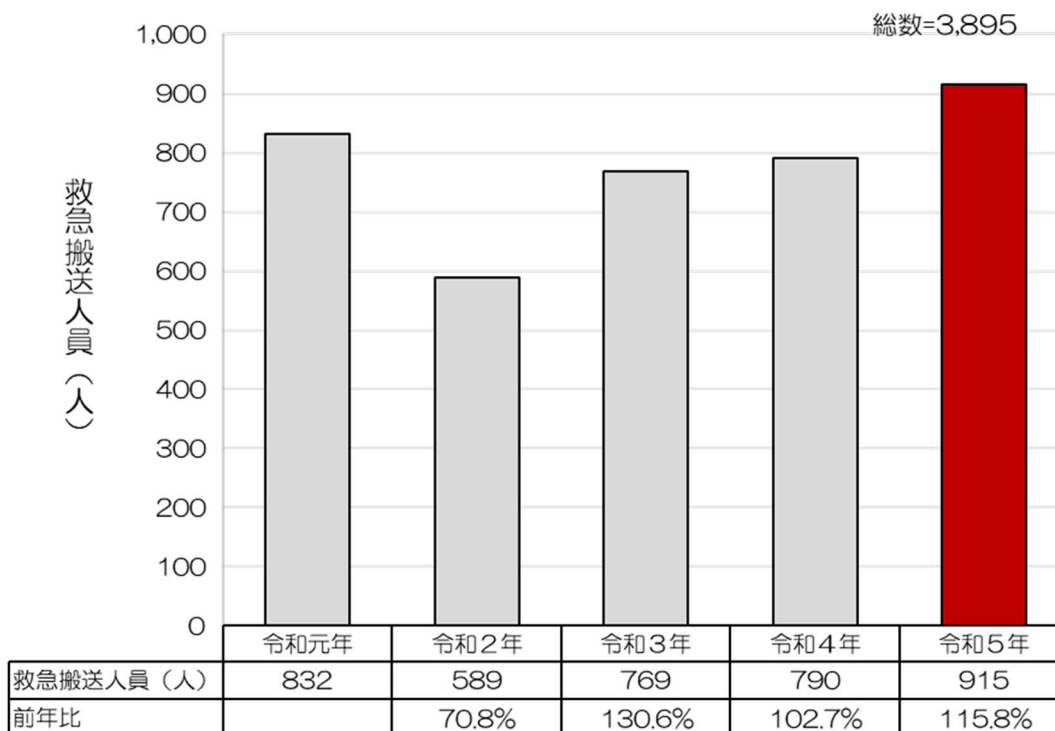


図2-32 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、50歳代が**70人以上**と多くなっていますが、各年代で発生しています（図2-33）。

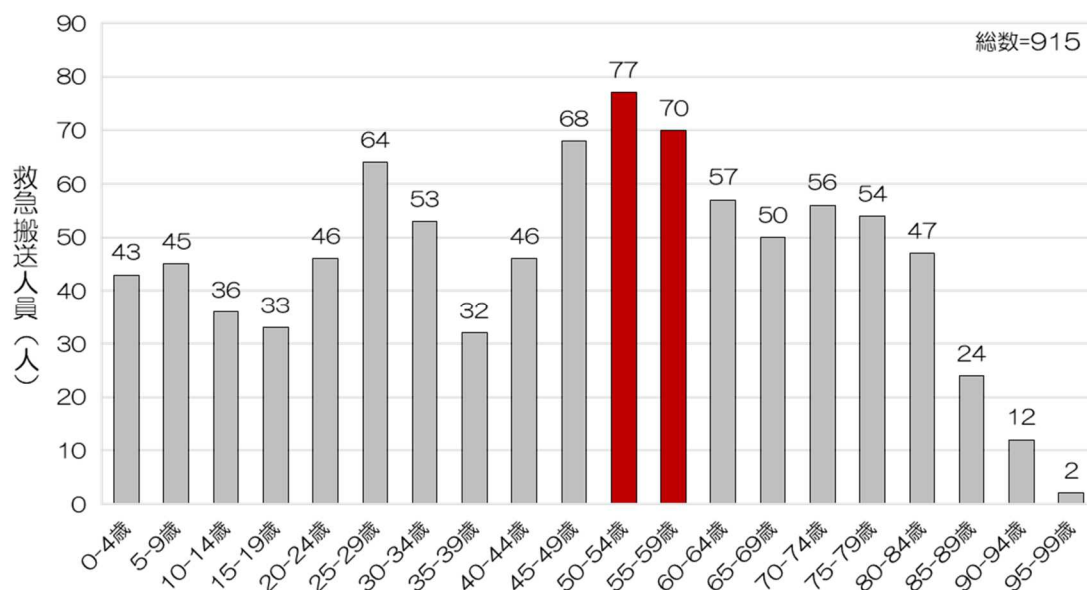


図2-33 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が多くなっており、ペットの動物にかまれる等の事故が発生しています。

次いで道路・交通施設が多くなっています（図 2-34）。

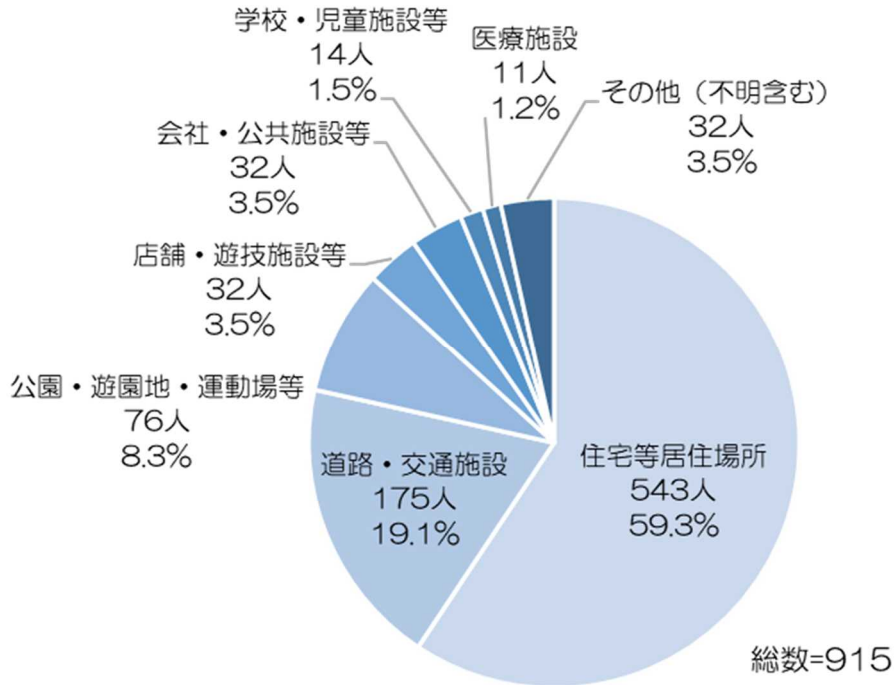


図 2-34 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

軽症が約9割を占めていますが、中等症以上と診断される事故も発生しています（図 2-35）。

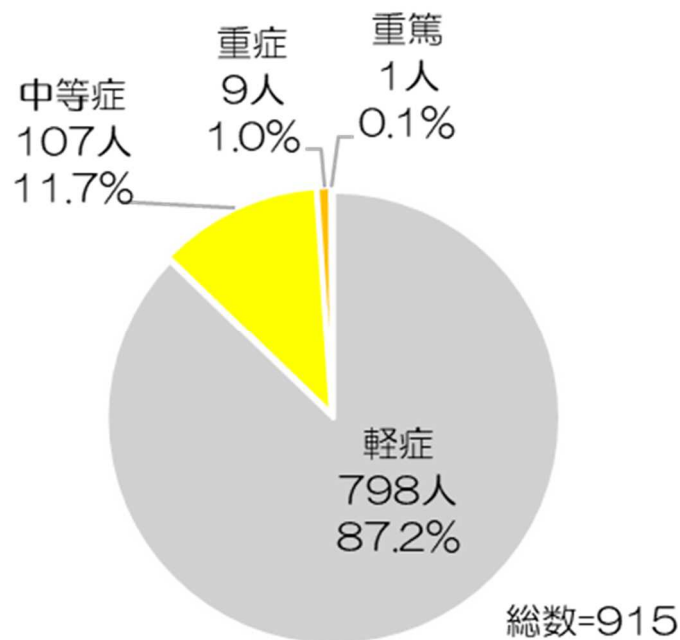


図 2-35 初診時程度別の救急搬送人員

## 9. おぼれる

### (1) 年別搬送人員

浴槽や海、河川等での事故で、令和5年中は**530人**が救急搬送されています。過去5年の推移をみると**減少傾向**にありましたが、令和5年は増加に転じています（図2-36）。

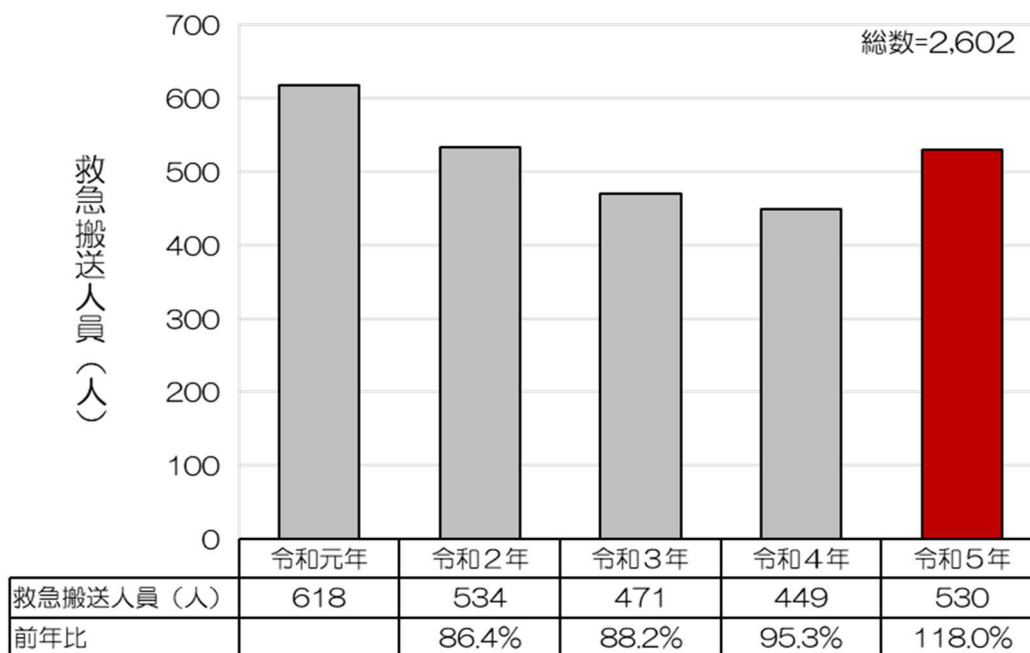


図2-36 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、**乳幼児、高齢者**に多く発生しており、特に80歳代は100人以上が救急搬送されています（図2-37）。

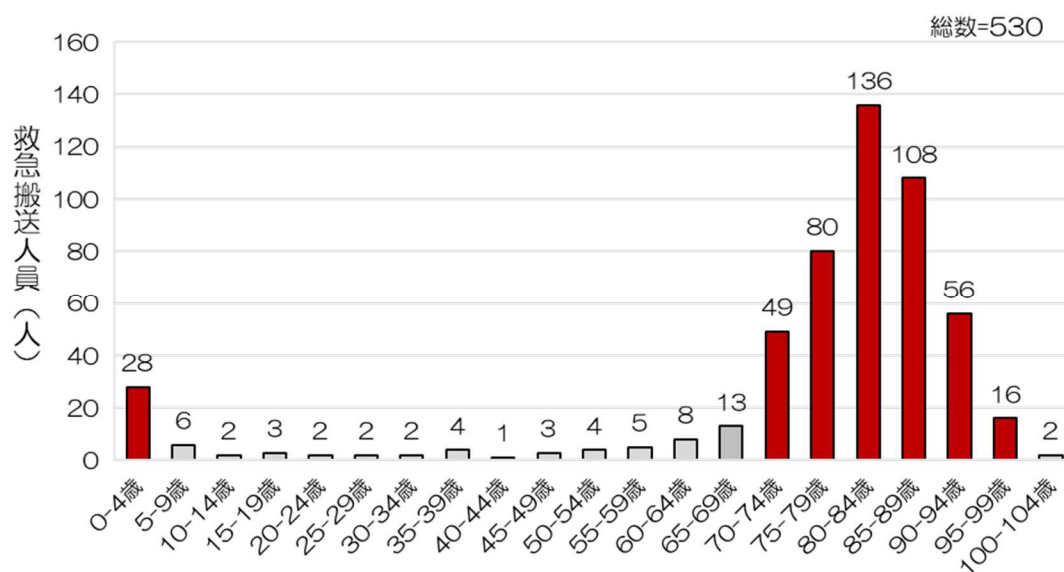


図2-37 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が約9割で最も多くなっています（図2-38）。

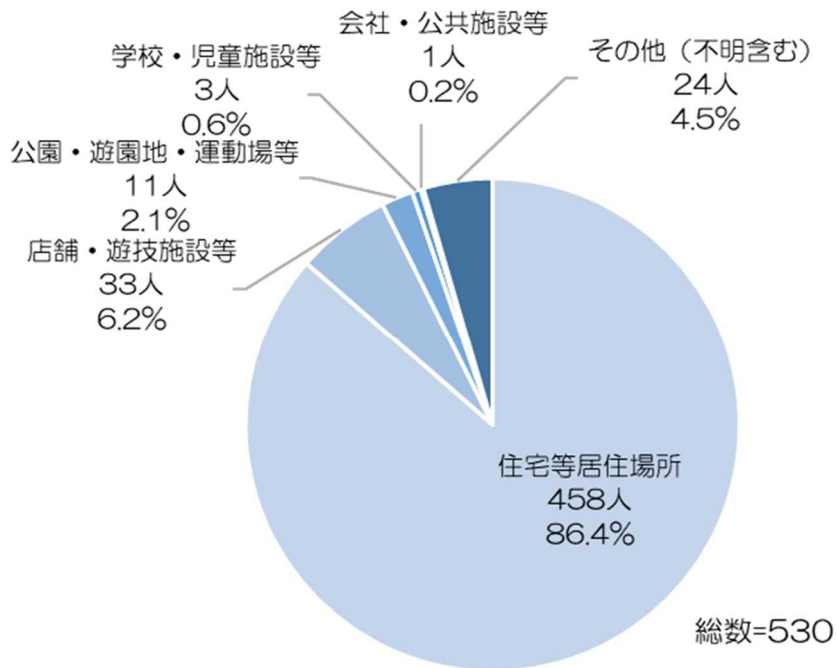


図2-38 発生場所別の救急搬送人

### (4) 初診時程度別搬送人員

9割以上が中等症以上と診断されており、さらに約8割が重篤又は死亡と診断されています（図2-39）。

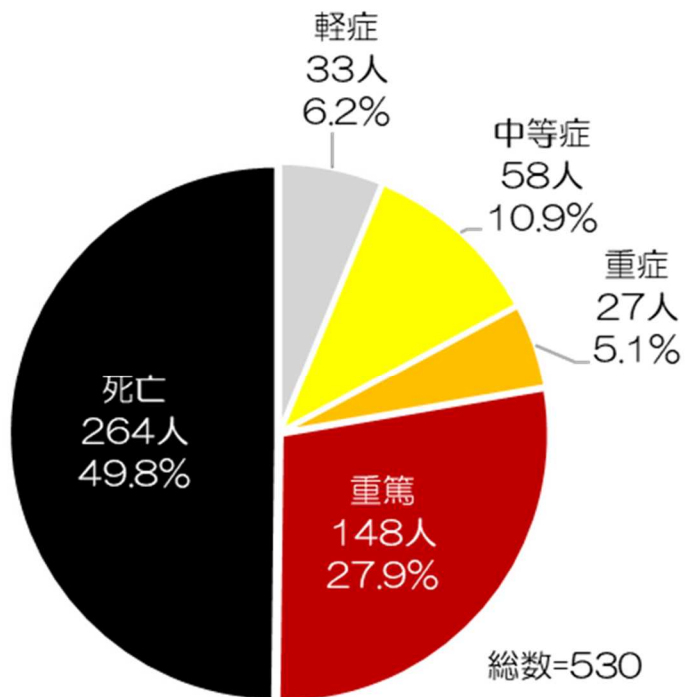


図2-39 初診時程度別の救急搬送人員

## 第3部 年齢から見た事故

ここでは、年齢層別での比較や乳幼児、就学区分、成人、高齢者などの年齢区分ごとに事故の傾向や事故の要因等を取り上げています。

### 1. 年齢区分から見た事故

#### (1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故

##### ① 0歳～5歳

##### ア 年別搬送人員

0歳から5歳までの乳幼児の事故で、令和元年から令和5年までの5年間に44,724人が救急搬送されています。

令和5年は9,124人が救急搬送されています（図3-1）。

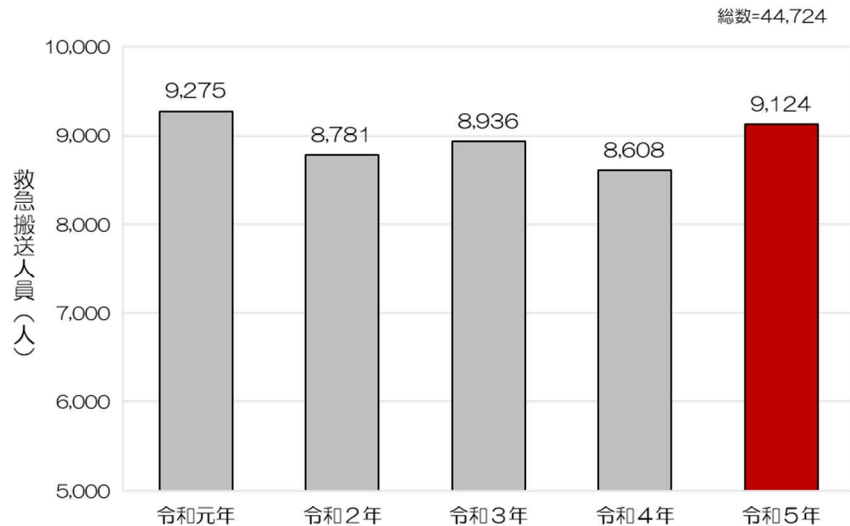


図3-1 年別の救急搬送人員

##### イ 年齢別搬送人員

年齢別では、1歳児の救急搬送人員が2,140人と最も多く、次いで2歳児が1,802人となっています（図3-2）。

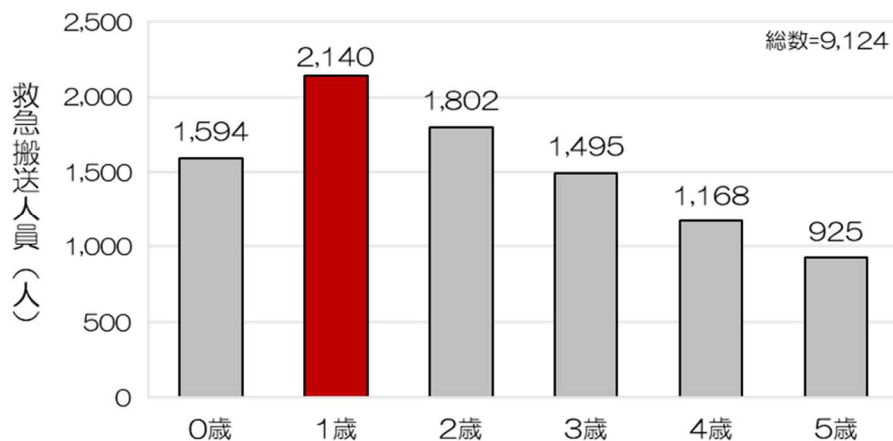


図3-2 年齢別の救急搬送人員

## ウ 時間帯別搬送人員

時間帯別では、19時台をピークに多く救急搬送されています（図3-3）。

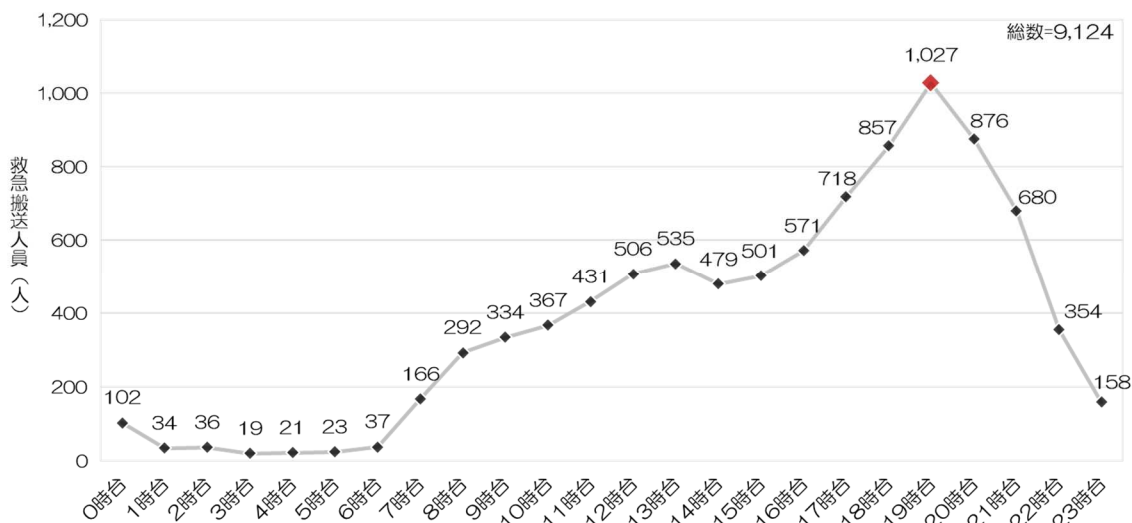


図3-3 時間帯別の救急搬送人員

## エ 発生場所別搬送人員

7割以上が住宅等居住場所となっています（図3-4）。

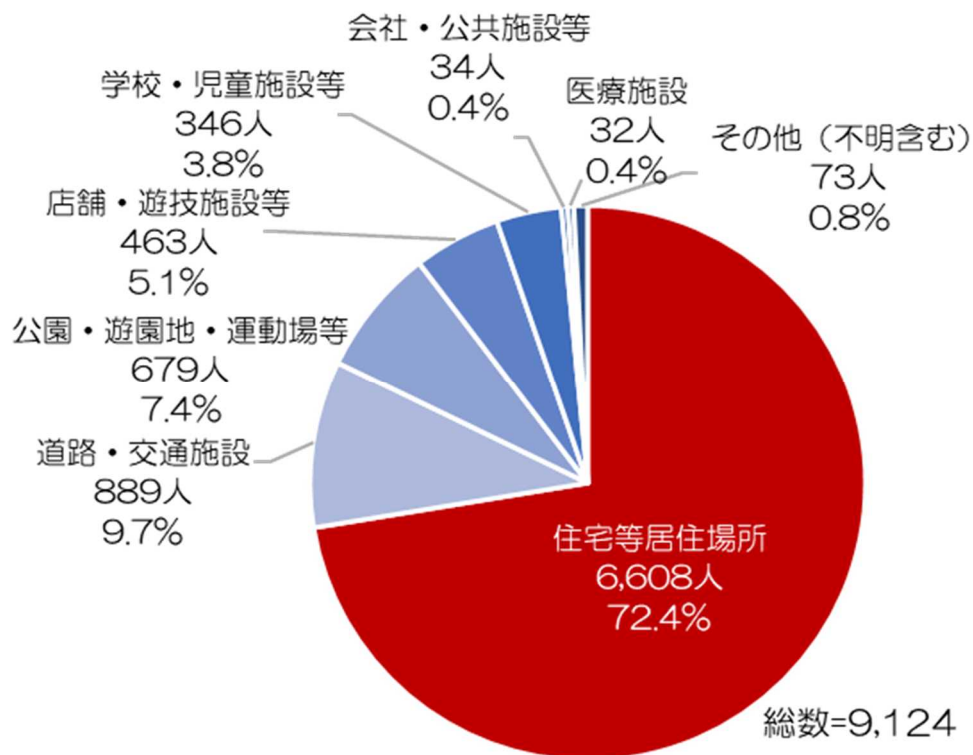
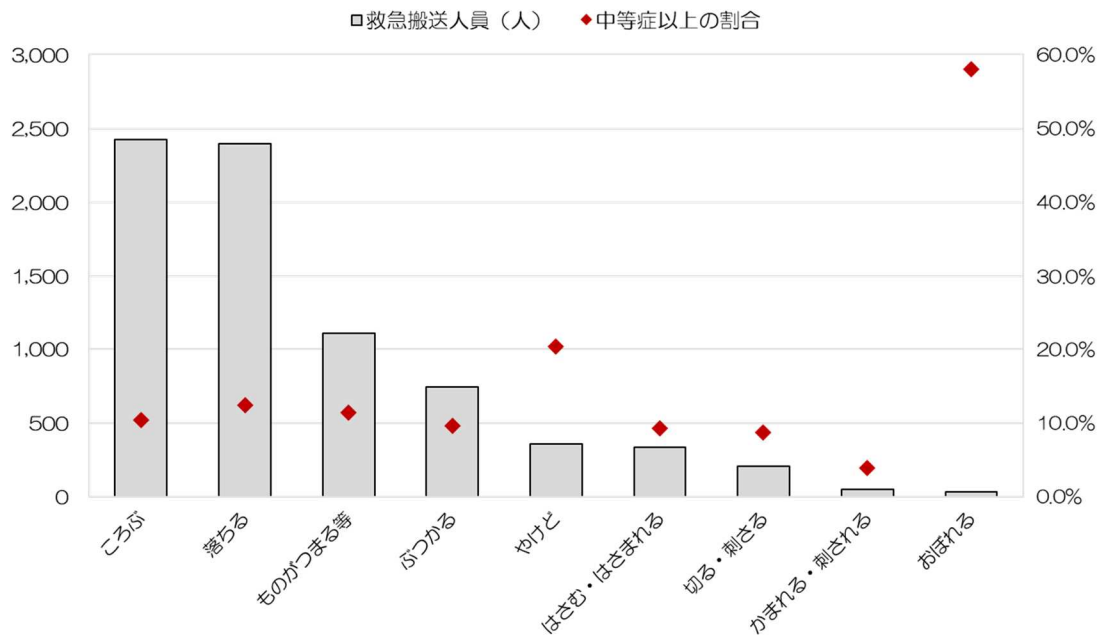


図3-4 発生場所別の救急搬送人員

## オ 事故種別ごとの搬送人員

もっとも多いのは「ころぶ」事故で、2,428人が救急搬送されています。  
 中等症以上の割合が最も高いのは「おぼれる」事故で、約6割と突出して高くなっています。

「やけど」でも約2割の方が中等症以上と診断されています（図3-5）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	2,428人	2,395人	1,109人	743人	358人	336人	207人	51人	31人
中等症以上の割合	10.3%	12.4%	11.4%	9.6%	20.4%	9.2%	8.7%	3.9%	58.1%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-5 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

## カ 年齢ごとに見る特徴的な事故の変化

乳幼児は日々成長し、昨日できなかったことが、今日ではできるようになっているかもしれません。こどもの発達を知り、その時期に起こりやすい事故を知り対策をとることで、重大な事故を防ぐことができます。

### 0歳

ベッド（172人）や、人（127人）が抱いている状態から「落ちる」事故が多く発生しています。

たばこ（60人）、包み・袋（41人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しており、なんでも口に入れてしまう特徴が見てとれます。

味噌汁・スープ（21人）、お茶・コーヒー類（14人）などの熱い液体で「やけど」をする事故も発生しています。

### 1歳

一人歩きを始める頃で、「落ちる」事故、「ころぶ」事故ともに階段（落ちる：181人、ころぶ：22人）、椅子（落ちる：83人、ころぶ：41人）が関連する事故が多く発生しています。

シール、プラモデル等のその他の玩具（36人）やたばこ（30人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しています。

手動ドア（32人）に「はさむ・はさまれる」事故、味噌汁・スープ（26人）などによる「やけど」の事故など、様々な事故が発生しています。

### 2歳

「ころぶ」事故、「落ちる事故」とともに階段（ころぶ：36人、落ちる：135人）が関連する事故が多く発生しています。

机・テーブル（23人）にぶつかる事故や手動ドア（25人）に「はさむ・はさまれる」事故、味噌汁・スープ（9人）、お茶・コーヒー類（6人）に起因する「やけど」の事故も発生しており、注意が必要です。

### 3歳

### 5歳

人、階段、机・テーブル（各75人）や椅子（61人）で「ころぶ」事故が多く発生しています。

階段（144人）や椅子（82人）から「落ちる」事故も多く発生しています。

プラスチックのブロック等のその他の玩具（45人）などを「誤って飲み込む」事故や、ナイフ（16人）による「切る・刺さる」事故が発生しており、注意が必要です。

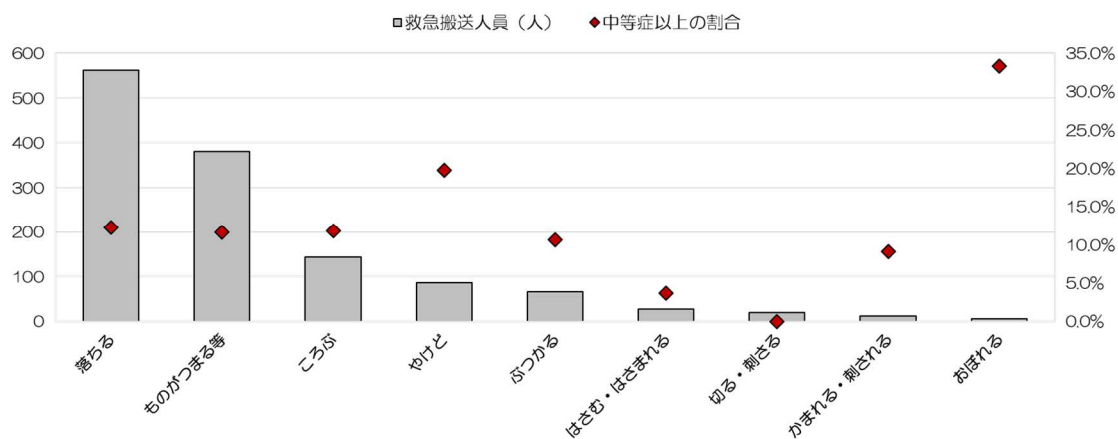


## ② 0歳

### ア 事故種別ごとの搬送人員

「落ちる」事故で562人が救急搬送されています。

「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が約3割と最も高くなっています（図3-6）。



事故種別	落ちる	ものがつまる等	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	562人	380人	144人	86人	66人	27人	19人	11人	6人
中等症以上の割合	12.3%	11.6%	11.8%	19.8%	10.6%	3.7%	0.0%	9.1%	33.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-6 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

### イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

0歳では、ベッドから落ちる事故が最も多く、172人が救急搬送されています。

「ものがつまる」等の事故ではたばこの誤飲による事故が多く発生しています（表3-1）。

表3-1 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別	落ちる	ものがつまる等	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	おぼれる	切る・刺さる	かまれる・刺される
1位	ベッド 172人	たばこ 60人	人 28人	味噌汁・スープ 21人	その他の家具 9人	手動ドア 6人	浴槽 6人	ハサミ・爪切り 8人	動物等 9人
2位	人 127人	包み・袋 41人	ベビーカー 11人	お茶・コーヒー類 14人	机・テーブル 7人	人 玩具類 イス		食器類 ナイフ	虫 2人
3位	ソファ 60人	その他の玩具 32人	机・テーブル 8人	ポット・魔法瓶 9人	壁・天井 人			各2人	
4位	階段 56人	洗剤 16人	その他の家具 7人	熱湯 8人	各5人	各2人		筆記具 置物 等	
5位	抱っこ紐・おんぶひも 41人	薬剤等によるもの 10人	階段 4人	食器類 7人	フェンス・柵・扉 4人	エレベーター等 1人		各1人	

※「ものがつまる等」におけるその他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シール等

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、ガラス棚等

※「ぶつかる」におけるその他の家具とは、鏡、テレビ台等

## ウ 0歳の事故事例

### 【事例1 ソファから転落】

母親がトイレに行くため、こどもをソファの上に寝かせ、トイレから帰ってくると、床上におり泣いていた（3か月 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

- ベッドやソファ、階段などから「落ちる」事故が多く発生しています。  
昨日までできなかった寝返りが、今日できるかもしれません。
- ✓目を離すときはベビーベッドの柵を上げましょう。
  - ✓高い所に寝かせないようにしましょう。
  - ✓階段の上下には、転落防止用の柵等をつけましょう。

### 【事例2 ラベルを誤って飲み込む】

男児が誤ってペットボトルのラベルの一部を飲み込んでしまった（11か月 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

- 乳幼児は、トイレットペーパーの芯（39mm）を通る大きさのものなら、口に入れてしまい飲み込む危険性があります。
- 早い子では、5か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られます。
- ✓成長段階に応じ、食べ物は適切な大きさに切る、つぶす等をして食べさせましょう。
  - ✓こどもが飲み込めそうなものがこどもの届くところがないように、日頃から整理整頓をこころがけましょう。

### 【事例3 入浴中におぼれる】

浴室にてベビーバスで入浴中、親がその場を離れ、数分後に浴室に戻ったところ、溺水していた（3か月 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

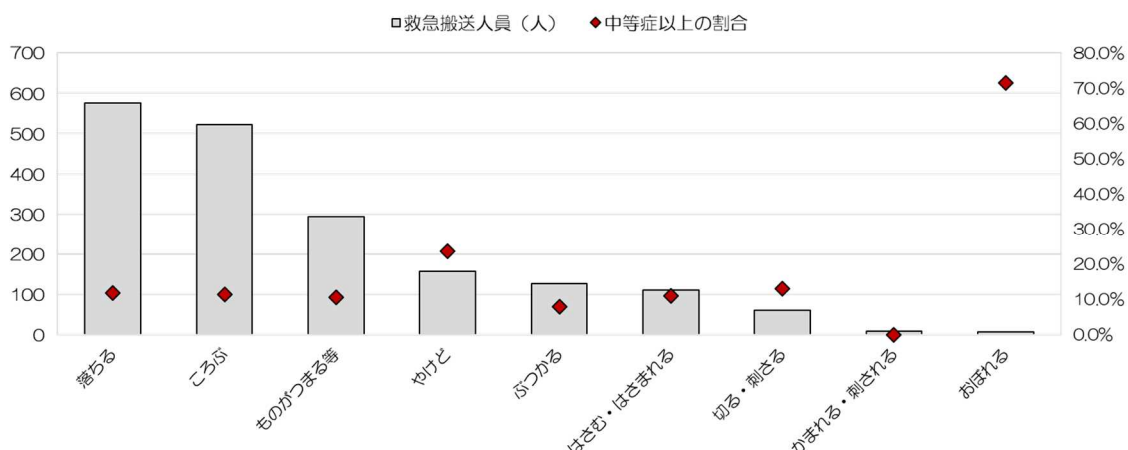
- おぼれの事故の多くは家庭のお風呂で発生しており、重症化しやすいため、十分気を付けましょう。
- ✓こどもは大人の後に浴室に入れ、先に浴室から出しましょう。
  - ✓大人が髪を洗う時は子供を浴槽から出しましょう。
  - ✓入浴後の浴槽の水は抜きましょう。

### ③ 1歳

#### ア 事故種別ごとの搬送人員

歩く、走る、といった行動ができるようになる時期なので、0歳に比べ、「ころぶ」事故が約3.6倍になっています。

「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が7割以上と最も高く、「やけど」事故でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-7）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ものがつままる等	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	575人	522人	294人	157人	127人	110人	61人	9人	7人
中等症以上の割合	11.8%	11.3%	10.5%	23.6%	7.9%	10.9%	13.1%	0.0%	71.4%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-7 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

#### イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

階段、椅子等から「落ちる」事故が多く発生しています。

手動ドアに「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています（表3-2）。

表3-2 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	落ちる	ころぶ	ものがつままる等	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
1位	階段 181人	椅子 机・テーブル 各41人	その他の玩具 36人	味噌汁・スープ 26人	机・テーブル 26人	手動ドア 32人	ナイフ 13人	浴槽 6人	動物等 7人
2位	椅子 83人	各41人	たばこ 30人	お茶・コーヒー類 23人	その他の家具 16人	その他の家具 13人	ハサミ・爪切り 11人	ビニールプール 1人	虫 2人
3位	ベッド 48人	その他の家具 29人	電池 26人	食器類 19人	手動ドア 10人	エレベーター 9人	食器類 耳かき・綿棒		
4位	ソファ 人	人 28人	薬剤等 19人	ポット・魔法瓶 16人	壁・天井 8人	椅子 7人	各4人		
5位	各41人	階段 22人	包み・袋 16人	カップ麺 12人	ベッド 6人	鉄道車両の戸袋 3人	歯ブラシ 2人		

※ 「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、ラック等

※ 「ものがつままる等」におけるその他の玩具とは、ミニカーの部品、シール、粘土等

※ 「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

※ 「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、クローゼットの扉、棚等

## ウ 1歳の事故事例

### 【事例1 椅子から落ちる】

昼食後に椅子の上で立っていたところ転落してテーブルの角に頭をぶつけ受傷した。(1歳 中等症)。

#### 【事故防止ポイント】

- 歳児と比べ、活発に動くようになります。
- ✓普段から目を離さないよう注意しましょう。
- ✓椅子などに座らせる時は、チェアベルト等を活用し、大きな事故にならないように工夫しましょう。

### 【事例2 薬の誤飲】

親に処方された薬を目を離した際にこどもが飲んでしまった(1歳 中等症)。

#### 【事故防止ポイント】

- ✓医薬品は、こどもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- ✓医薬品は、薬理作用があるため保管や管理には細心の注意を払いましょう。
- ✓シロップ等、こどもが飲みやすいように味付けしてあるものは、冷蔵庫に入れておいても、自ら取り出して飲んでしまうことがあるため、保管・管理には十分注意しましょう。

### 【事例3 歯ブラシが刺さった事故】

自宅で歯ブラシを咥えた状態で前のめりに転倒し、歯ブラシを抜いた際に口腔内から出血があった(1歳 中等症)。

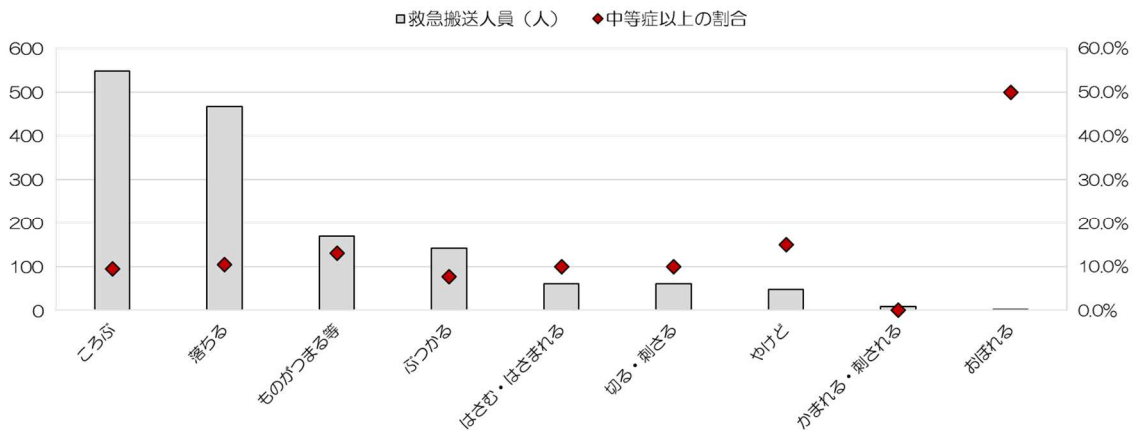
#### 【事故防止ポイント】

- 歯ブラシが口腔内に刺さる事例も発生しています。
- ✓歯ブラシを口に入れたまま、歩いたり走ったりさせないようにしましょう。
- ✓不安定な場所で歯みがきをしていて、転落した事例もあることから、椅子や踏み台等に乗った状態で歯みがきをさせないようにしましょう。
- ✓歯みがき中に人や物と接触し、受傷するケースも多くあるため、歯みがき中は保護者が付き添い、周囲にも注意を払いましょう。

#### ④ 2歳

##### ア 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故や「落ちる」事故が多く発生しています（図3-8）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	548人	467人	169人	142人	60人	60人	47人	8人	2人
中等症以上の割合	9.5%	10.5%	13.0%	7.7%	10.0%	10.0%	14.9%	0.0%	50.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-8 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

##### イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故、「落ちる」事故ともに階段が関係する事故が多く発生しています。

運動機能が発達し、自由に動き回ることができるようになってくるため、家中を走り回って家具等に「ぶつかる」事故も発生しています（表3-3）。

表3-3 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段	階段	その他の玩具	机・テーブル	手動ドア	ナイフ	味噌汁・スープ	虫	浴槽
	36人	135人	25人	23人	25人	11人	9人	7人	2人
2位	人	椅子	薬剤等	その他の家具	自動車のドア椅子	歯ブラシ 耳かき・綿棒	お茶・コーヒー類	動物等	
	32人	57人	12人	18人			6人	1人	
3位	机・テーブル	人	魚等の骨 ビー玉類	ベッド	各3人	各4人	メン類		
	30人	36人		12人			5人		
4位	自転車の補助イス	ベッド	各10人	手動ドア	人 ベビーカー等	ミキサー 食器類等	鍋 熱湯 カップ麺		
	28人	32人		8人					
5位	椅子	ソファ等	電池等	壁・天井	各2人	各2人	各4人		
	27人	各30人	各9人	7人					

※ 「ものがつまる等」におけるその他の玩具とは、ブロック型の玩具、シール等

※ 「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚等

## ウ 2歳の事故事例

### 【事例1 階段から落ちる事故】

自宅の屋内階段を10段程度転落し、頭部を受傷した（2歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

階段に関係する事故は多く発生しています。

- ✓ベビーゲートを設置し、常にロックするなど、こどもが階段に近づかないような環境をつくりましょう。
- ✓高所からの転落・墜落は重症化しやすいため十分注意しましょう。

### 【事例2 ボタン電池の誤飲】

計量器のボタン電池が亡くなっていることに親が気づき、こどもに聞くと電池を飲み込んだと言った。（2歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

**ボタン電池**は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管壁に潰瘍を作ります。

- ✓こどもが飲み込めそうなものは、こどもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- ✓こどもから見えるところで電池交換をするのはやめましょう。

### 【事例3 手動ドアにはさまれる事故】

こどもの手が扉の蝶番側にかけたまま親が誤って扉を閉めたため、手の中指を挟み受傷した。（2歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

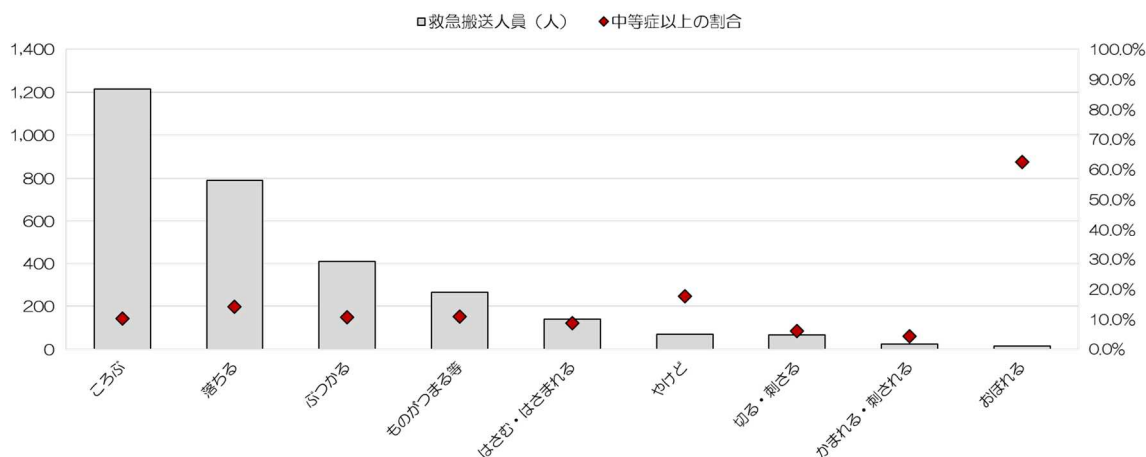
「はさまれ」の原因で一番多いのは**手動ドア**です。こどもの手や足は大人より小さく、狭い隙間でも入ってしまいます。

- ✓指の切断に至ることもあるので、ドアの開閉時は周囲を確認しましょう。
- ✓ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーすることも事故防止に効果的です。

## ⑤ 3歳～5歳

### ア 事故種別ごとの搬送人員

3歳から5歳まででは、「ころぶ」事故が最も多くなっています。「おぼれる」事故は6割以上が中等症以上となっています（図3-9）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
救急搬送人員	1,214人	791人	408人	266人	139人	68人	67人	23人	16人
中等症以上の割合	10.1%	14.0%	10.5%	10.9%	8.6%	17.6%	6.0%	4.3%	62.5%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-9 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

### イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

3歳から5歳まででは、両親や兄弟、友達と遊んでいてころんだり、階段や机・テーブルに躓いてころぶ事故が多く発生しています。（表3-4）。

表3-4 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
1位	人 階段 机・テーブル	階段	机・テーブル	その他の玩具	手動ドア	鍋	ナイフ	虫	浴槽	
		144人	43人	45人	46人	14人	16人	15人	11人	
2位	椅子	椅子	人	ビー玉類	自転車	味噌汁・スープ	ハサミ・爪切り	動物等	河川	
		82人	27人	24人	17人	10人	14人	8人	2人	
3位	各75人	人	その他の家具	菓子	鉄道車両の戸袋	熱湯 カップ麺	食器類		プール池	
		59人	26人	18人	8人	8人				
4位	椅子	ソファ	柱	魚等の骨	自動車のドア	各7人	耳かき・綿棒		各1人	
		61人	50人	23人	17人	7人	5人			
5位	自転車の補助	ベッド等	手動ドア	アメ玉類	椅子	メン類	歯ブラシ			
		37人	各46人	22人	15人	6人	4人	4人		

※ 「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、本棚等

※ 「ものがつまる等」におけるその他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、スーパーボール等

## ウ 3歳～5歳の事故事例

### 【事例1 ころぶ事故】

キックボードに乗っていたところ縁石に衝突し、後方へ転倒し受傷した（4歳 軽症）。

#### 【事故防止ポイント】

3歳になると運動能力も高くなり行動範囲が広がっています。

✓危険や安全の判断がまだ十分にできていないので、危険な行動は繰り返し教えてあげましょう。

### 【事例2 遊具からの墜落・転落】

滑り台で遊んでいて高さ1.5mの位置から転落し顔面を受傷した（5歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

墜落事故は重大事故につながる可能性が高い事故の一つです。

遊具からの転落事故のほか、窓やベランダに置いてあった椅子や室外機にのぼり、誤って墜落する事故も発生しています。

✓ベランダへの出入口の窓などには、こどもの手が届かない位置に補助鍵を取りつけましょう

✓ベランダや窓の近くには、こどもがのぼれるものを置かないようにしましょう。

### 【事例3 カップ麺によるやけど】

熱湯を入れたカップ麺を誤って転倒させ、火傷を負ってしまった。（3歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

テーブル上に置かれた熱いものが入った容器をこどもが引き寄せ、やけどを負う事故が多く発生しています。

✓やけどのおそれのあるものは、こどもの手の届くところに置かないようにしましょう。

✓テーブルの隅など、こどもの手の届きやすいところに熱いものは絶対に置かないようにしましょう。



## (2) 6歳～12歳（小学生）の事故

### ア 年別搬送人員

小学生の年代では、令和5年中に5,123人が救急搬送されています（図3-10）。

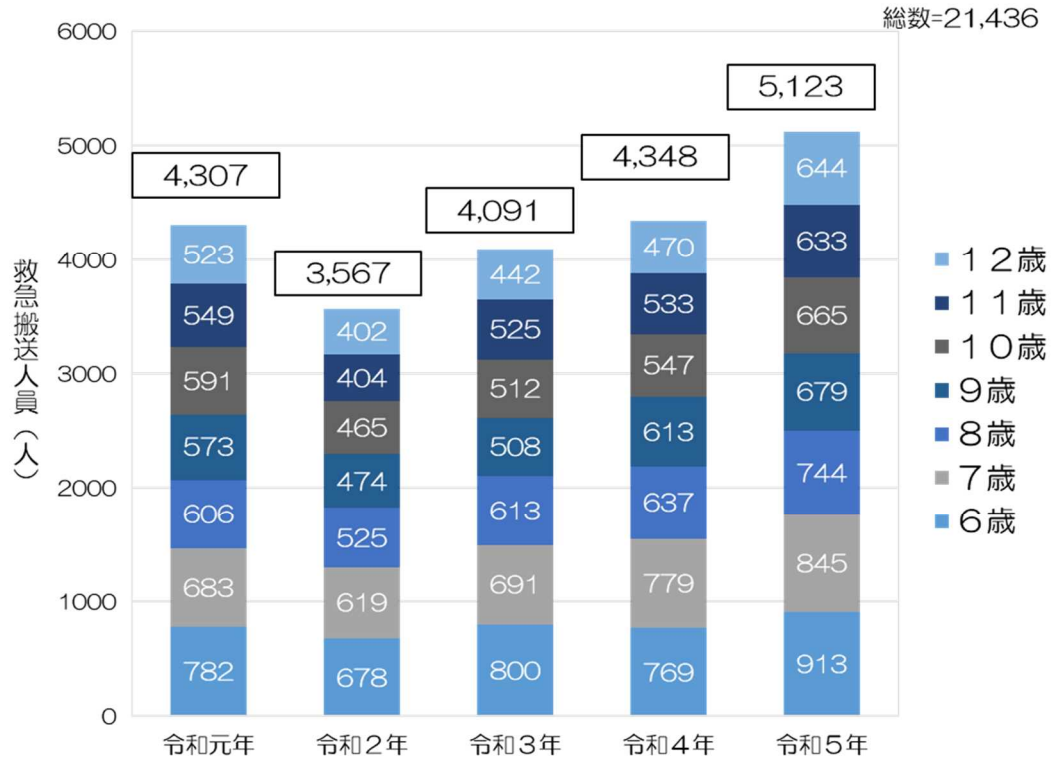


図3-10 年別の救急搬送人員（6歳～12歳）

### イ 月別搬送人員

月別では、5月と6月に多く搬送されています（図3-11）。

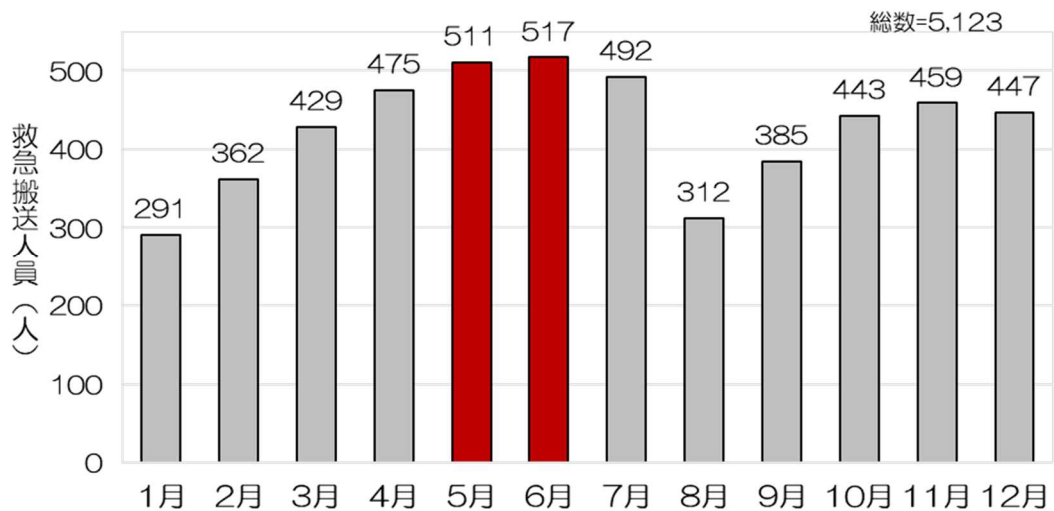


図3-11 月別の救急搬送人員

## ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所のほかに学校・児童施設等が多くなっています。また、公園・遊園地・運動場等での事故も多く発生しています（図3-12）。

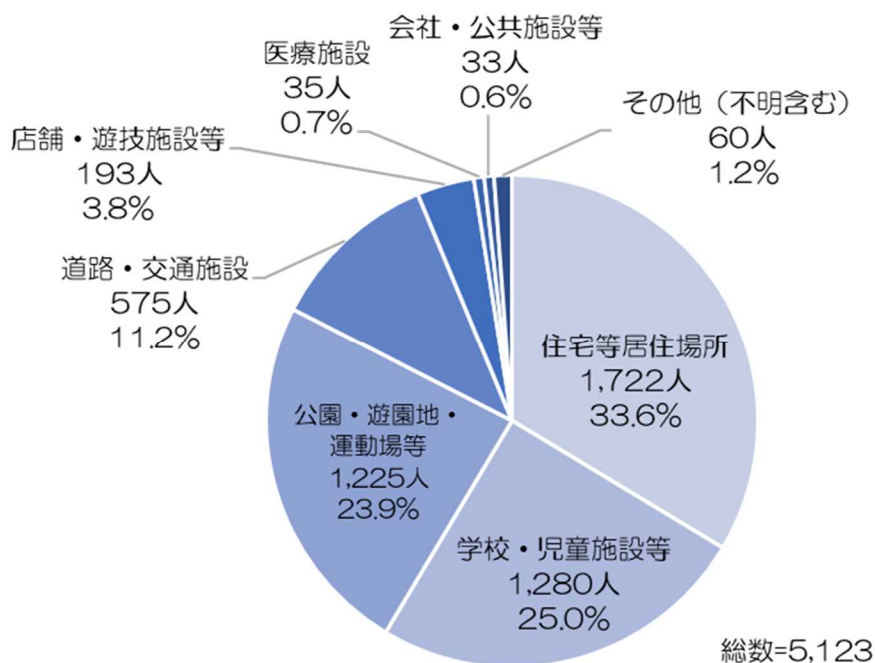
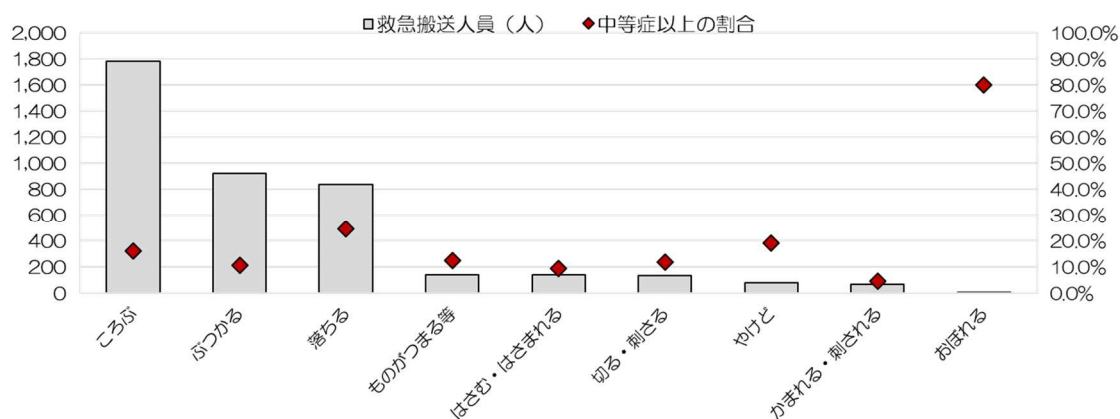


図3-12 発生場所別の救急搬送人員

## エ 事故種別ごとの搬送人員

6歳から12歳まででは、「ころぶ」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故では8割が中等症以上となっています。（図3-13）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1,783人	923人	835人	138人	138人	135人	78人	65人	5人
中等症以上の割合	16.0%	10.5%	24.7%	12.3%	9.4%	11.9%	19.2%	4.6%	80.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-13 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

## オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

こども同士で遊んでいる最中に「ころぶ」事故や「ぶつかる」事故が多く発生しています。

階段から「落ちる」事故も多く発生しています（表3-5）。

表3-5 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	ものが つまる等	はさむ・ はさまれる	切る・ 刺さる	やけど	かまれる・ 刺される	おぼれる
1位	人	人	階段	魚等の骨	手動ドア	ナイフ	カップ麺	虫	浴槽
	149人	138人	76人	17人	26人	31人	17人	37人	3人
2位	階段	ボール	滑り台 雲梯	その他の玩具	自転車	ミシン	味噌汁・スープ	動物等	プール
	84人	71人		9人	23人	11人	11人	28人	2人
3位	段差	バット	各72人	菓子	植物	針・ヘアピン・ 釘等	鍋 ポット・魔法瓶		
	49人	45人		8人	6人	9人			
4位	その他の家具 椅子	壁・天井	鉄棒	アルコール (消毒用)	自動車のドア	食器類 ハサミ・爪切り	各8人		
		44人	56人	7人	5人				
5位	各37人	柱	その他の遊具	アメ玉類	鉄道車両のドア 等	各8人	熱湯 等		
		37人	55人	6人	各3人		各7人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、靴箱、ロッカー等

※「落ちる」におけるその他の遊具とは、ターザンロープ、アスレチック遊具等

※「ものがつまる等」におけるその他の玩具とは、ブロック型の玩具、おはじき、コイン等

## カ 6歳～12歳の事故事例

### 【事例1 高所から落ちる】

公園内トイレの屋根から飛び降りて地面に着地した際に右手を受傷した（12歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

高所からの墜落は、生命に危険を及ぼす重大な事故となることから、保護者等は、危険性をこどもに教え、理解させましょう。

小学生の年代は、運動能力の発達に加え、身長、体重、運動量、俊敏性、冒険心の増大が事故につながっていると考えられます。危険が予測される行動も多く見られることから、安全教育による事故防止も不可欠です。



### (3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故

#### ア 年別搬送人員

令和5年中は、3,795人が救急搬送されています（図3-14）。

令和3年から増加傾向となっています。

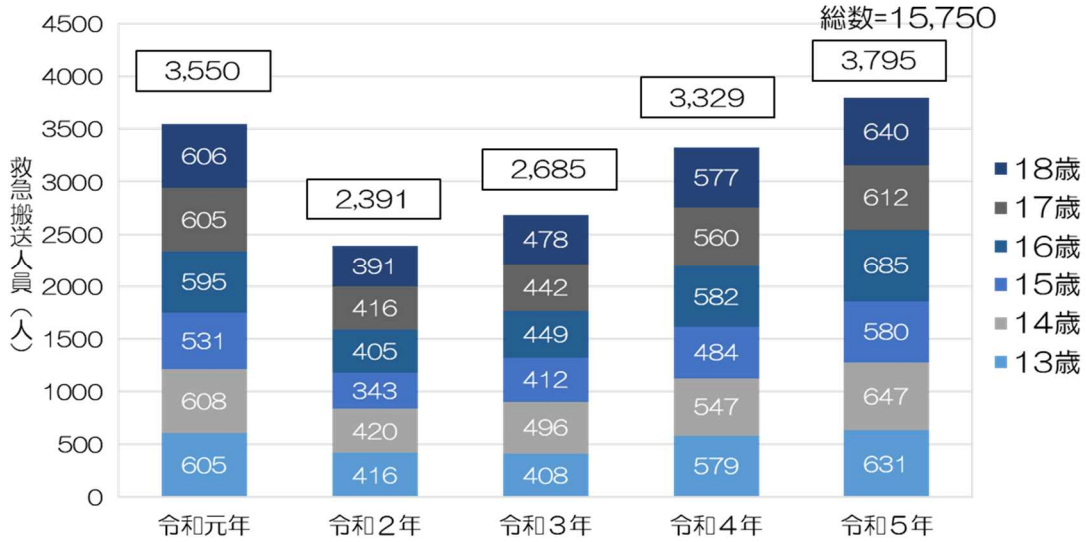


図3-14 年別の救急搬送人員（13歳～18歳）

#### イ 月別搬送人員

6月が最も多く搬送されています（図3-15）。

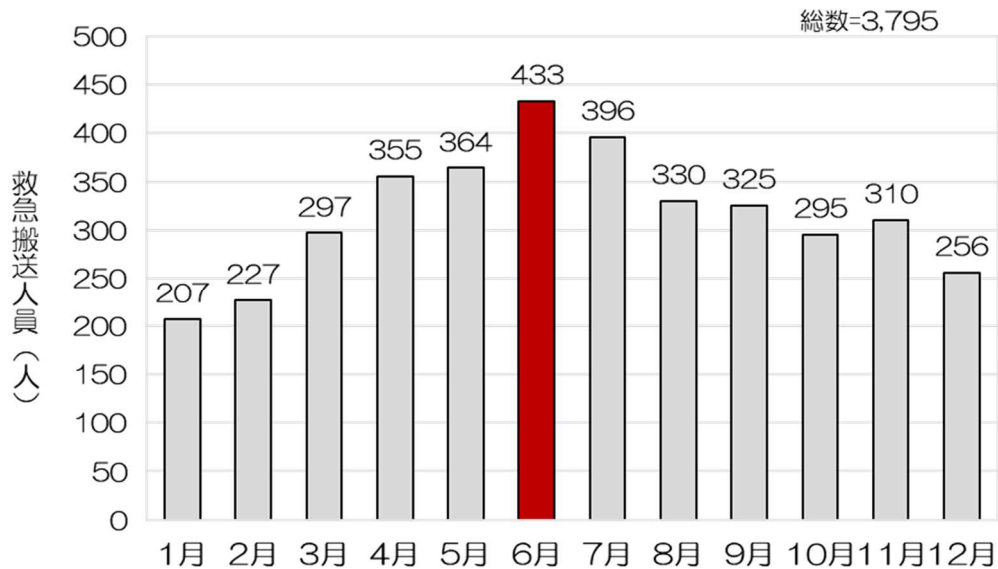


図3-15 月別の救急搬送人員

## ウ 発生場所別搬送人員

全年齢別で唯一、学校・児童施設等が最も多く、次いで住宅等居住場所が多くなっています（図3-16）。

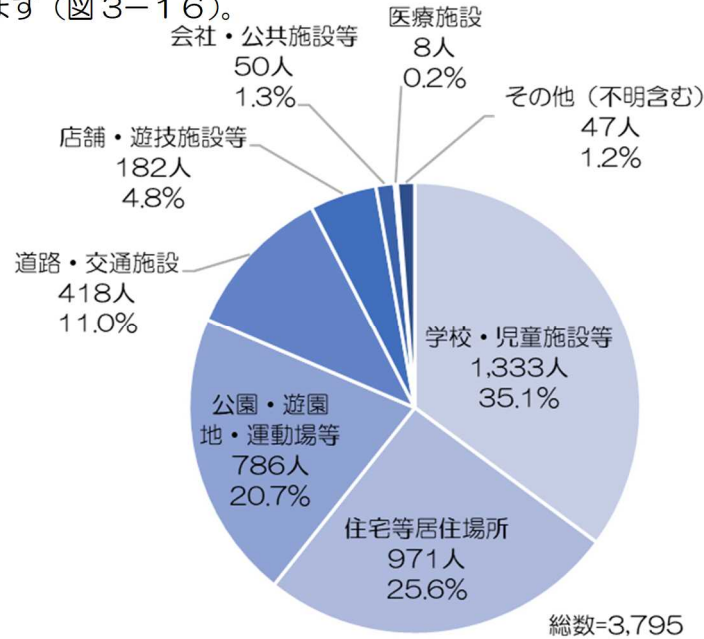
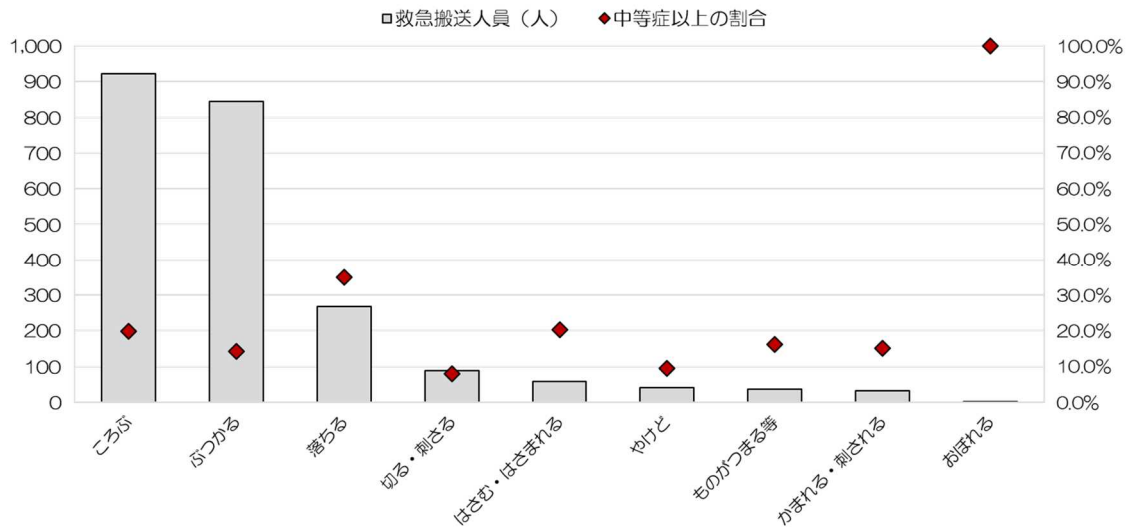


図3-16 発生場所別の救急搬送人員

## エ 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が最も多くなっています（図3-17）。

「ぶつかる」事故では、学校の授業やクラブ活動での人同士の衝突やボール等による事案が発生しています。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	やけど	ものがつまる等	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	922人	844人	268人	88人	59人	42人	37人	33人	2人
中等症以上の割合	20.0%	14.3%	35.1%	8.0%	20.3%	9.5%	16.2%	15.2%	100.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-17 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

## オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

人と「ぶつかる」事故が多く発生しています。

また、スポーツでボールにぶつかる等の事故も多くなっています（表3-6）。

表3-6 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・ はさまれる	やけど	ものが つまる等	かまれる・ 刺される	おぼれる
1位	人	人	階段	ナイフ	自転車	鍋	魚等の骨	動物等	浴槽 プール
	67人	291人	102人	33人	4人	7人	4人	18人	
2位	階段	ボール	人	食器類	手動ドア	味噌汁・スープ	洗剤等	虫	各1人
	49人	192人	18人	9人	3人	6人	3人	14人	
3位	スケートボード	壁・天井	跳び箱	窓・サッシ ミシン（ミシン針 含む）	自動車のドア バーベル 鉄道車両	カップ麺 熱湯 天ぷら油	入れ歯 電池 虫 耳かき・綿棒		
	23人	25人	8人						
4位	ボール	バット	石・土砂	各5人					
	19人	23人	7人						
5位	椅子	手動ドア	ヘッド 鉄棒	スライサー	各2人	各5人	各2人		
	13人	20人	各6人	4人					

## カ 13歳～18歳の事事故事例

### 【事例1 人とぶつかる】

サッカー競技中に相手選手の肘が顔面にぶつかり受傷した。（16歳 中等症）。

### 【事例2 鉄棒から落ちる】

体育の授業中に高さ約2mの鉄棒から前のめりに転落し、両手首を受傷した（14歳 中等症）。

### 【事故防止ポイント】

中学生、高校生の年代では、運動中の事故が多く発生しています。

- ✓ウォーミングアップやストレッチは入念に行い、けがの予防に努めましょう。
- ✓指導者や保護者等は、普段の練習や競技の前には事故防止の注意喚起を行うとともに、不測の事態に備え、応急手当、AED（自動体外式除細動器）の使用方法等を身につけましょう。

#### (4) 19歳～64歳の事故

##### ア 年別搬送人員

令和5年中に45,065人が救急搬送されています（図3-18）。

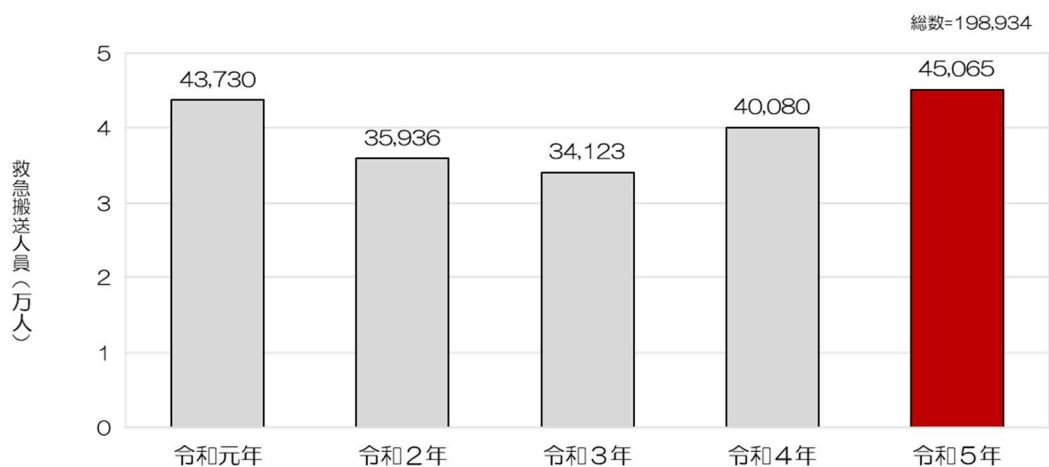


図3-18 年別の救急搬送人員

##### イ 月別搬送人員

月別に見ると、7月に最も多く搬送され、次いで8月、12月と続きます（図3-19）。

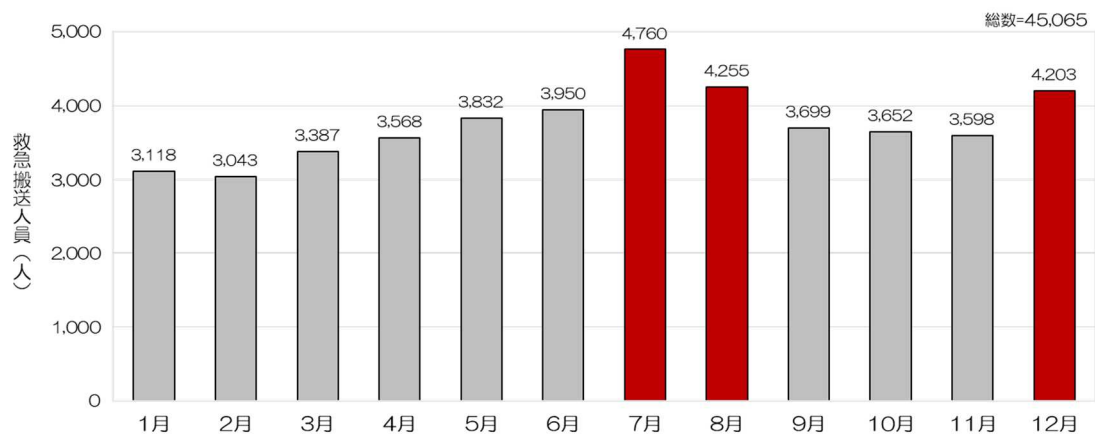


図3-19 月別の救急搬送人員

## ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所、道路・交通施設での事故が多く発生しています(図 3-20)。

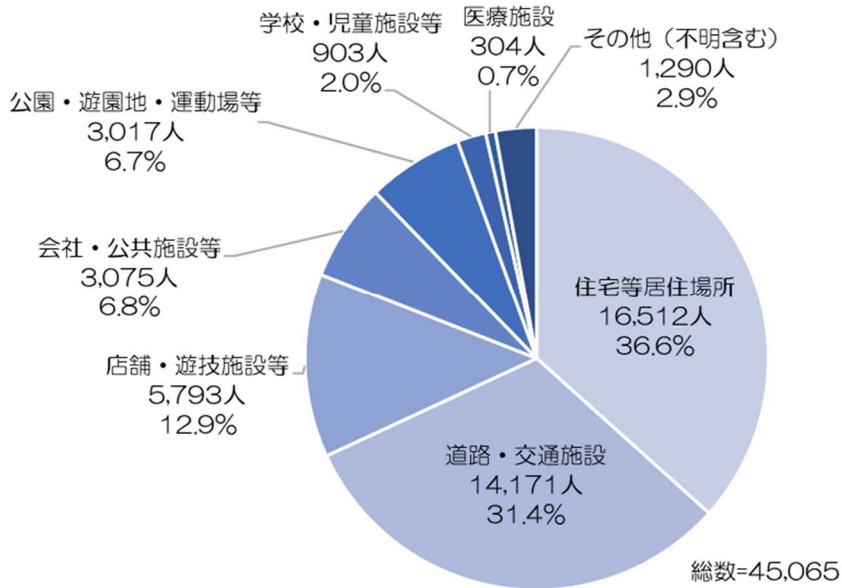
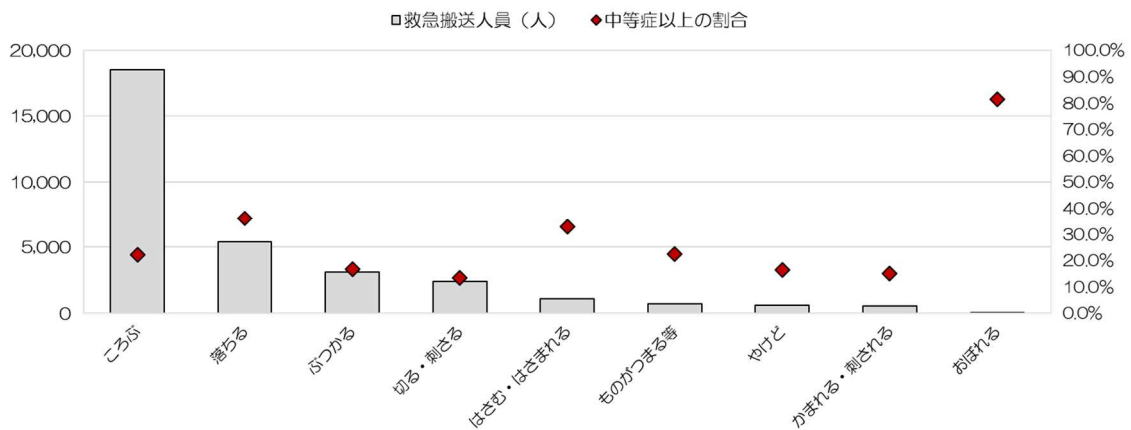


図 3-20 発生場所別の救急搬送人員

## エ 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故が最も多く発生しています。

「おぼれる」事故は中等症以上の割合が8割以上と最も高く、「おちる」事故と「はさむ・はさまれる」事故も3割以上が中等症以上となっています(図 3-21)。



事故種別	ころぶ	おちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺さる	おぼれる
救急搬送人員	18,528人	5,400人	3,101人	2,365人	1,108人	681人	590人	521人	32人
中等症以上の割合	22.2%	36.1%	16.5%	13.4%	32.9%	22.3%	16.4%	15.0%	81.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-21 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合



## オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故は飲酒後の転倒が多くなっており、階段や段差でも多く発生しています。

「落ちる」事故は、階段が多くなっています（表3-8）。

表3-7 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	酒類	階段	人	ナイフ	その他の機械	洗剤等	鍋	動物等	浴槽
	3,387人	2,774人	352人	956人	72人	61人	118人	287人	15人
2位	階段	脚立・踏み台・足場	ポール	食器類	自動車	肉	熱湯	虫	河川
	1,634人	398人	182人	297人	66人	56人	100人	227人	9人
3位	段差	椅子	壁・天井	スライサー	手動ドア	包み・袋	天ぷら油		プール
	889人	167人	165人	125人	64人	55人	50人		1人
4位	自転車	エスカレーター	手動ドア	電気のかぎり	プレス機	魚等の骨	ポット・魔法瓶		
	583人	159人	135人	95人	41人	40人	40人		
5位	椅子	ベッド	その他の家具	針・ヘアピン・釘等	建材	薬剤	味噌汁・スープ		
	411人	138人	130人	61人	39人	36人	31人		

※「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

※「はさむ・はさまれる」におけるその他の機械とは、攪拌機、ウインチ、梱包機等

## カ 19歳～64歳の事事例

### 【事例1 ホームから落ちる】

飲酒後、ホーム上を歩いていた際に誤って軌道敷内に転落し受傷した（30代 重症）。

#### 【事故防止ポイント】

飲酒後や歩きスマホで駅のホームから墜落する事故が多く発生しています。

✓ホームの線路側を歩かないようにし、墜落防止をしましょう。

### 【事例2 機械に指をはさむ】

精米機のモーターの調子が悪く点検していたところ、モーターが突然動き出し、右手親指を受傷した（50代 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

機械を稼働させたまま不具合や点検を行い、受傷する事故も発生しています。

✓機械によるはさむ・はさまれる事故は重症化しやすいことを認識しましょう。

✓機械の点検、掃除、修理をする場合には、機械の電源を切り、コンセントを抜くなど、誤って電源が入ることがないことを確認してから作業しましょう。

(5) 65歳以上（高齢者）の事故

① 65歳以上（高齢者）

ア 年別搬送人員

令和5年中に90,495人が救急搬送されています（図3-22）。

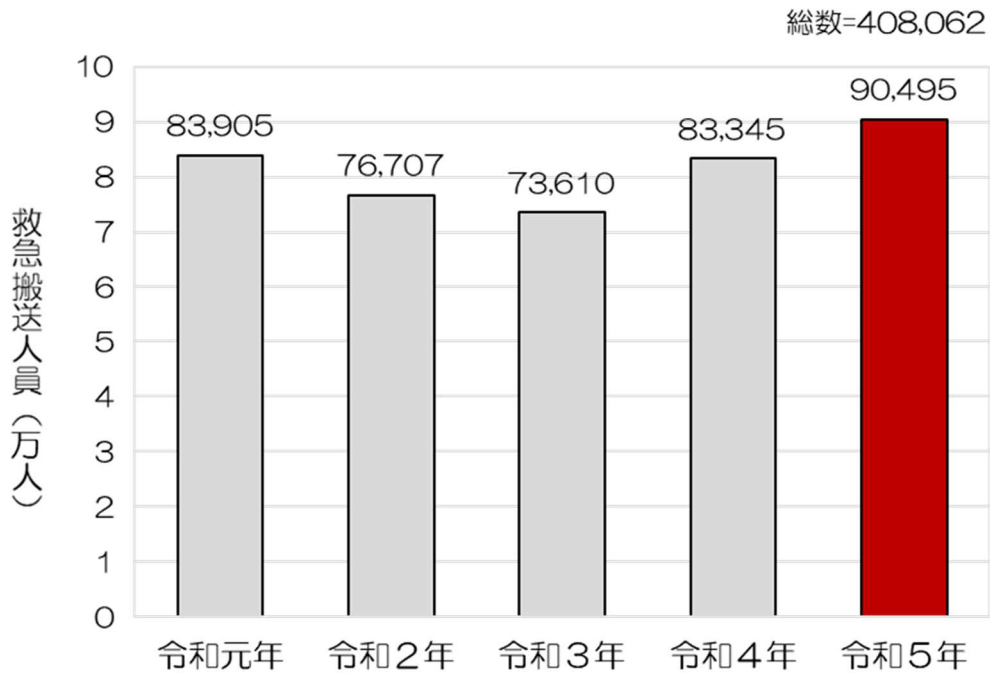


図3-22 年別の救急搬送人員

イ 月別搬送人員

月別に見ると、12月と7月に多く搬送されています（図3-23）。

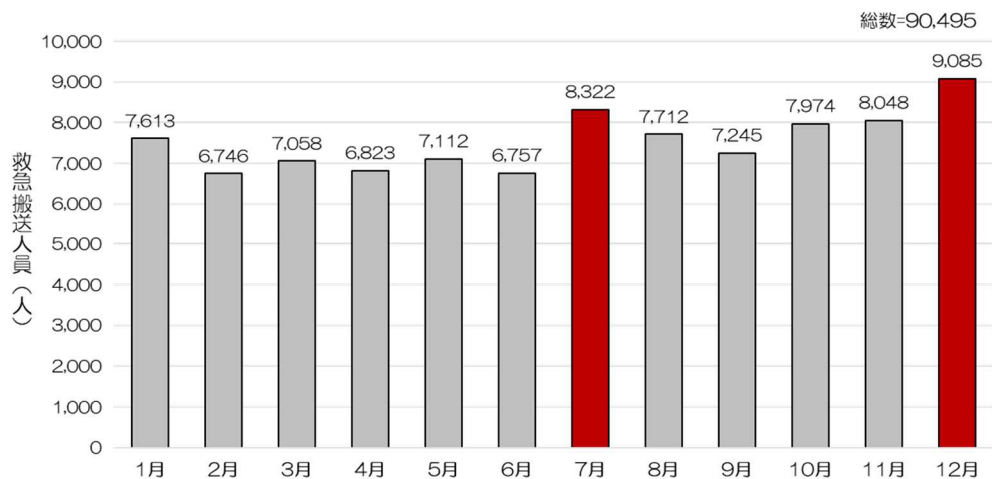


図3-23 月別の救急搬送人員

## ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所での事故が6割を超え、道路・交通施設での事故と合わせると約9割を占めています（図3-24）。

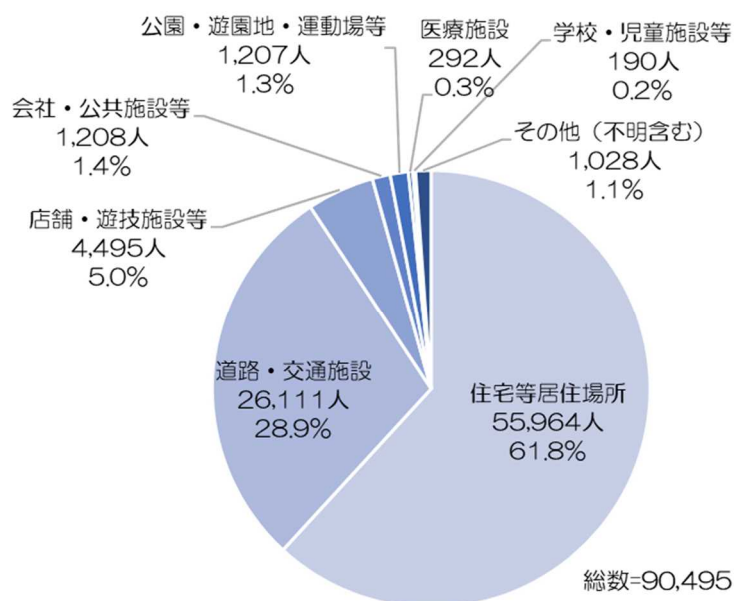


図3-24 発生場所別の救急搬送人員

## エ 初診時程度別搬送人員

高齢者は入院を必要とする中等症以上となる割合が高く、4割以上となっています（図3-25）。

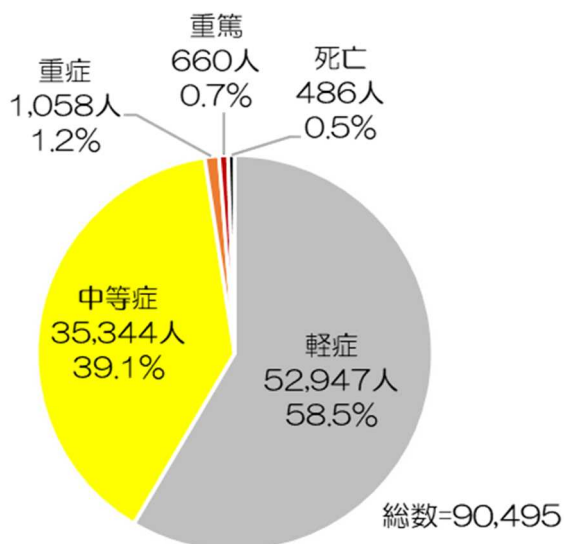


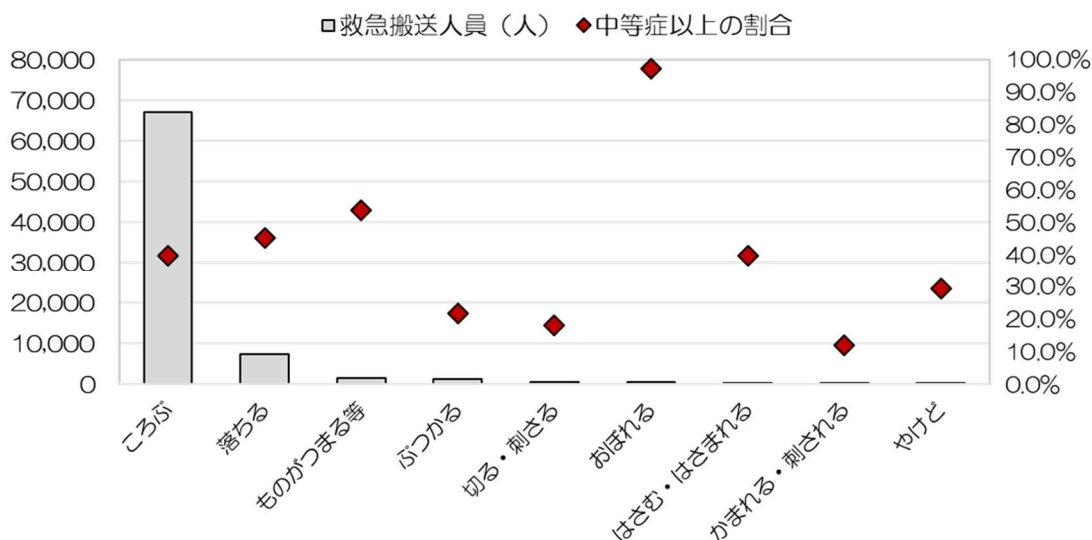
図3-25 初診時程度別の救急搬送人員

## オ 事故種別ごとの搬送人員

65歳以上は中等症以上の割合が高いです。

- ・「おぼれる」事故は、97.2%（最多）
- ・「ものがつまる等」の事故は5割以上
- ・「落ちる」事故は4割以上

他の年代と比べ、重症化しやすくなっています（図3-26）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	切る・刺さる	おぼれる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど
救急搬送人員	67,054人	7,429人	1,644人	1,237人	514人	460人	354人	245人	214人
中等症以上の割合	39.8%	45.1%	53.6%	21.7%	18.1%	97.2%	39.5%	11.8%	29.4%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-26 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

## カ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故は、**段差**や**階段**で多く発生しています。飲酒に起因する事故も多く発生しています。

「落ちる」事故は、**階段**や**ベッド**が多くなっており、「おぼれる」事故は、ほとんどが**浴槽**で発生しています（表3-8）。

表3-8 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	切る・刺さる	おぼれる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど
1位	段差	階段	包み・袋	その他の家具	ナイフ	浴槽	手動ドア	虫	熱湯
	3,697人	3,379人	153人	83人	183人	439人	39人	123人	112人
2位	酒類	ベッド	入れ歯	壁・天井	電気のござり	河川	ベッド	動物等	ヤカン
	2,537人	1,376人	110人	75人	51人	9人	22人	120人	28人
3位	階段	椅子	おかゆ類	人	食器類	プール	壁・天井		鍋
	2,231人	518人	86人	65人	31人	6人	20人		27人
4位	椅子	脚立・踏み台・足場	肉	柱	ハサミ・爪切り		自動車のドア		ポット・魔法瓶
	1,778人	432人	75人	64人	29人		15人		23人
5位	ベッド	エスカレーター	洗剤等	手動ドア	スライサー		プレス機		味噌汁・スープ
	1,217人	271人	68人	55人	23人		14人		22人

※ 「ぶつかる」におけるその他の家具とは、棚、タンス等

## キ 65歳以上（高齢者）の事故事例

### 【事例1 餅を詰まらせる】

大福餅を食べていたところ、突然苦しみだし倒れ、声をかけたが反応がなかった（80代 重篤）。

#### 【事故防止ポイント】

高齢者の「ものがつまる等」の事故は**5割以上**が中等症以上と診断されています。

✓食べ物は小さく切ってよく噛んで食べましょう。

### 【事例2 包みの誤飲】

就寝前に薬を飲もうとした際、誤って薬包ごと1錠分飲み込んでしまった（80代 軽症）。

#### 【事故防止ポイント】

高齢者が薬を服用する際は、パッケージを飲み込まないように、適時様子を見るなど注意を払いましょう。



【事例3 ころぶ事故】

自宅内のカーペットにつまずき転倒した際に右股関節を受傷した（60代 重症）。

【事故防止ポイント】

高齢者のころぶ事故の**4割**が中等症以上と診断されています。

- ✓個人に合った適度な運動を続け、体の機能の低下を防ぎましょう。
- ✓自宅内では整理整頓を心がけ、家具や敷物による転倒を防止しましょう。

【事例4 脚立から落ちる】

自宅の電球を交換しようと約1mの脚立に乗り作業をしていたところ、バランスを崩し転落した（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

**脚立や踏み台**に上がって作業や清掃をしていて転落する事故が多く発生しています。

- ✓脚立の天板の上に乗って作業しないようにしましょう。
- ✓安定した足場を選び、バランスを崩さないようにしましょう。
- ✓使用時は補助者に支えてもらいましょう。
- ✓年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控えましょう。



## ② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）

### ア 年別搬送人員

過去5年の推移を見ると、前期高齢者、後期高齢者ともに、令和3年まではコロナ禍の影響もあり減少傾向でしたが、令和4年から増加傾向に転じています（図3-27、図3-28）。

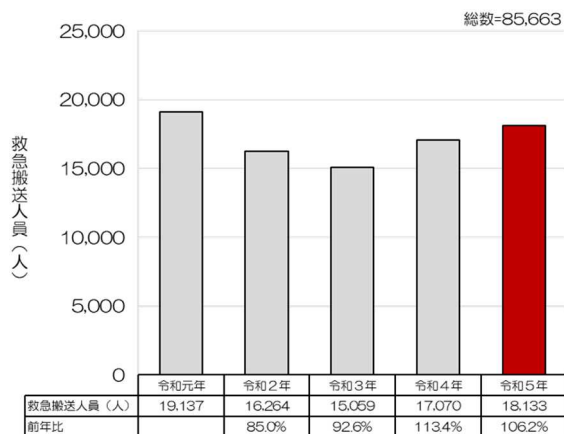


図3-27

年別の救急搬送人員（前期高齢者）

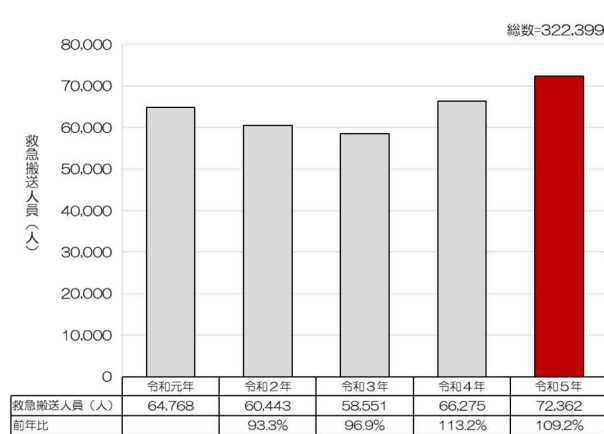


図3-28

年別の救急搬送人員（後期高齢者）

### イ 初診時程度別搬送人員

前期高齢者では中等症以上の割合が約3割ですが、後期高齢者になると、さらに増加して4割以上を占めています（図3-29、図3-30）。

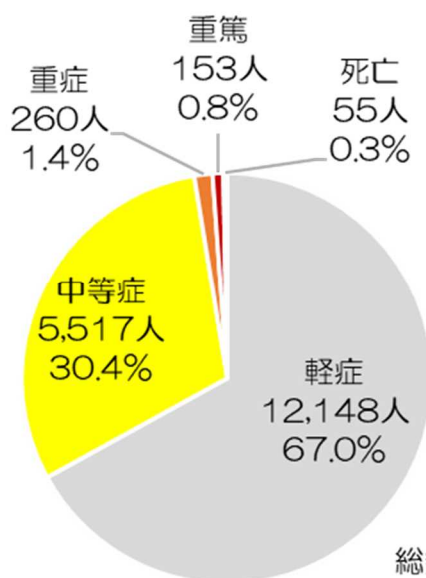


図3-29

初診時程度別（前期高齢者）

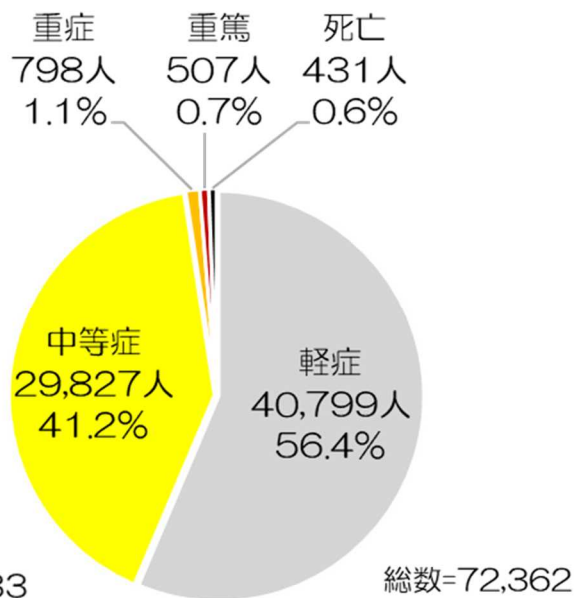


図3-30

初診時程度別（後期高齢者）

## ウ 発生場所別搬送人員

前期高齢者では住宅等居住場所での事故が最も多く4割以上を占めています。次いで多いのが道路・交通施設でこちらも約4割を占めています。

一方で、後期高齢者になると住宅等居住場所での割合が増加し、約7割を占めています（図3-31、図3-32）。

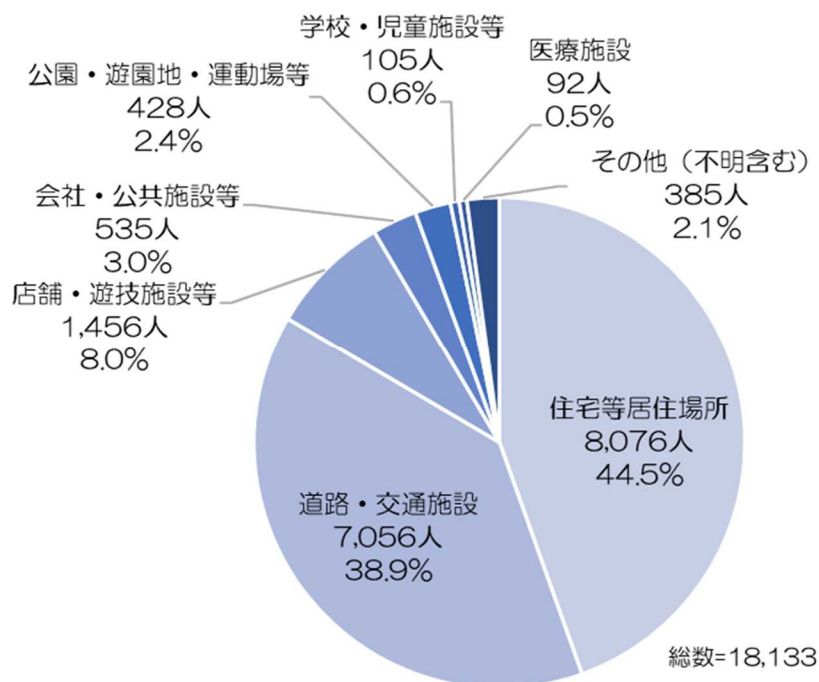


図3-31 発生場所別の救急搬送人員（前期高齢者）

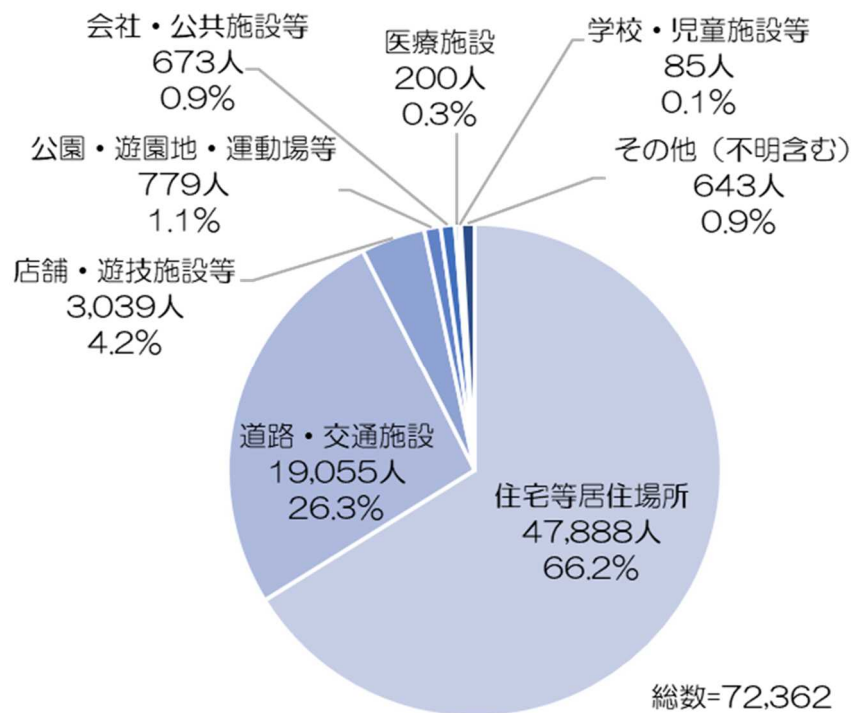
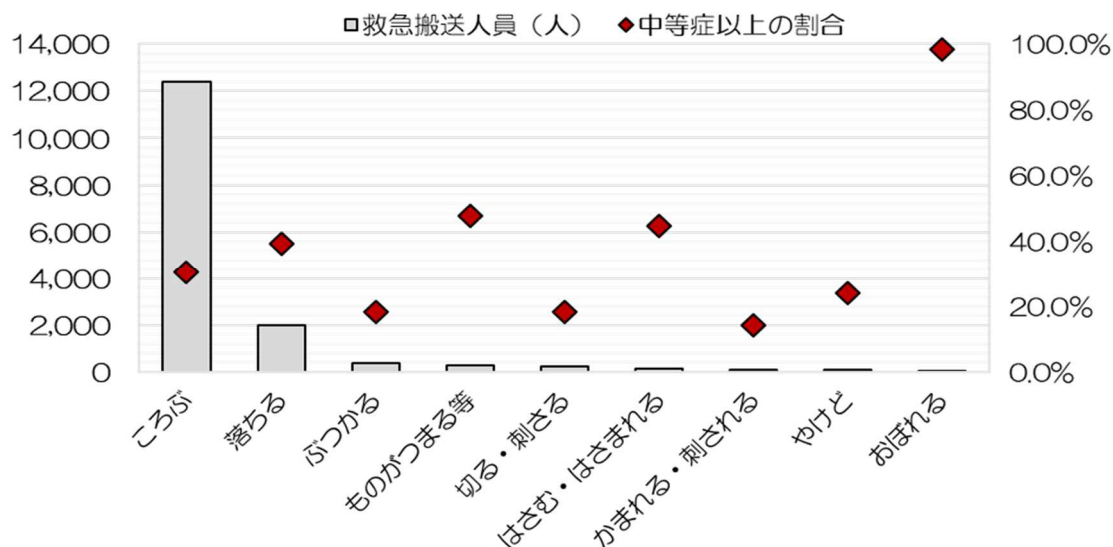


図3-32 発生場所別の救急搬送人員（後期高齢者）



## エ 事故種別ごとの搬送人員

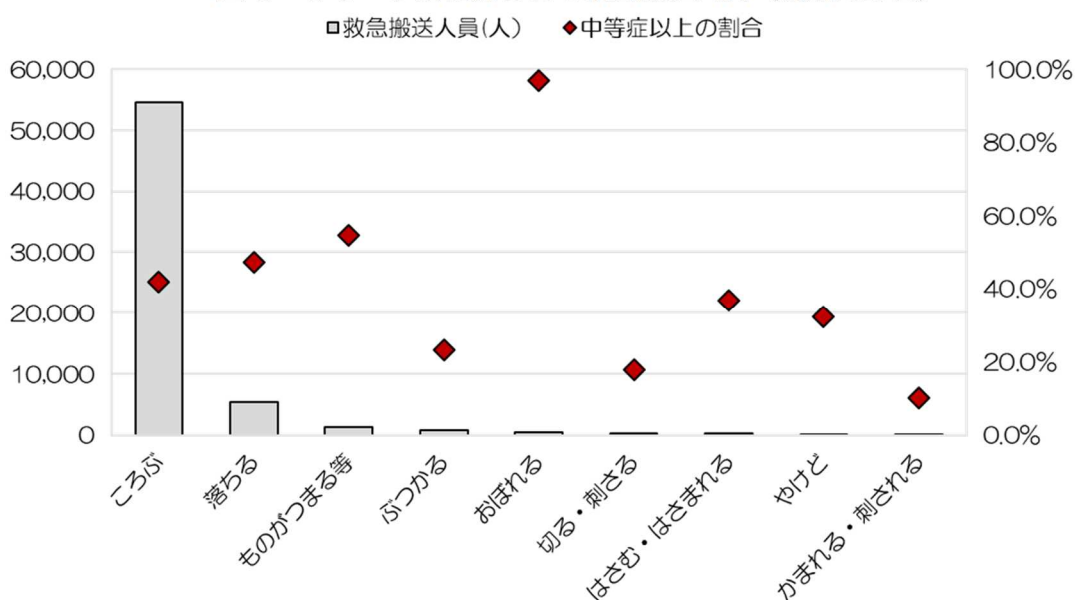
前期高齢者と後期高齢者で中等症以上の割合の高さを比較すると、「切る・刺さる」、「はさむ・はさまれる」、「かまれる・刺される」では、前期高齢者が高くなっており、「ころぶ」、「落ちる」、「ぶつかる」、「ものがつまる等」、「やけど」では、後期高齢者が高くなっています。「おぼれる」ではほぼ同率でした（図3-33、図3-34）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど	おぼれる
救急搬送人員	12,391人	2,009人	391人	274人	228人	125人	106人	71人	62人
中等症以上の割合	30.4%	39.3%	18.4%	47.8%	18.4%	44.8%	14.2%	23.9%	98.4%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-33 事故種別ごとの救急搬送人員（前期高齢者）



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	おぼれる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される
救急搬送人員	50,024人	4,499人	1,399人	862人	347人	274人	149人	135人	128人
中等症以上の割合	41.6%	46.6%	53.8%	21.1%	98.6%	17.9%	30.9%	32.6%	9.4%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-34 事故種別ごとの救急搬送人員（後期高齢者）

## 2. 年齢層別での比較

### (1) 年代別搬送人員での比較

過去5年の年代別救急搬送人員を比較すると、各年代で増減の形は年ごとに異なりますが、令和5年は令和4年と比べ、すべての年代で増加しています。

また、増加数で見ると80代の増加数が最も大きくなっています（図3-35）。

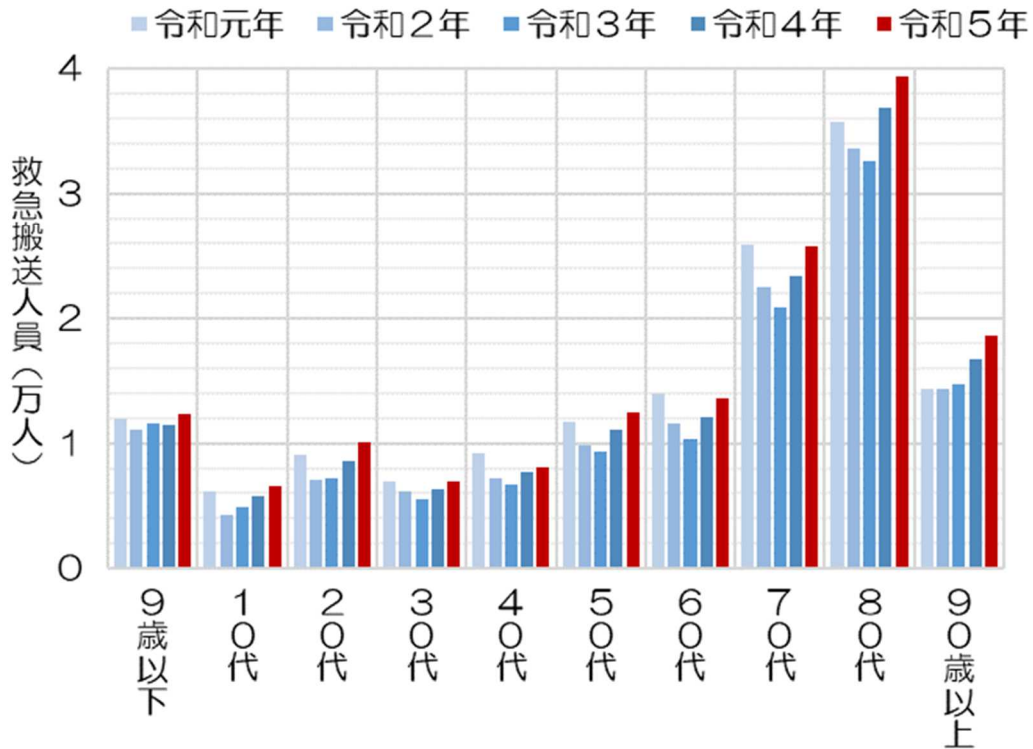


図3-35 過去5年間の年代別搬送人員

## (2) 事故種別（その他、不明を除く）での比較

令和5年では、「ころぶ」事故は全年代で最も多くの割合を占めており、40代を超えると全体の5割以上を占めています。

「ぶつかる」事故は、10代、20代のみが「ころぶ」事故に続き2番目の割合を占めています（他年代では「落ちる」が2番目）。

「落ちる」事故は、9歳以下の年代以外では1割から2割であるのに対して、9歳以下では約3割を占めています。

「ものがつまる等」の事故では、9歳以下と70代以降の年代で割合が多くなっていきます（図3-36から図3-37まで）。

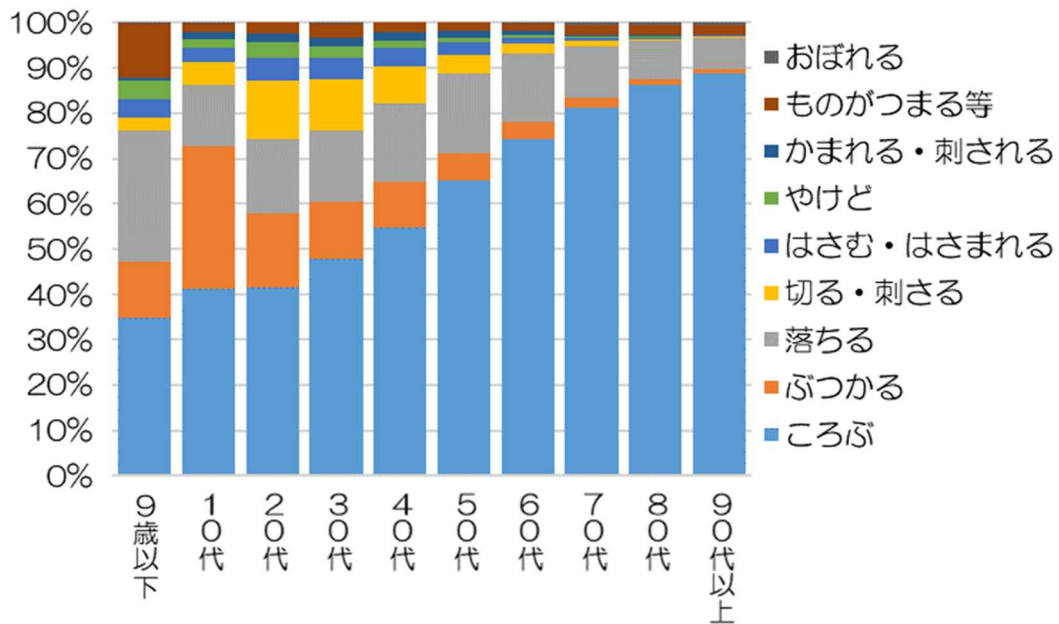


図3-36 年代別での事故種別割合（その他、不明を除く）

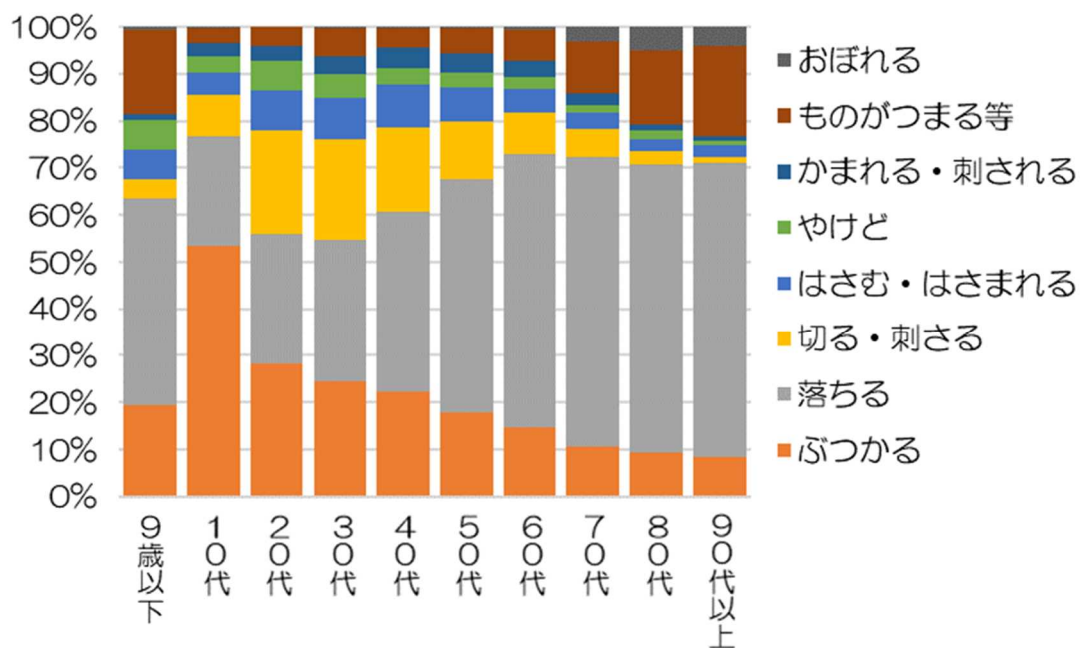


図3-37 年代別での事故種別割合（ころぶ、その他、不明を除く）

### (3) 時間帯別の比較

令和5年は、9歳以下では17時台から20時台までの時間帯で1,000人以上が救急搬送されています。

10代では日中が多くなっており、20代から50代までにかけては夜間に増加しています。

60代では夜間に加えて、日中も多くの方が救急搬送されています。

70代以上では夜間の救急搬送が減少し、日中の中でも特に午前中に多くの方が救急搬送されています（図3-38から図3-39まで）。

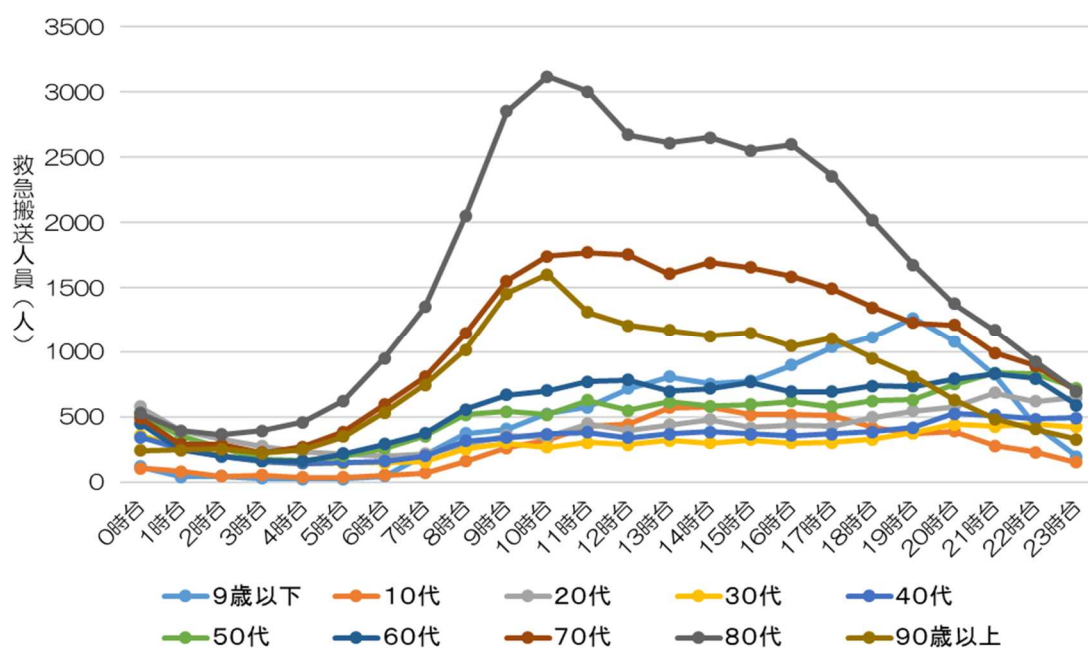


図3-38 年代別の時間帯別搬送人員(全体)

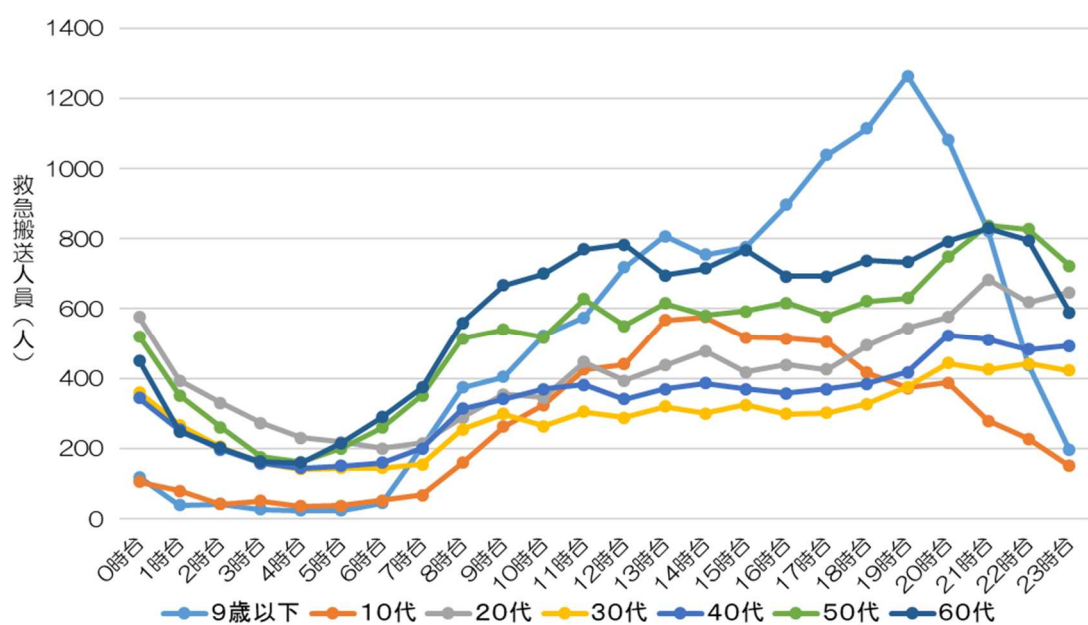


図3-39 年代別の時間帯別搬送人員(70代以上を除く)

# 第4部 初診時程度（死亡・重篤）から見た事故

## 1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、令和元年から令和5年までの5年間に日常生活における事故により救急搬送された**8,375人**が、初診時程度が死亡または重篤でした。

令和5年中は、**1,685人**が死亡または重篤でした（図4-1）。

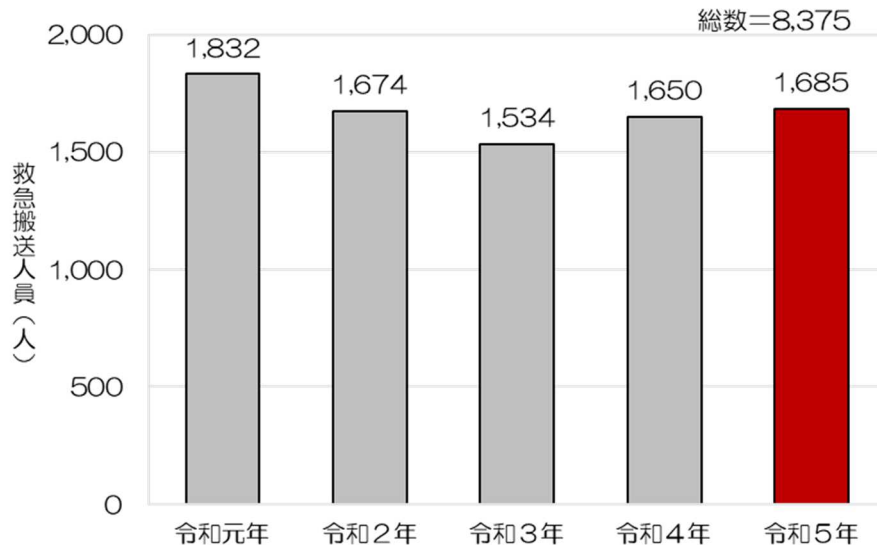


図4-1 年別の救急搬送人員

## 2. 月別搬送人員

月別に見ると、1月の**207人**が最も多く、次いで12月に死亡・重篤となる事案が多く発生しています（図4-2）。

年末年始の餅による「ものがつまる等」の事故、冬の入浴による「おぼれる」事故が増える時期に死亡・重篤となる事案が増える傾向が見られます。

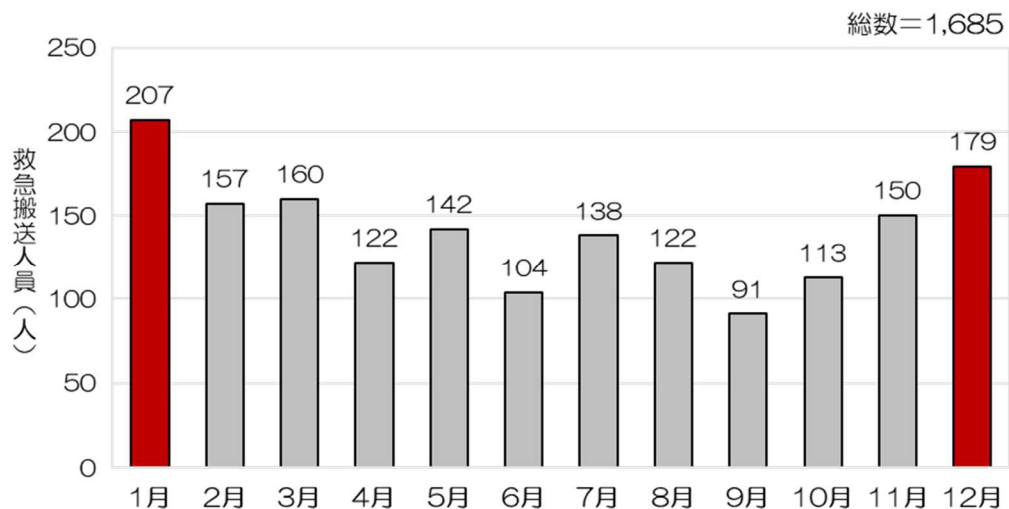


図4-2 月別の救急搬送人員

### 3. 事故種別ごとの搬送人員

令和5年では、「ものがつまる等」「おぼれる」事故が多く、その2つで全体（その他、不明を除く）の約7割を占めています。

また、落ちる事故も2割以上を占めています（図4-3）。

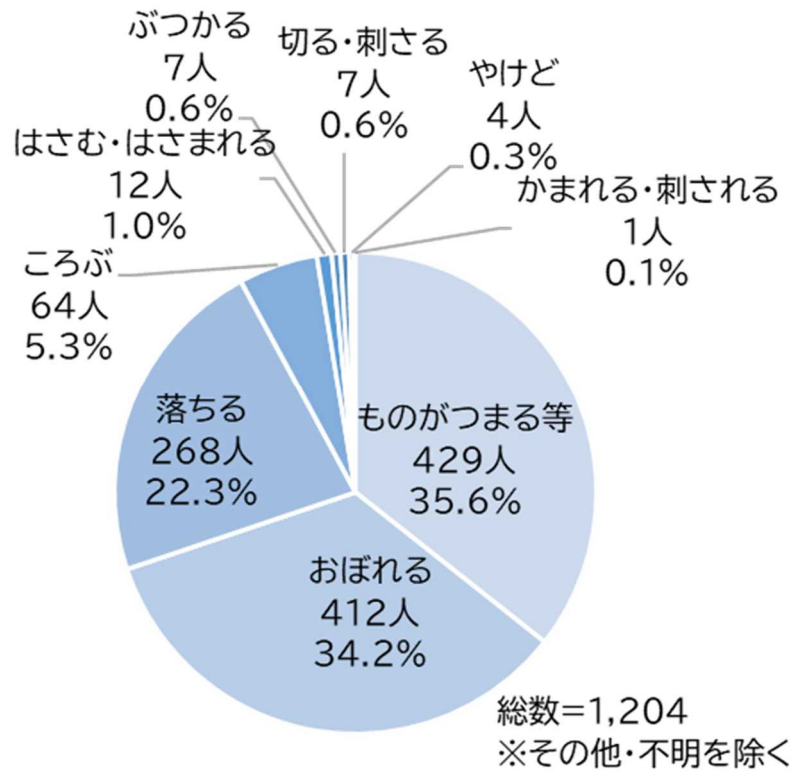


図4-3 事故種別ごとの救急搬送人員（その他、不明を除く）

#### 4. 時間帯別・事故種別ごとの搬送人員

時間帯及び事故種別ごとに見ると、時間帯としては12時台及び17時台から19時台までで多くなっています。

食事の時間帯に「ものがつまる等」の事故が多く発生しており、また、入浴をする夜の時間帯に「おぼれる」事故が多く発生しています（図4-4）。

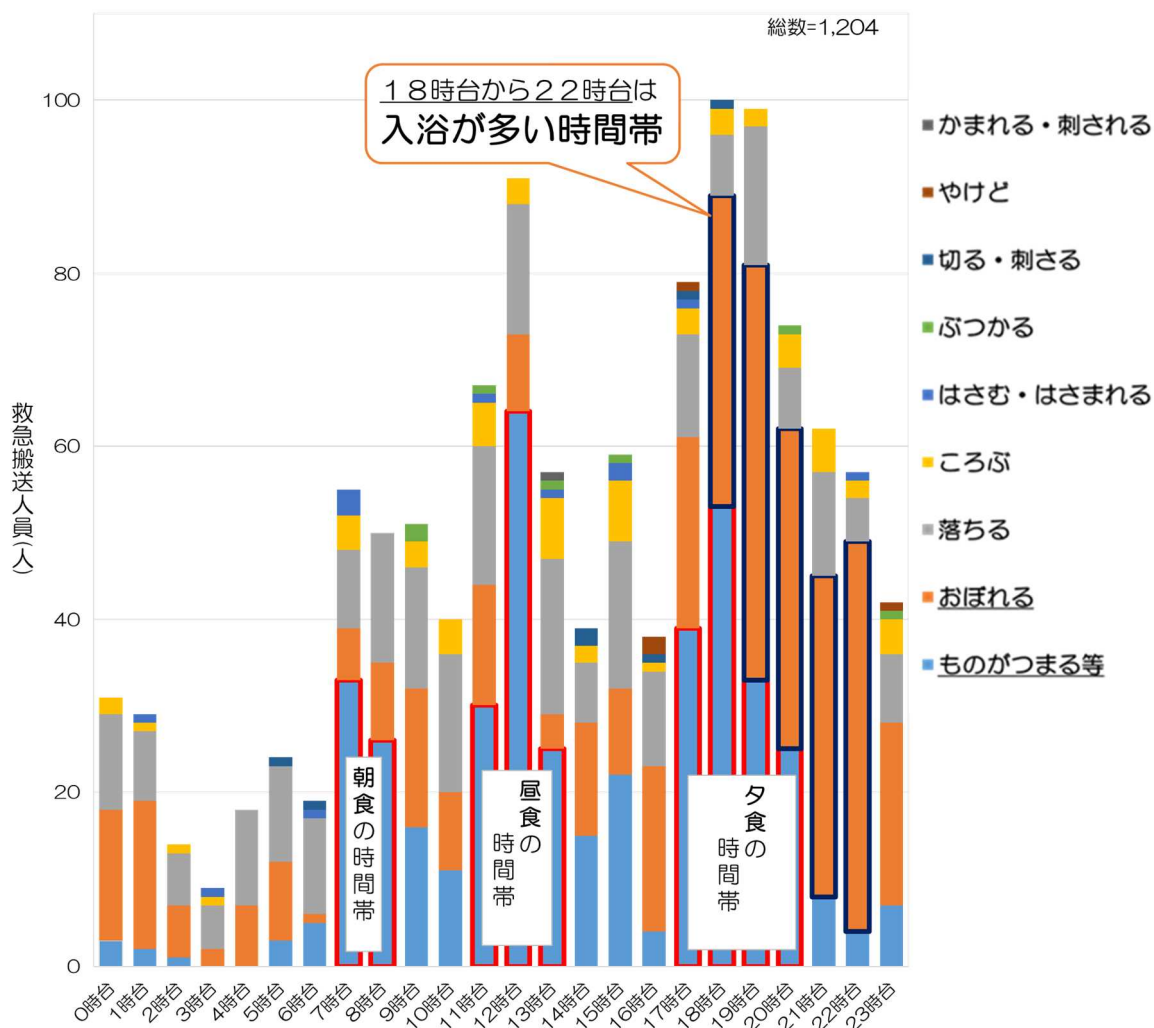


図4-4 時間帯別・事故種別ごとの救急搬送人員（その他、不明を除く）

## 5. 年代別・発生場所別の搬送人員

年代別に見ると、70代と80代で全体の5割以上を占めています。発生場所別に見ると、住宅等居住場所が7割以上を占めています（図4-5）。

住宅等居住場所を除いて見てみると、年代別では70代が約2割を占めています。発生場所別では道路・交通施設が4割以上を占めています（図4-6）。

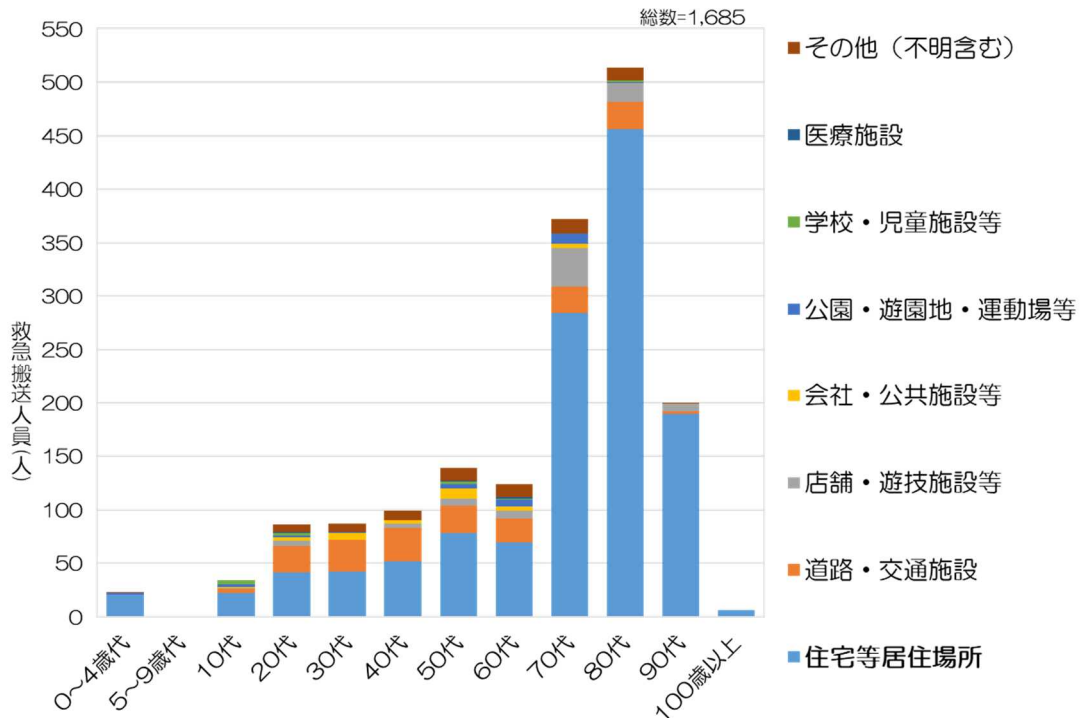


図4-5 年代別・発生場所別の救急搬送人員

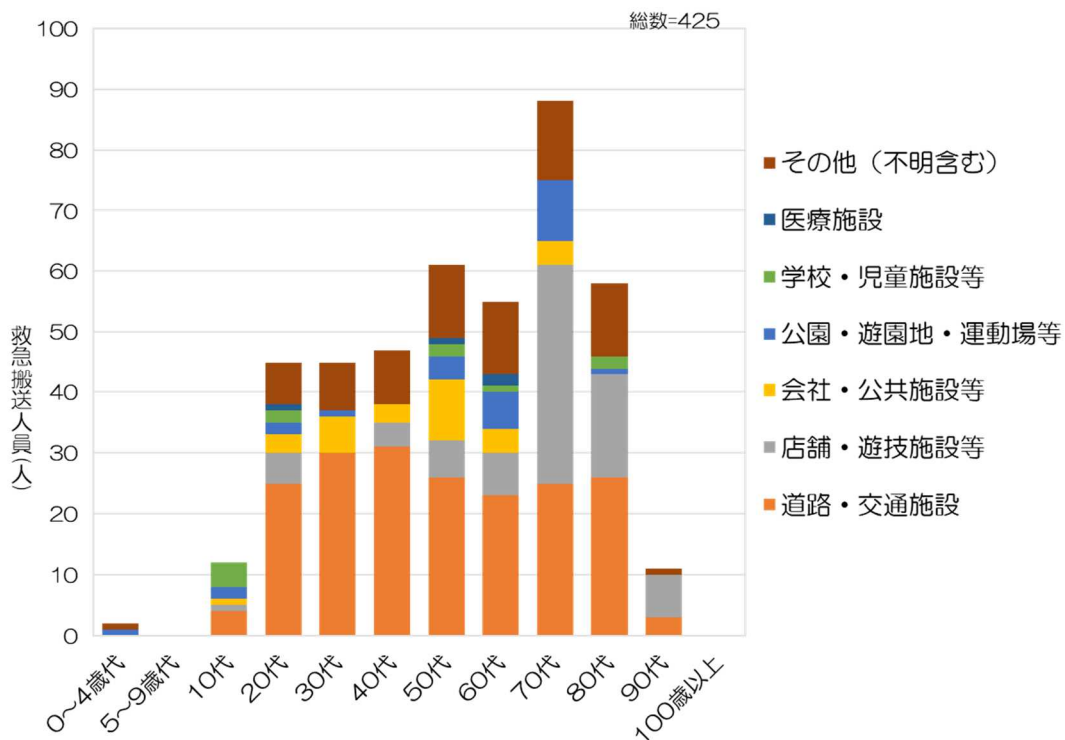


図4-6 年代別・発生場所別の救急搬送人員（住宅等居住場所を除く）



## 6. 事故種別ごとに見る死亡・重篤事故

### (1) ものがつまる等

#### ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、70代から90代までが全体の約9割を占めています（図4-7）。

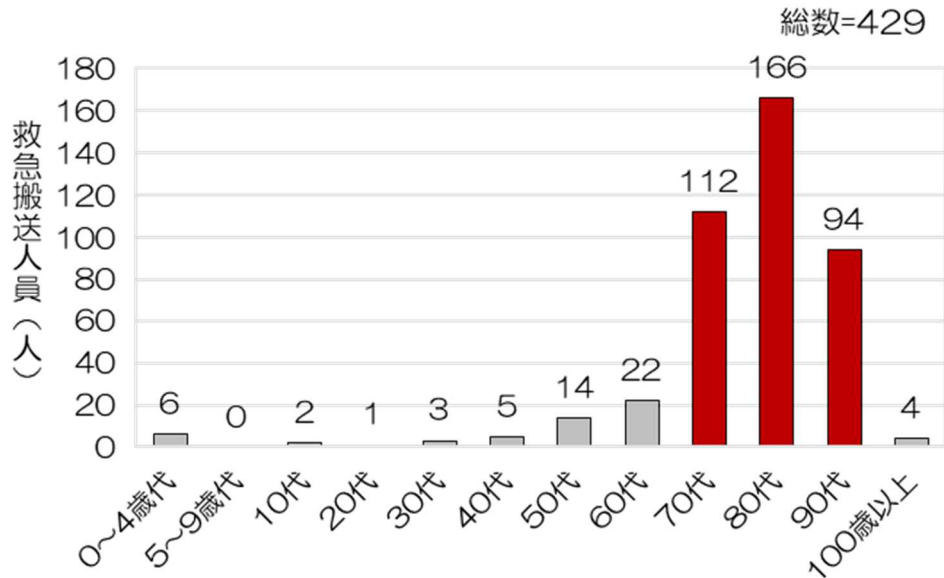


図4-7 年代別の救急搬送人員

#### イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「ものがつまる等」の事故全体では、玩具類、食べ物、洗剤、包み・袋といった要因が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ると、食べ物による事故が多くを占めています（表4-1）。

表4-1 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	食物 2人	パン、菓子、惣菜、ミルク 各1人			
20代~50代	食物 7人	パン 4人	肉 3人	餅 2人	野菜・果物等 1人
60代以上	食物 201人	おかゆ類 41人	餅 25人	肉 22人	パン 20人

※その他、不明を除く

#### 【事例 ものがつまる等】

食事中にステーキを喉に詰まらせ意識がなくなった（90代 死亡）。

(2) おぼれる

ア 年代別の搬送人員

70代から90代までが全体の約9割を占めています（図4-8）。

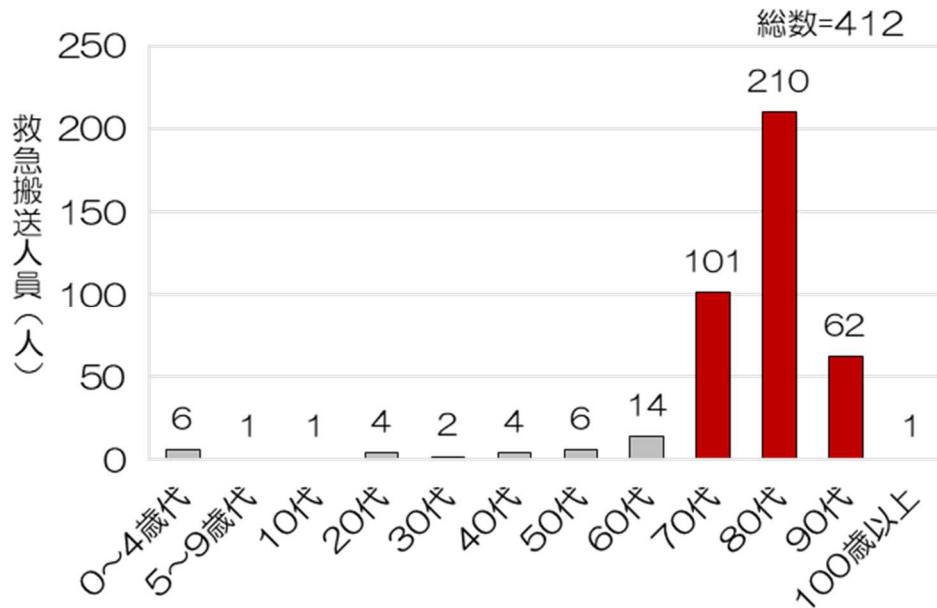


図4-8 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「おぼれる」事故全体では、浴槽での事故が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ても、浴槽での事故が多くを占めています（表4-2）。

表4-2 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
	10代以下		浴槽 6人	河川 1人		
20代~50代		浴槽 10人	河川 4人	海 2人		
60代以上		浴槽 371人	河川 11人	プール 4人		

※その他、不明を除く

【事例 おぼれる】

声をかけた時は湯船で入浴しており、再度、様子を見に行くと湯船に顔まで浸かり、呼びかけに反応がなかった（70代 重篤）。

(3) 落ちる

ア 年代別の搬送人員

50代と70代が特に多くなっていますが、10代以下や90代以上を除き、各年代において死亡・重篤事故が多く発生しています（図4-9）。

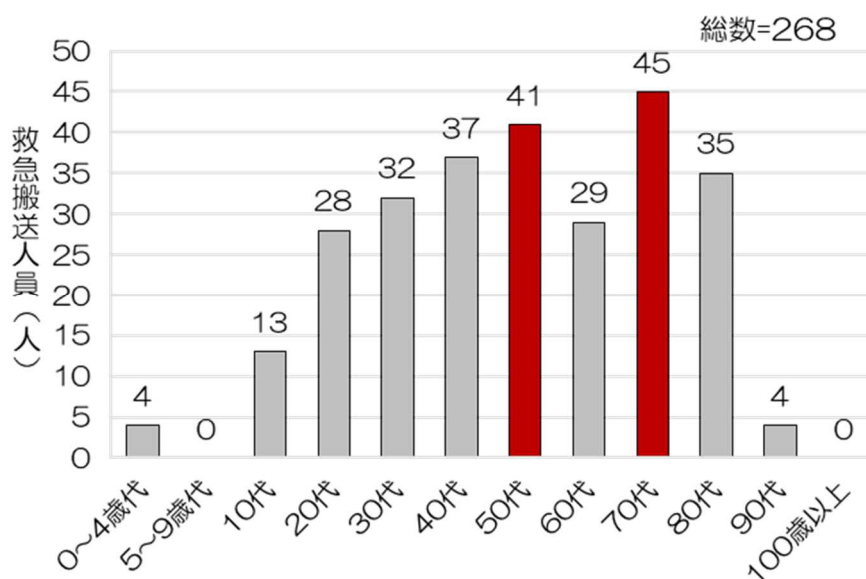


図4-9 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「落ちる」事故全体では、階段、ベッド、椅子といった要因が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ると階段が要因の事故が多くなっています。

20代以上では脚立・踏み台・足場による事故も多くを占めています（表4-3）。

表4-3 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下		屋根	ベッド、石・土砂		階段、人、窓	
		3人	各2人		各1人	
20代~50代		階段	脚立・踏み台・足場	屋根	石・土砂	ホーム、窓等
		17人	11人	5人	4人	各3人
60代以上		階段	石垣	屋根	梯子・タラップ、ホーム等	
		41人	4人	3人	各2人	

※その他、不明を除く

【事例 落ちる】

住宅の屋根に上って庭の樹木を剪定していたが、屋根が濡れていたため滑ってしまい、約3mを墜落し腰背部を受傷した（70代 重篤）。

(4) ころび

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、70代、80代で多く発生しています（図4-10）。

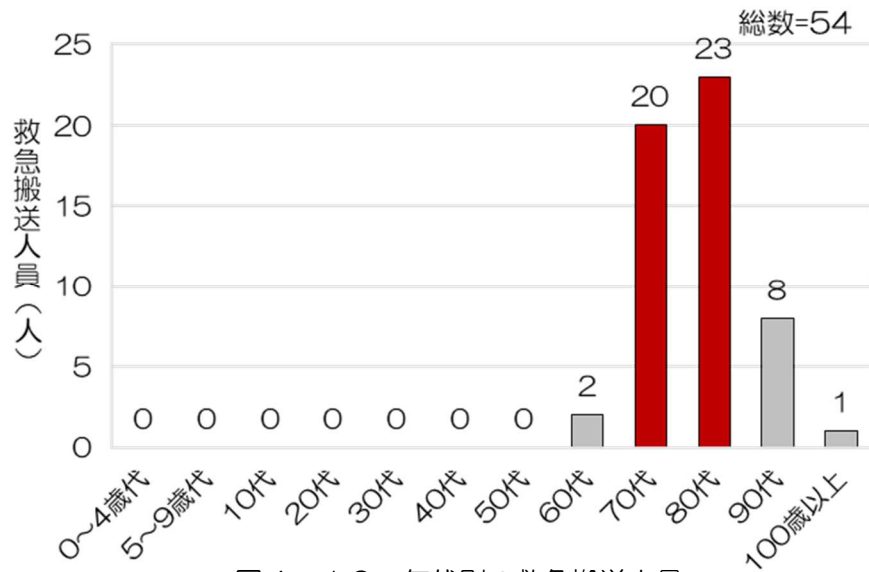


図4-10 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

50代以下では「ころび」事故による死亡・重篤事故は発生していません。

60代以上では、椅子をはじめとして様々な要因で死亡・重篤事故が発生しています（表4-4）。

表4-4 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
60代以上	椅子 4人	階段、酒類 各2人		ソファ、自転車等 各1人	

※その他、不明を除く

【事例 ころび】

椅子に座ろうとした際にバランスを崩して椅子ごと転倒、左大腿部を受傷し歩くことが出来なくなった（70代 重篤）。

(5) 切る・刺さる

ア 年代別の搬送人員

40代で4人発生しています（図4-11）。

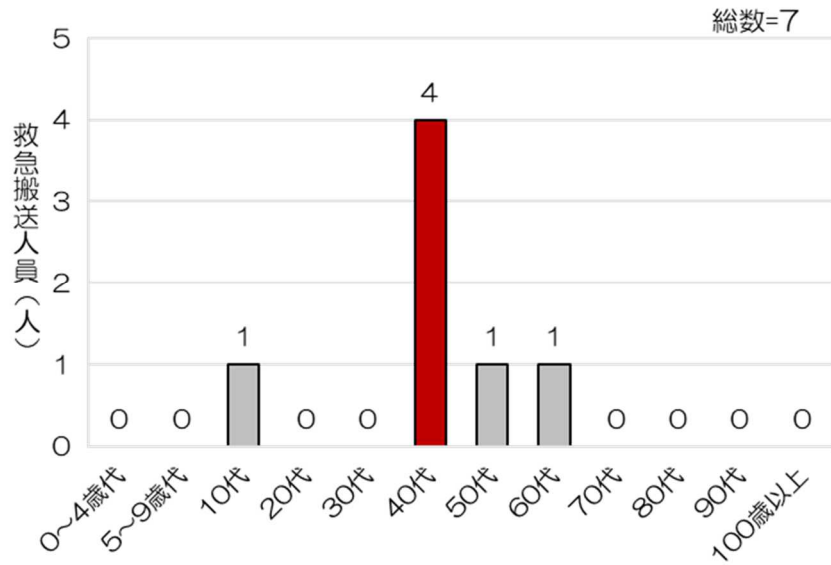


図4-11 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

ナイフ（刃物）での事故が多く生じています（表4-5）。

表4-5 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	裁断機 1人				
20代~50代	ナイフ 4人				
60代以上					

※その他、不明を除く

**【事例 切る・刺さる】**

スミキリ機（大型カッターの様な器具）を操作していた際に操作を誤り、右手中指を切断した。（10代 重篤）。

(6) ぶつかる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると40代、50代で多く発生しています（図4-12）。

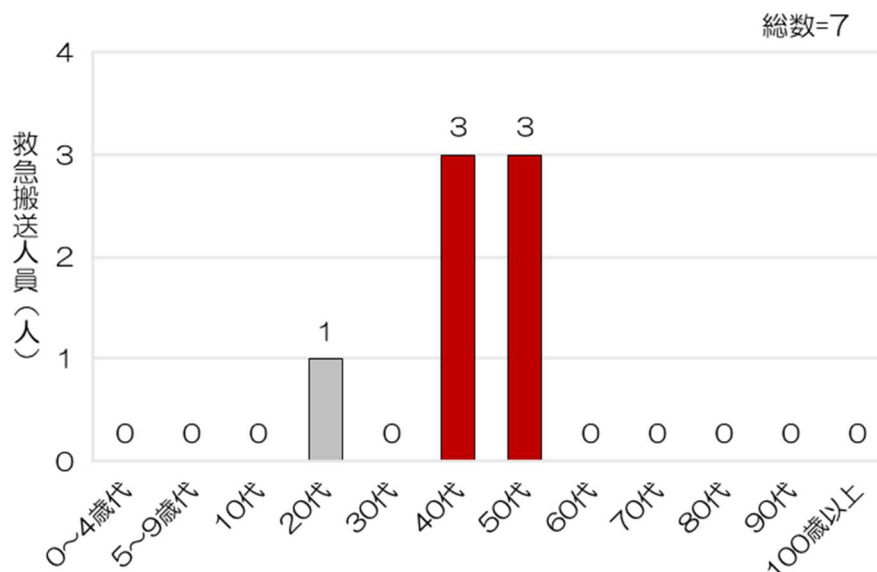


図4-12 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、**自転車**を使用中にぶつかる事故が発生しています。

20代以上では、**鉄道車両**にぶつかる事故等が発生しており、**労働中の事故**も発生しています（表4-6）。

表4-6 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

順位	1位	2位	3位	4位	5位
年代	20代~50代				
	庇、鉄道車両、自動車、建材等				
	各1人				

※その他、不明を除く

【事例 ぶつかる】

建築工事現場の3階で作業中に8階付近から重量約10tの鉄骨が傷病者付近に落下し下敷きになったもの。（40代 死亡）。

(7) はさむ・はさまれる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると50代で最も多く発生しています（図4-13）。

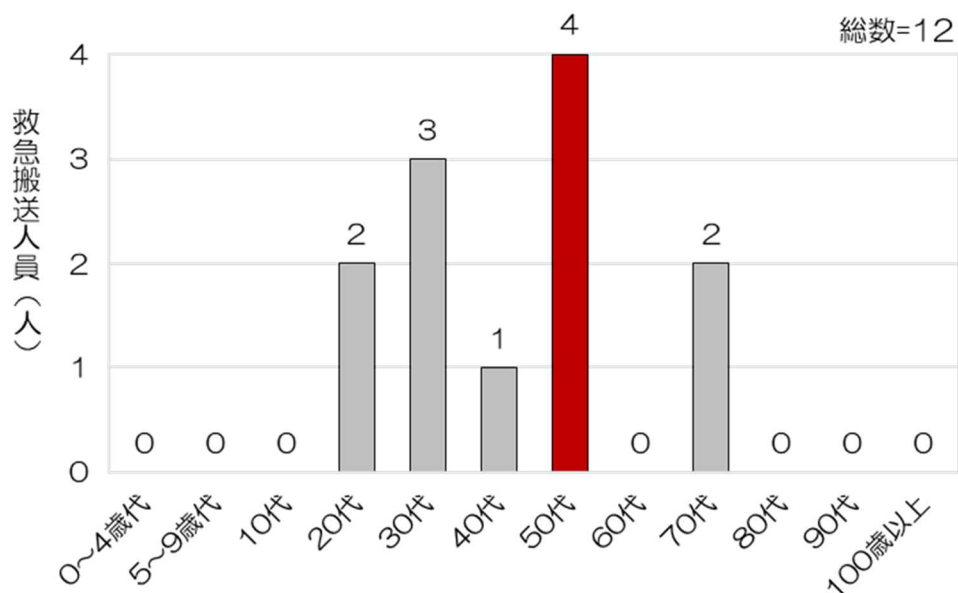


図4-13 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、「はさむ・はさまれる」事故による死亡・重篤事故は発生していません。

20代以上では、事故の要因にばらつきは見られますが、荷車や自動車等、仕事上の事故の割合が高くなっています（表4-7）。

表4-7 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	なし				
20代~50代	荷車、自動車、柱、壁・天井、荷物 各2人				
60代以上	自動車、鉄板 各1人				

※その他、不明を除く

【事例 はさむ・はさまれる】

トラックから荷物を降ろす作業中に飲み物類等が積載された重さ約100kgの荷台が倒れ、一時的に下敷きになり頭部を受傷した（50代 重篤）。

(8) やけど

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると70代で2名発生しています(図4-14)。

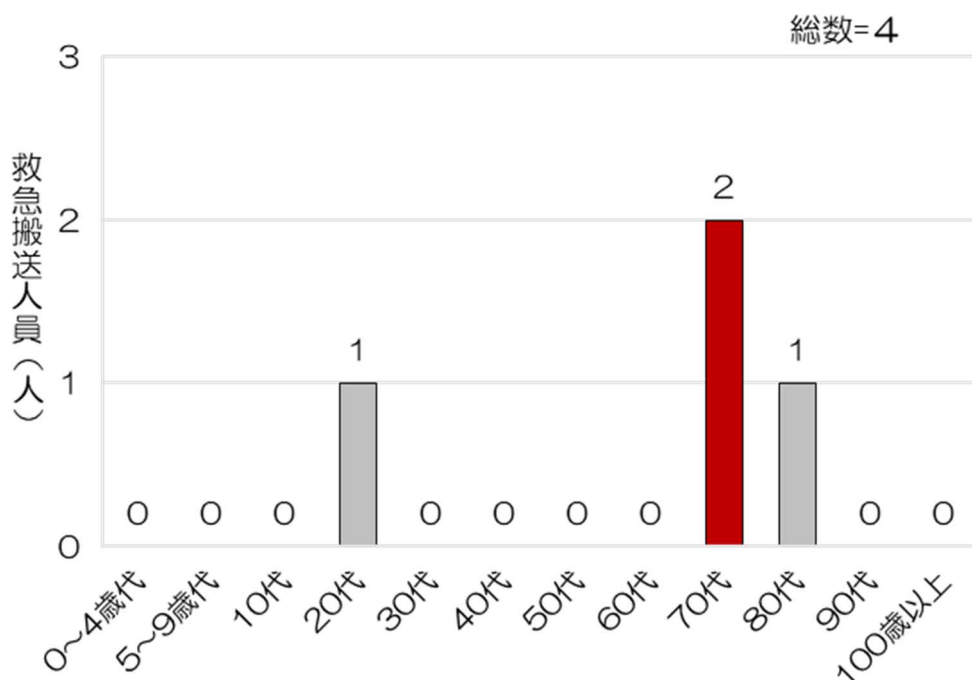


図4-14 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、「やけど」事故による死亡・重篤事故は発生していません。

20代以降では、熱湯や浴槽での要因とした事故が発生しています(表4-8)。

表4-8 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	なし				
20代~50代	熱湯				
	1人				
60代以上	浴槽	サウナ			
	2人	1人			

※その他、不明を除く

【事例 やけど】

自宅の浴室でバランス釜を使用し湯を沸かした後、誤って温度調節をせずに熱湯の入った浴槽に入浴し受傷した。(70代 重篤)。